

# 大学入学者選抜における英語 4 技能評価 及び記述式問題の実態調査の結果

（概要 速報版）

## 1 目的

各大学が実施する令和2年度大学入学者選抜について、選抜区分ごとに英語4技能の評価及び記述式出題の実施状況を含む入試方法の詳細を把握する。

## 2 実施時期および方法

令和2年7月14日～令和2年9月14日 eメールによる調査票の発送及び回答票回収（遅れて回答のあった大学も含め、令和2年9月30日までの回収分を集計）

## 3 対象

本調査は、全ての大学（学生募集停止の大学を除いた、国立大学、公立大学、私立大学の計771大学）を対象としている。  
回収数は699大学（2,222学部、46,007選抜区分）（回収率：90.7％）。

※ 掲載データについては精査中のものを含んでいる。

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 1. 学部別調査 .....                | 5   |
| 2. 入学者選抜の実態 .....             | 25  |
| 3. センター試験の利用の実態 .....         | 39  |
| 4. 個別選抜の実態 .....              | 48  |
| 5. 英語資格・検定試験の活用の実態 .....      | 82  |
| 6. 記述式問題等の出題の実態 .....         | 98  |
| 7. 入学者の多様性を確保するための取組の実態 ..... | 108 |
| 8. 自由記述欄 .....                | 117 |

# 定義

## 令和2年度大学入学者選抜実施要項（抄） ※下線は事務局にて付記

### 第3 入試方法

- 1 入学者の選抜は、調査書の内容、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーションその他の能力・適性等に関する検査、活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書、資格・検定試験等の成績、その他大学が適当と認める資料により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法（以下「一般入試」という。）による。
- 2 一般入試のほか、各大学の判断により、入学定員の一部について、以下のような多様な入試方法を工夫することが望ましい。
  - (1) アドミッション・オフィス入試  
詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。  
この方法による場合は、以下の点に留意する。
    - ① 入学志願者自らの意志で出願できる公募制とする。
    - ② アドミッション・オフィス入試の趣旨に鑑み、知識・技能の修得状況に過度に重点を置いた選抜基準とせず、合否判定に当たっては、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。
    - ③ 大学教育を受けるために必要な基礎学力の状況を把握するため、以下のア～エのうち少なくとも一つを行い、その旨を募集要項に記述する。
      - ア 各大学が実施する検査（筆記、実技、口頭試問等）による検査の成績を合否判定に用いる。
      - イ 大学入試センター試験の成績を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。
      - ウ 資格・検定試験等の成績等を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。
      - エ 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いる。
    - ④ ③ア～ウを行う場合にあっては、③エと組み合わせるなど調査書を積極的に活用することが望ましい。
  - (2) 推薦入試  
出身高等学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として評価・判定する入試方法。  
この方法による場合は、以下の点に留意する。
    - ① 高等学校の教科の評定平均値を出願要件（出願の目安）や合否判定に用い、その旨を募集要項に記述する。
    - ② 推薦書・調査書だけでは入学志願者の能力・意欲・適性等の評価・判定が困難な場合には、上記(1)③ア～ウの措置の少なくとも一つを講ずることが望ましい。

## 令和3年度大学入学者選抜実施要項（抄） ※下線は事務局にて付記

### 第3 入試方法

- 1 入学者の選抜は、調査書の内容、学力検査、小論文、「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（平成29年7月）」（以下「見直しに係る予告」という。）で示した入学志願者本人の記載する資料等\*により、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する入試方法（以下「一般選抜」という。）による。  
\*入学志願者本人が記載する資料の他、エッセイ、面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション、各種大会や顕彰等の記録、総合的な学習の時間などにおける生徒の探究的な学習の成果等に関する資料やその面談等。
- 2 一般選抜のほか、各大学の判断により、入学定員の一部について、以下のような多様な入試方法を工夫することが望ましい。
  - (1) 総合型選抜  
詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に評価・判定する入試方法。  
この方法による場合は、以下の点に留意する。
    - ① 入学志願者自らの意志で出願できる公募制という性格に鑑み、「見直しに係る予告」で示した入学志願者本人の記載する資料\*を積極的に活用する。  
\*入学志願者本人が記載する活動報告書、大学入学希望理由書及び学修計画書等。
    - ② 総合型選抜の趣旨に鑑み、合否判定に当たっては、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、高度な専門知識等が必要な職業分野に求められる人材養成を目的とする学部・学科等において、総合型選抜を実施する場合には、当該職業分野を目指すことに関する入学志願者の意欲・適性等を特に重視した評価・判定に留意する。
    - ③ 大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力も適切に評価するため、調査書等の出願書類だけではなく、「見直しに係る予告」で示した評価方法等\*又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。  
\*例えば、小論文等、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテスト、資格・検定試験の成績等。
  - (2) 学校推薦型選抜  
出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、以下の点に留意して評価・判定する入試方法。
    - ① 大学教育を受けるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力も適切に評価するため、高等学校の学習成績の状況など調査書・推薦書等の出願書類だけではなく、「見直しに係る予告」で示した評価方法等又は大学入学共通テストのうち少なくともいずれか一つを必ず活用し、その旨を募集要項に記述する。
    - ② 推薦書の中に、入学志願者本人の学習歴や活動歴を踏まえた第1に示す三つの要素に関する評価や、生徒の努力を要する点などその後の指導において特に配慮を要するものがあればその内容について記載を求める。

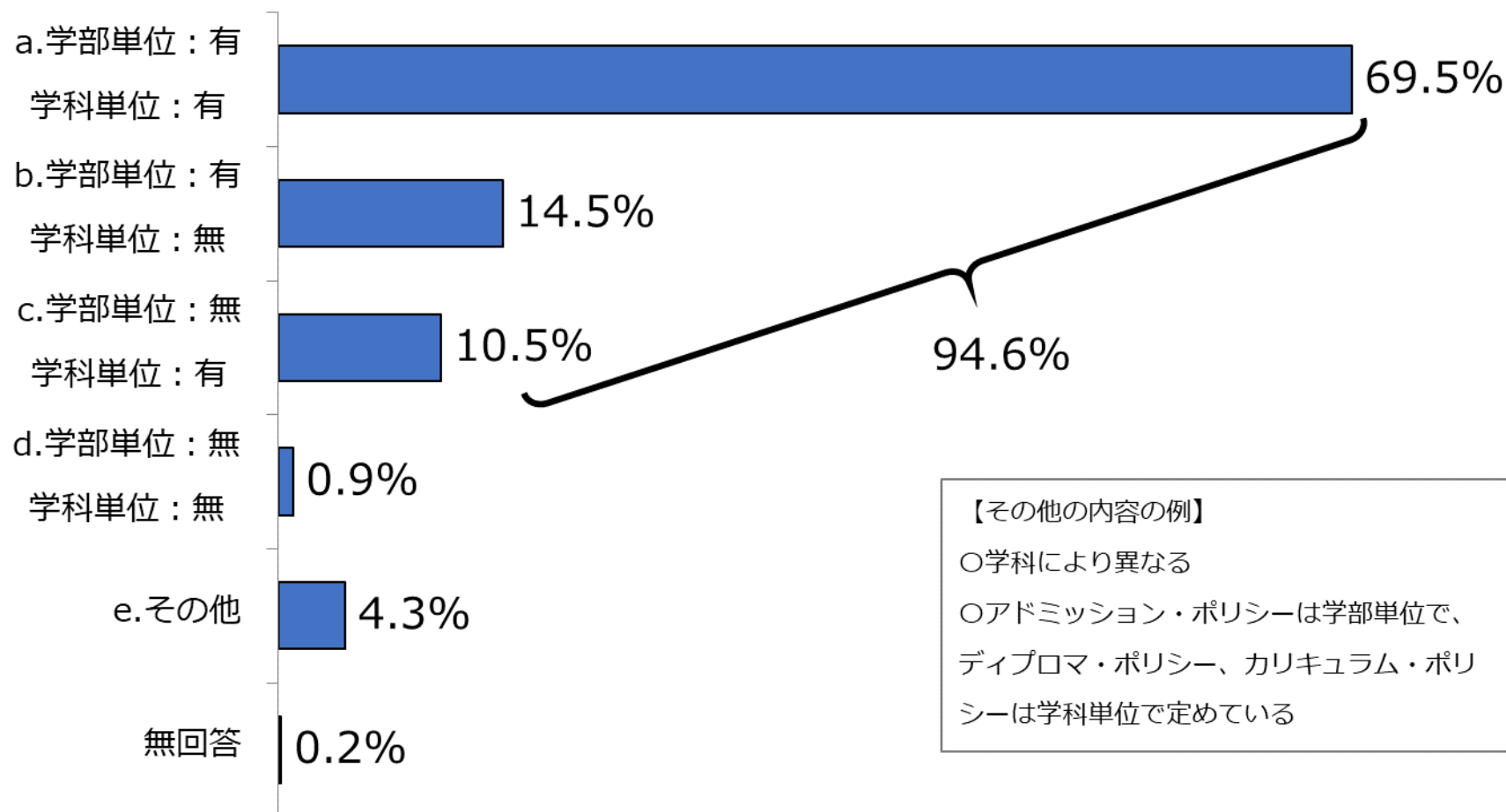
## 1. 学部別調査

|                                             |    |
|---------------------------------------------|----|
| ・ 3つの方針の策定の有無 .....                         | 5  |
| ・ 出題方針の策定・公表の有無 .....                       | 7  |
| ・ 3つの方針等における英語の能力に関する記載 .....               | 10 |
| ・ 3つの方針等における【思考力・判断力・表現力】の育成・評価に関する記載 ..... | 11 |
| ・ 個別学力検査試験問題の公表状況 .....                     | 12 |
| ・ 受験者本人への成績開示制度 .....                       | 13 |
| ・ 選抜の妥当性・信頼性等について検証を行っている事項 .....           | 14 |
| ・ 英語のスピーキング・ライティングの評価方法への意見 .....           | 15 |
| ・ 大学入試において思考力・判断力・表現力をどこで評価すべきか .....       | 18 |
| ・ 記述式問題への意見 .....                           | 21 |
| ・ 各入試方法における募集人員の増減予定 .....                  | 24 |



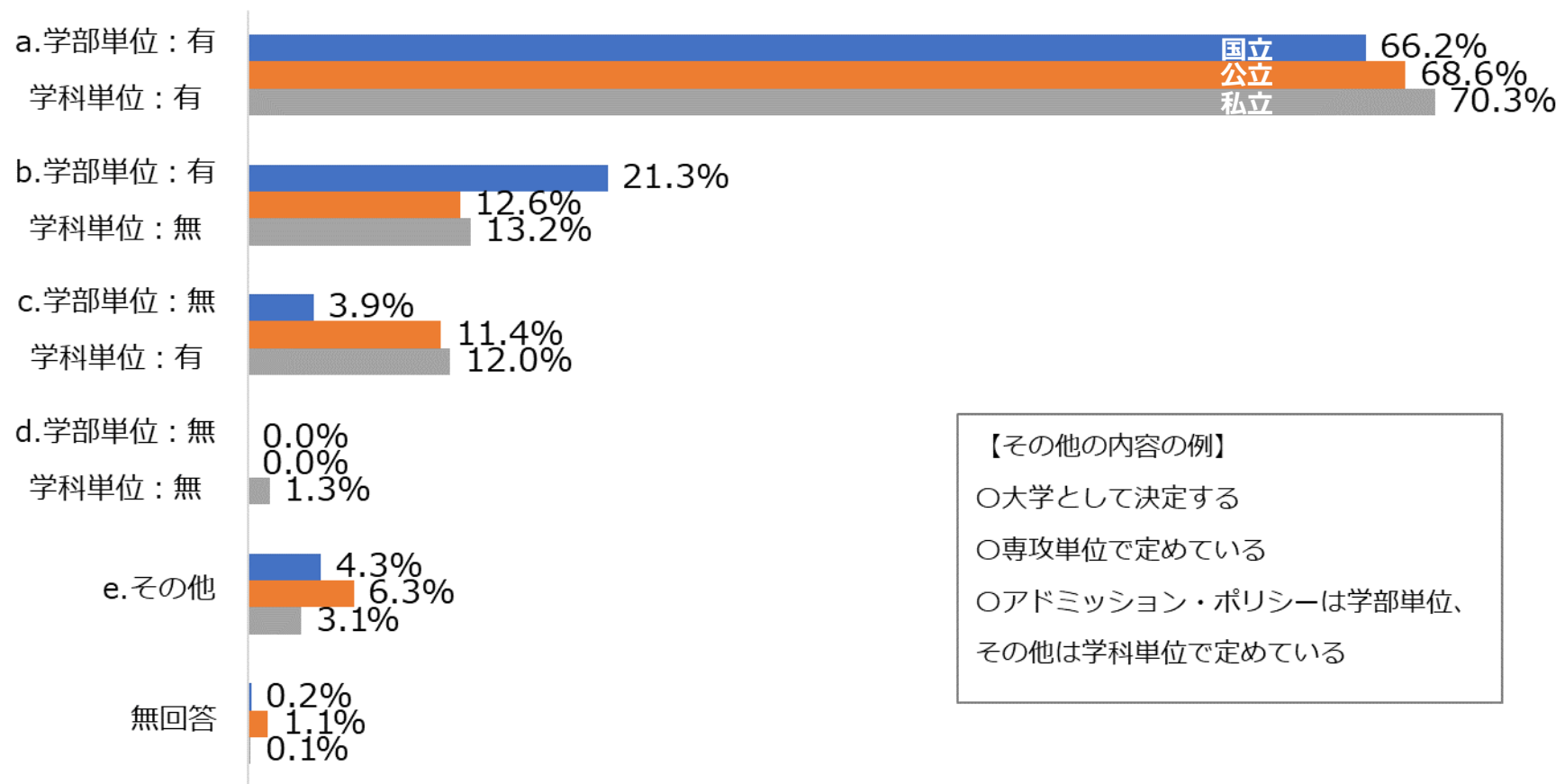
## 3つの方針の策定の有無

- 学部・学科単位両方で3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー））を定めている学部は69.5%。学部単位で定めている学部は14.5%、学科単位で定めている学部は10.5%。
- これらを合わせると、何らかの形で定めている学部は94.6%である。



## 3つの方針の策定の有無（国公立別）

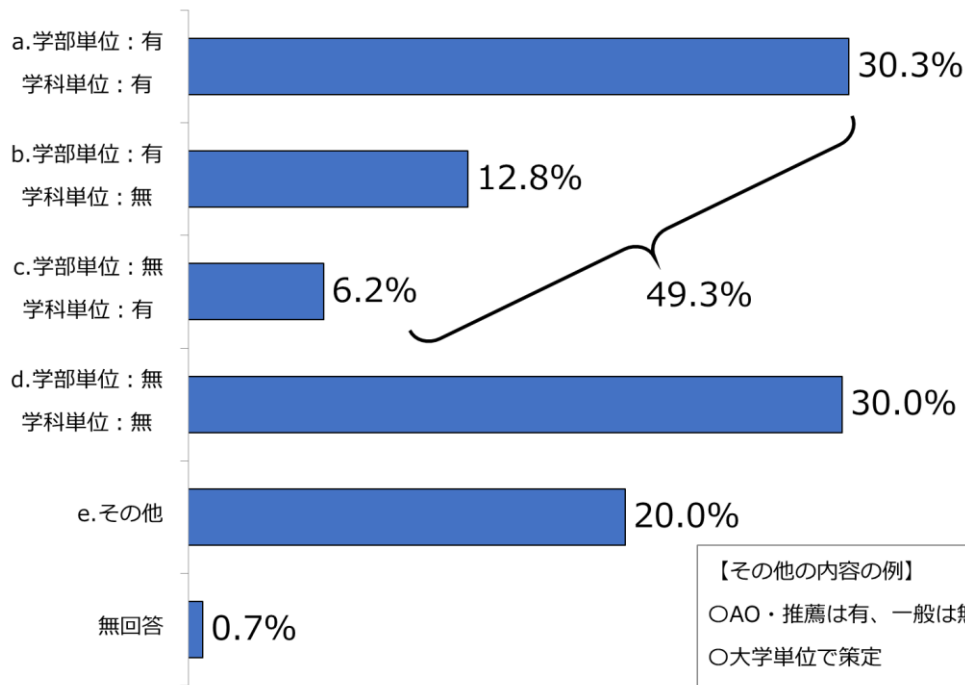
- 国公立別では、学部・学科単位両方で3つの方針を定めている学部はいずれも7割前後（国立：66.2%、公立：68.6%、私立：70.3%）である。
- これに、学部単位で定めている学部（国立：21.3%、公立：12.6%、私立：13.2%）、学科単位で定めている学部（国立：3.9%、公立：11.4%、私立：12.0%）を合わせると、何らかの形で定めている学部は国立では91.4%、公立は92.6%、私立は95.5%である。



# 出題方針の策定・公表の有無

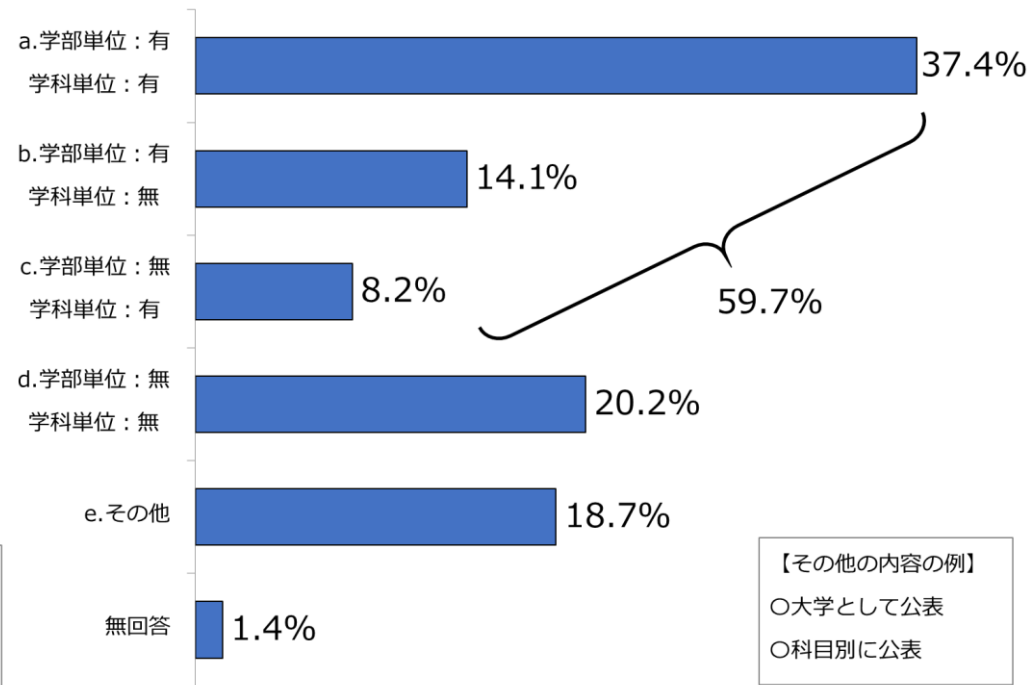
- 出題方針の策定状況は、学部と学科の両方、学部ないし学科で定めている学部を合わせると半数程度 (a+b+c=49.3%)。
- 出題方針を「d.学部・学科とも策定していない」と回答した学部を除く1,556学部に対して、公表状況に関して質問したところ、「a.学部・学科とも公表」は37.4%、「b.学部のみで公表」は14.1%、「c.学科のみで公表」は8.2%となっており、これらを合わせて59.7%の学部が学部と学科の両方、学部ないし学科で出願方針を公表している。

出題方針の策定の有無



n=2,222学部  
単数回答

出題方針の公表の有無

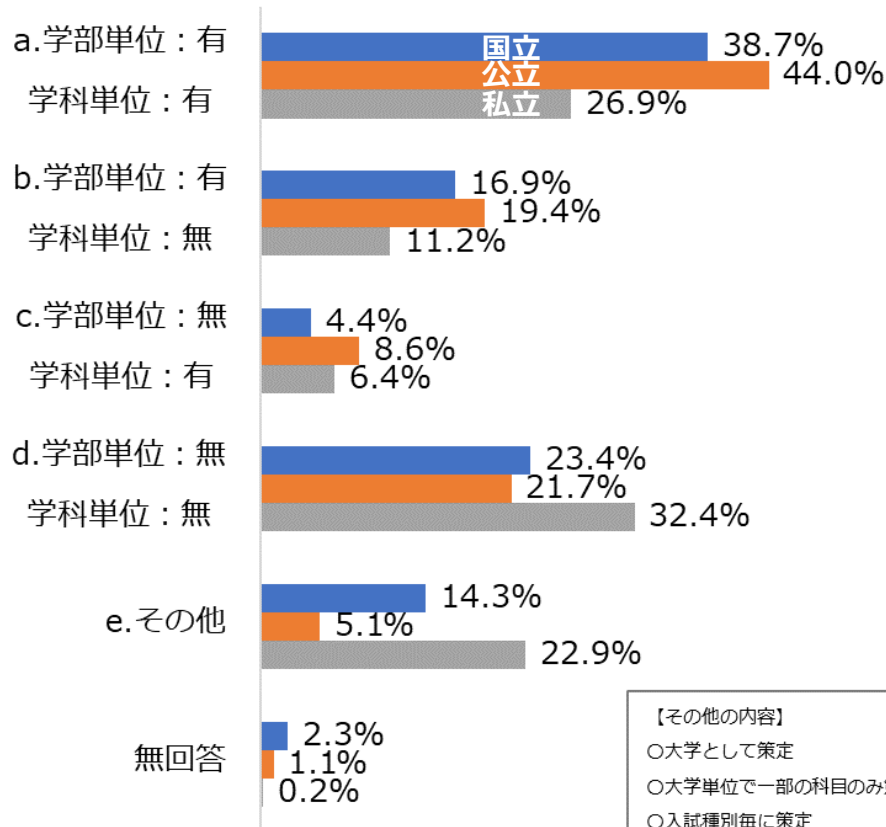


n=1,556学部  
(出題方針をd.学部・学科とも策定していない学部を除く)  
単数回答

# 出題方針の策定・公表の有無・公表（国公立別）

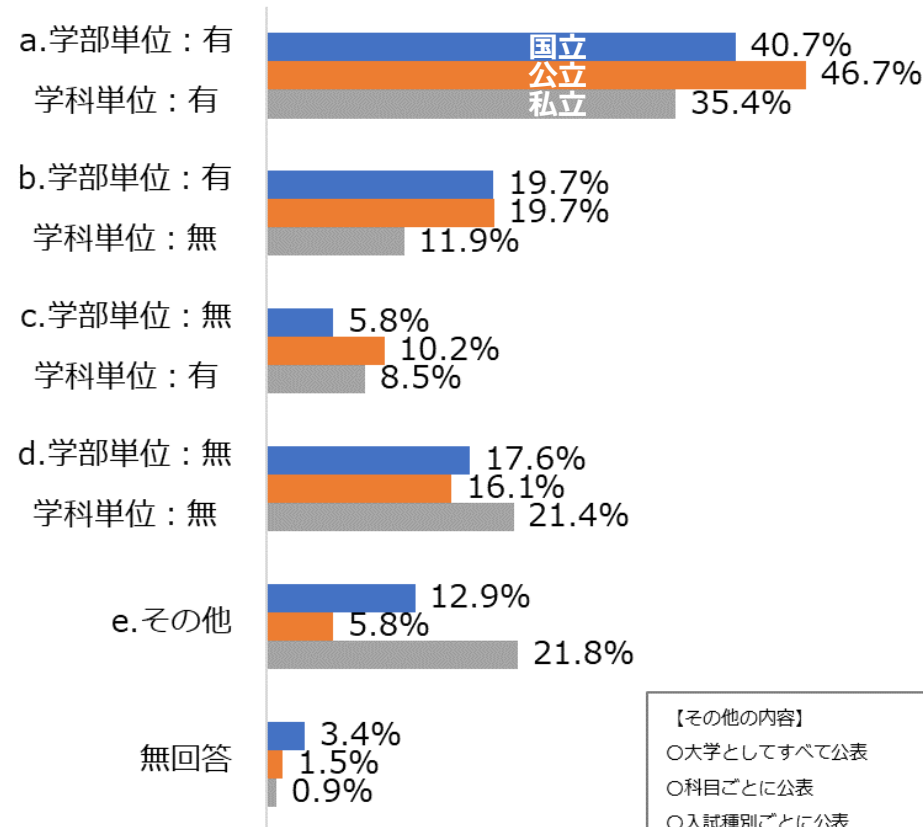
- 国公立別での策定状況は、学部と学科の両方、学部ないし学科で定めている学部を合わせる(a+b+c)と国立は60.0%、公立は72.0%、私立は44.5%である。
- 出題方針を「d.学部・学科とも策定していない」と回答した学部を除く1,556学部に対して、公表状況に関して質問したところ、学部と学科の両方、学部ないし学科で出願方針を公表している学部を合わせる(a+b+c)と国立では66.2%、公立は76.6%、私立は55.8%である。

出題方針の策定の有無



国立 n=385学部 公立 n=175学部 私立 n=1,662学部  
単数回答

出題方針の公表の有無

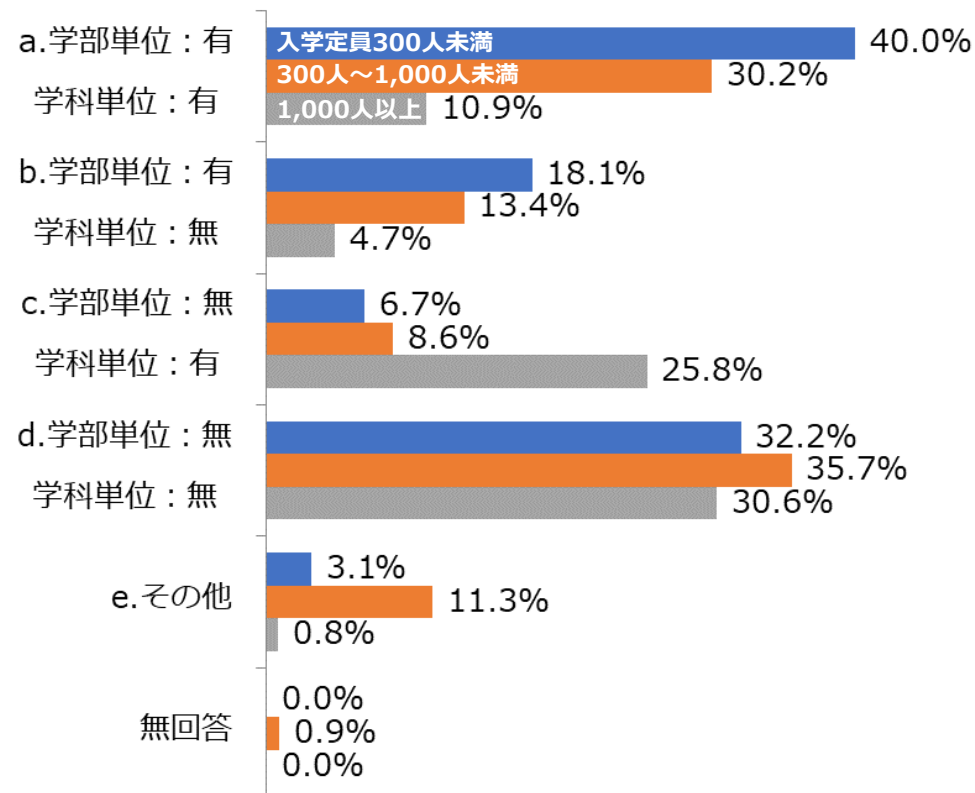


国立 n=295学部 公立 n=137学部 私立 n=1,124学部  
(出題方針を「d.学部・学科とも策定していない」学部を除く)  
単数回答

# 出題方針の策定の有無・公表（大学規模別）

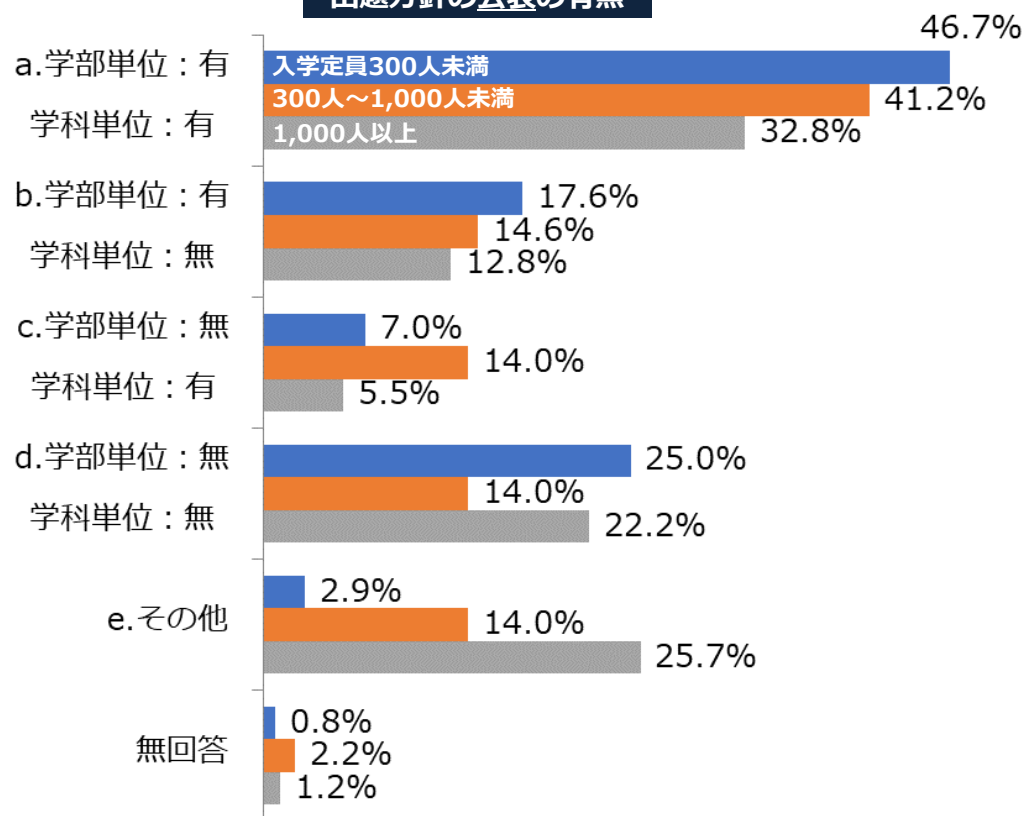
- 大学規模別での策定状況は、学部と学科の両方、学部ないし学科で定めている学部を合わせる(a+b+c)と入学定員300人未満では64.8%、300人～1,000人未満は52.2%、1,000人以上は41.4%である。
- 出題方針を「d.学部・学科とも策定していない」と回答した学部を除く1,556学部に対して、公表状況に関して質問したところ、学部と学科の両方、学部ないし学科で出題方針を公表している学部を合わせる(a+b+c)と、入学定員300人未満では71.3%、300人～1,000人未満は69.8%、1,000人以上は51.1%である。

出題方針の策定の有無



入学定員300人未満 n=360学部  
300人～1,000人未満 n=701学部  
1,000人以上 n=1,161学部  
単数回答

出題方針の公表の有無

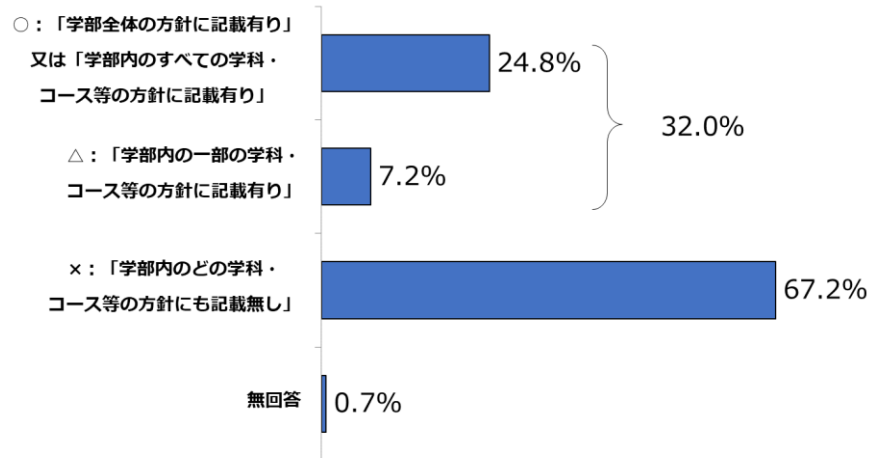


300人未満 n=244学部 300人～1,000人未満 n=451学部 1,000人以上 n=861学部  
(出題方針を「d.学部・学科とも策定していない」学部を除く)  
単数回答

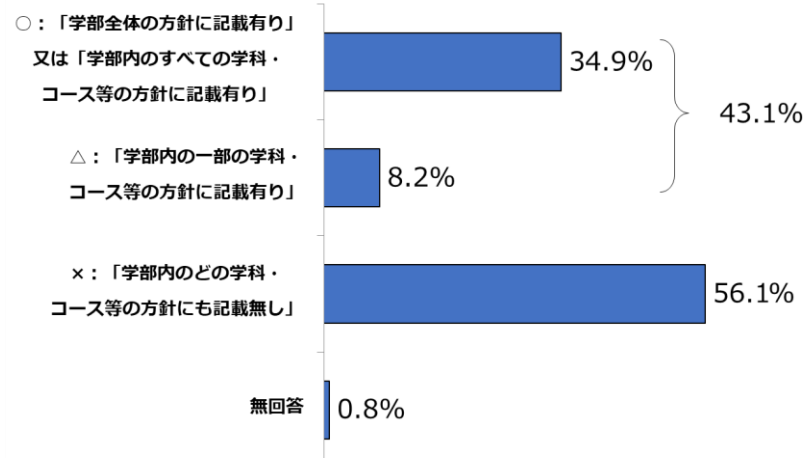
# 3つの方針等における英語の能力に関する記載

英語の能力について、①卒業認定・学位授与の方針への記載が「学部全体の方針に記載有り」又は「学部内のすべての学科・コース等の方針に記載有り」は24.8%、②教育課程編成・実施の方針への記載は34.9%、③入学者の受入れに関する方針への記載は37.0%、④出題方針への記載は26.7%である。

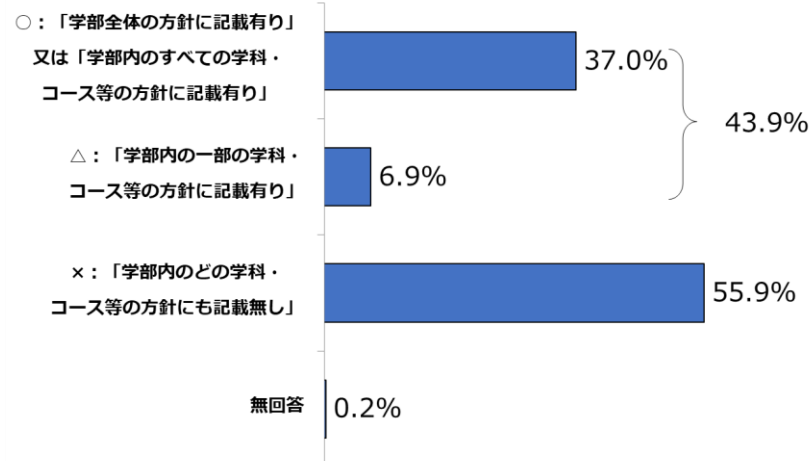
【①卒業認定・学位授与の方針】



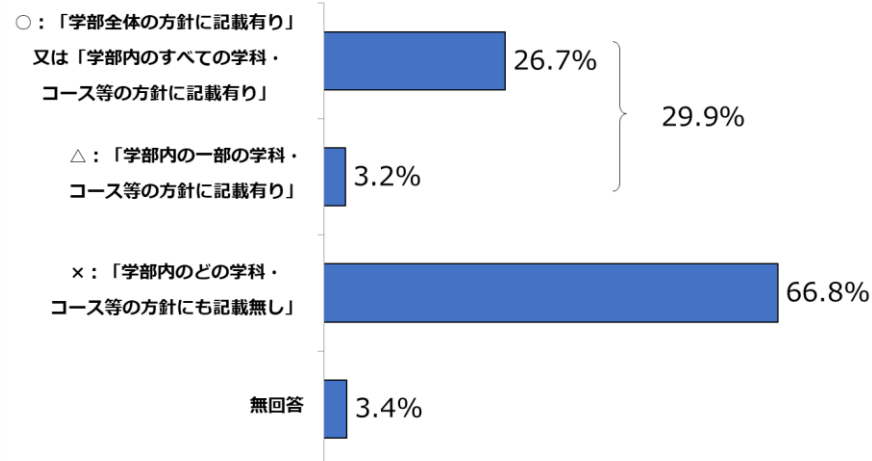
【②教育課程編成・実施の方針】



【③入学者受入れの方針】



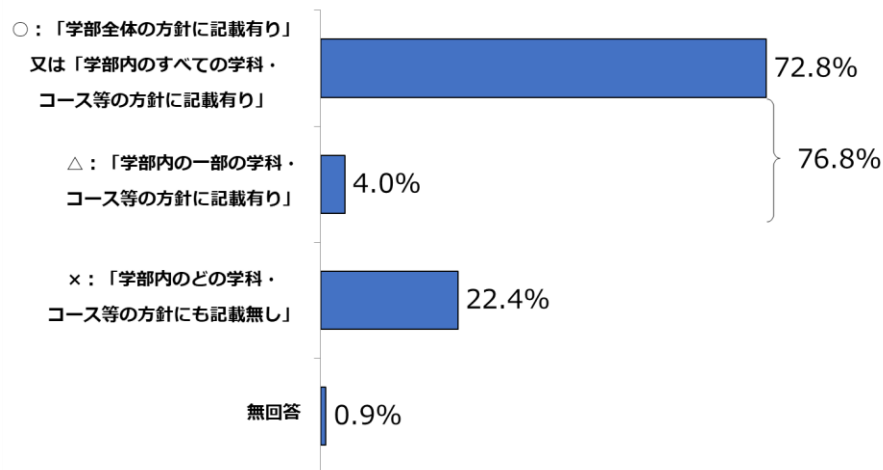
【④出題方針】



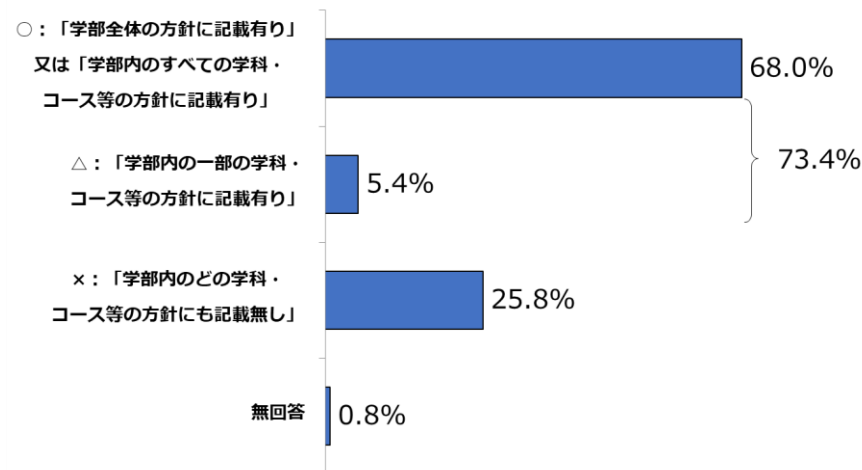
# 3つの方針等における【思考力・判断力・表現力】の育成・評価に関する記載

【思考力・判断力・表現力】の育成・評価について、①卒業認定・学位授与の方針への記載が「学部全体の方針に記載有り」又は「学部内のすべての学科・コース等の方針に記載有り」は72.8%、②教育課程編成・実施の方針への記載は68.0%、③入学者の受入れに関する方針への記載は80.4%、④出題方針への記載は45.3%である。

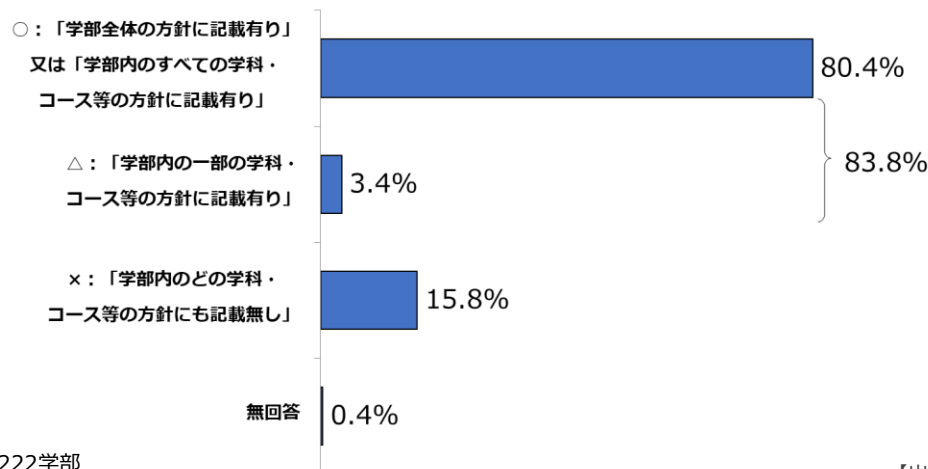
## 【①卒業認定・学位授与の方針】



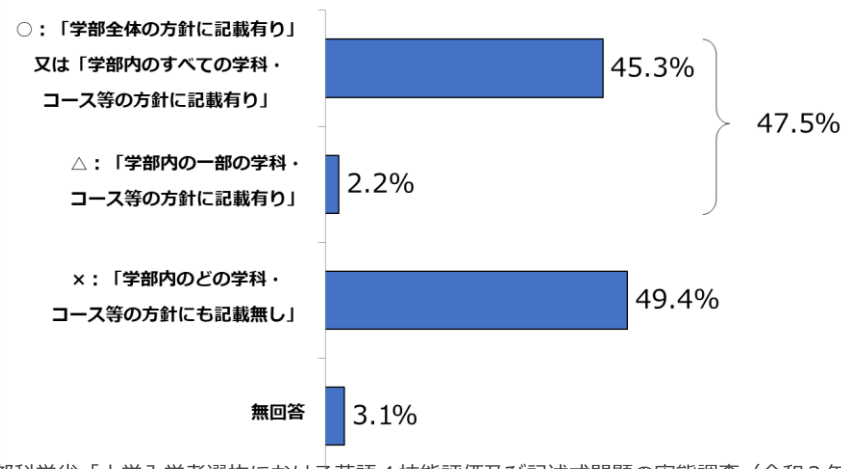
## 【②教育課程編成・実施の方針】



## 【③入学者受入れの方針】



## 【④出題方針】



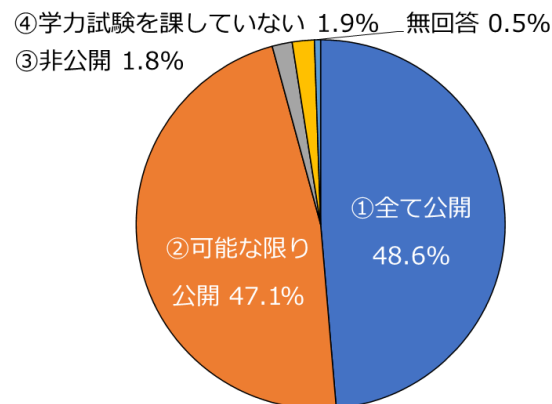


# 個別学力検査試験問題の公表状況

個別学力検査試験問題を全て公開する学部(48.6%)、可能な限り公開する学部(47.1%)を合わせると9割以上になる。問題を公開していない学部は1.8%である。

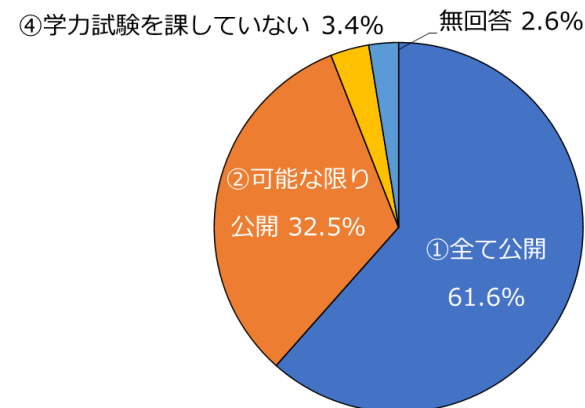
## 全 体

(n=2,222学部・単数回答)



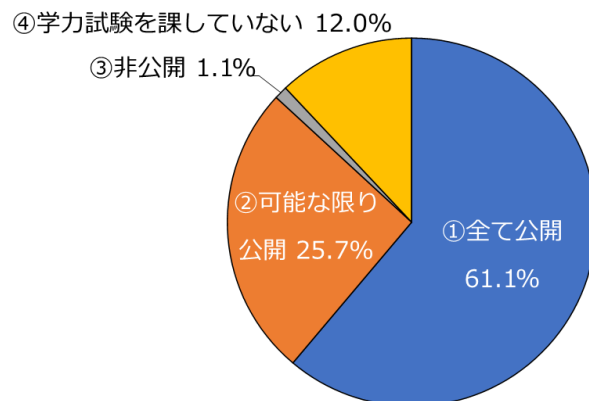
## 国立大学

(n=385学部・単数回答)



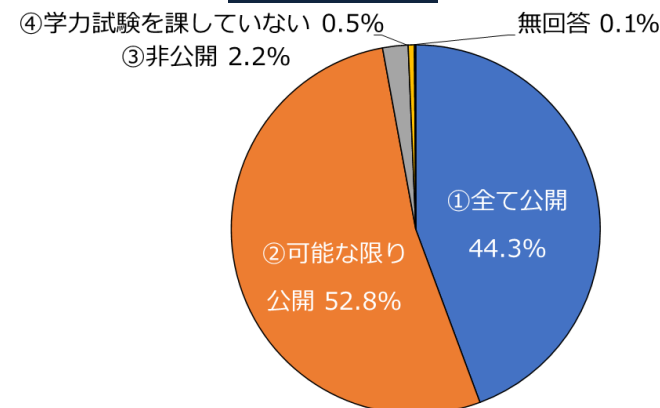
## 公立大学

(n=175学部・単数回答)



## 私立大学

(n=1,662学部・単数回答)



### 【参考】大学入学者選抜実施要項（抄）

#### 第13 その他注意事項

##### 2 入試情報の取扱い

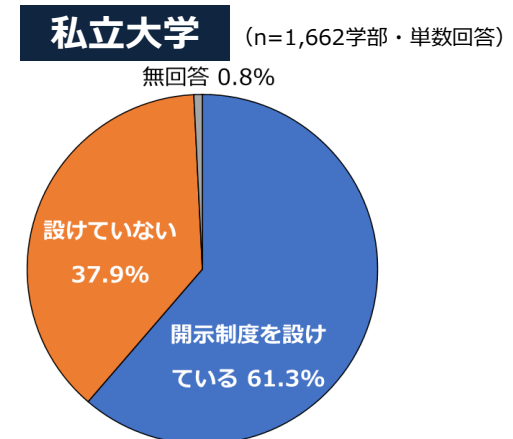
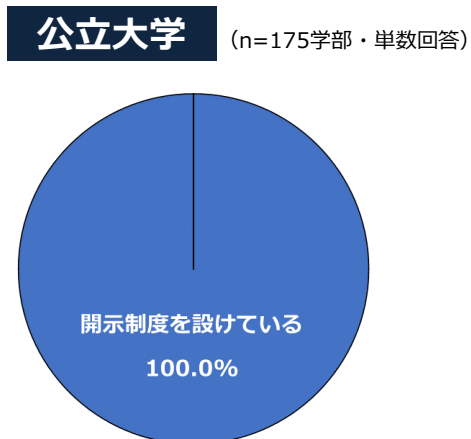
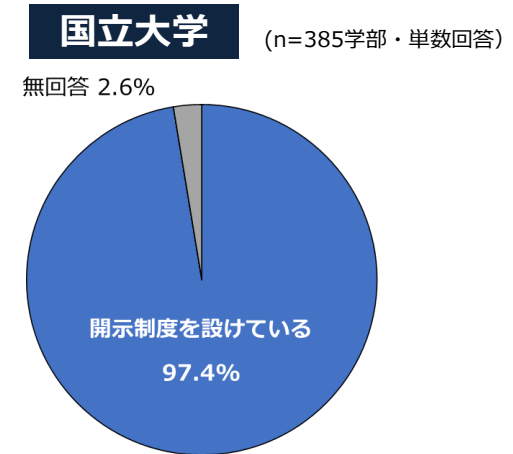
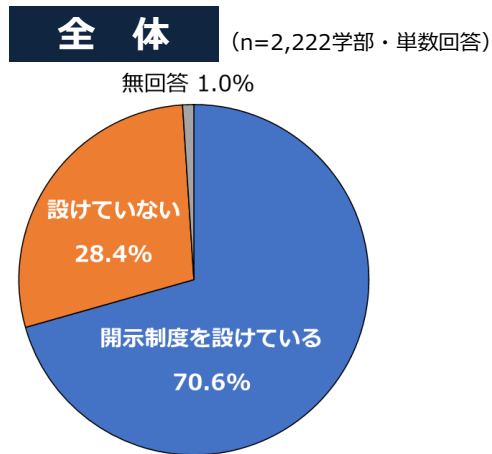
(1)個別学力検査における試験問題やその解答については、当該入試の実施以降に受験者や次年度以降の入学志願者が学習上参考にできるようにするため、次のとおり取り扱うものとする。

①試験問題については、原則として公表するものとする。（略）



# 受験者本人への成績開示制度

受験者本人への成績開示制度を設けている割合は70.6%である。



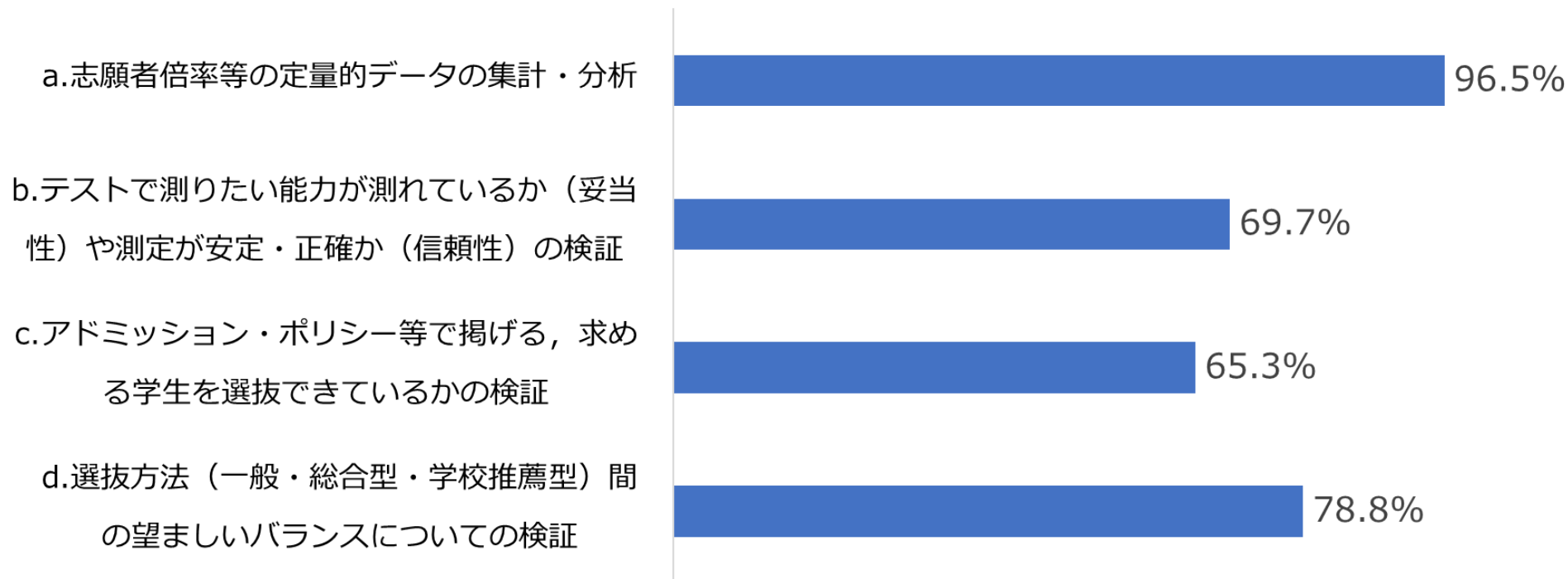
## 【参考】大学入学者選抜実施要項（抄）

### 第13 その他注意事項

#### 2 入試情報の取扱い

(2) 各大学は、受験者本人への成績開示（略）等の入試情報の積極的開示に努める。（略）

## 選抜の妥当性・信頼性等の検証



### 【参考】大学入学者選抜実施要項（抄）

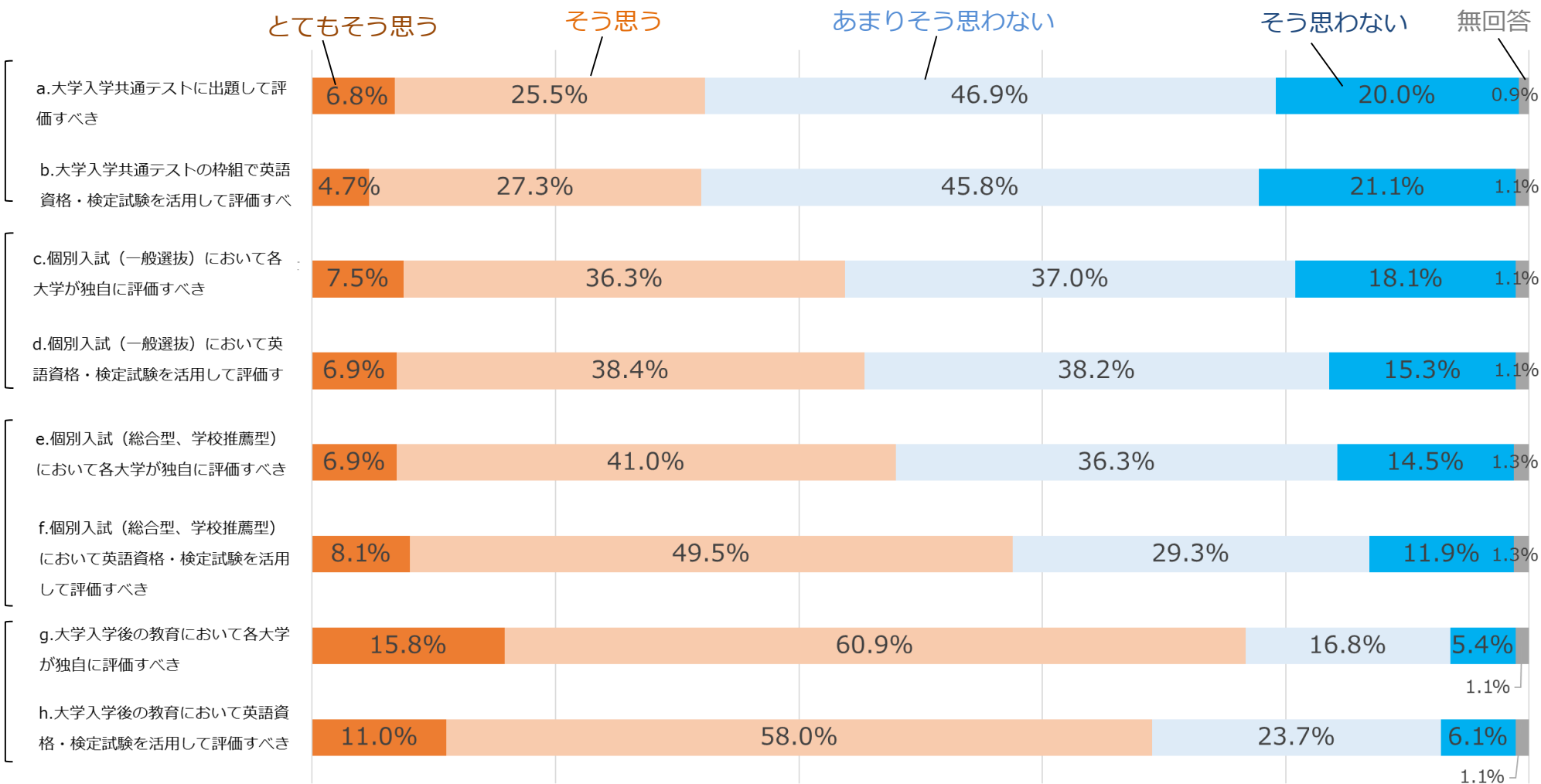
#### 第13 その他注意事項

##### 8 その他

(1) 各大学は，入試に関する研究委員会を設け，入学者の追跡調査等により，選抜の妥当性・信頼性の検証を行い，その成果を入試に反映させることが望ましい。

# 英語のスピーキング・ライティングの評価方法への意見

英語のスピーキング・ライティングの評価方法について、肯定的回答（とてもそう思う＋そう思う）をしたのが、  
「a.共通テストで評価」で32.3%、「b.共通テストの枠組みで英語資格・検定試験を活用して評価」で32.0%、  
「c.一般入試で独自に評価」で43.8%、「d.一般入試で英語資格・検定試験を活用して評価」で45.3%、  
「d.総合型入試等で独自に評価」で45.3%、「f. 総合型入試等において英語資格・検定試験を活用して評価」で57.6%、  
「g.入学後に独自に評価」で76.7%、「h.入学後に英語資格・検定試験を活用して評価」で69.0%。



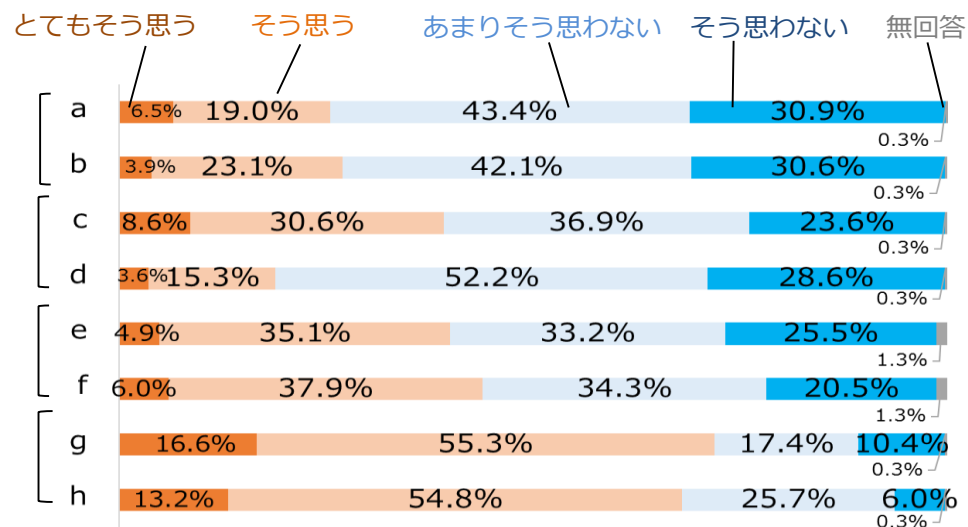
n=2,222学部  
単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語 4 技能評価及び記述式問題の実態調査（令和 2 年度）」

# 英語のスピーキング・ライティングの評価方法への意見（国公立別）

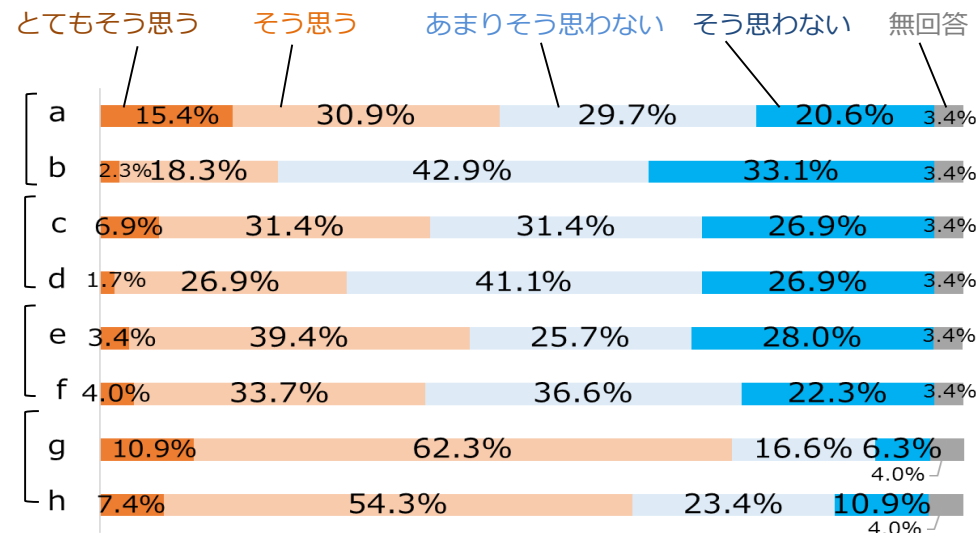
## 国立大学

(n=385学部・単数回答)



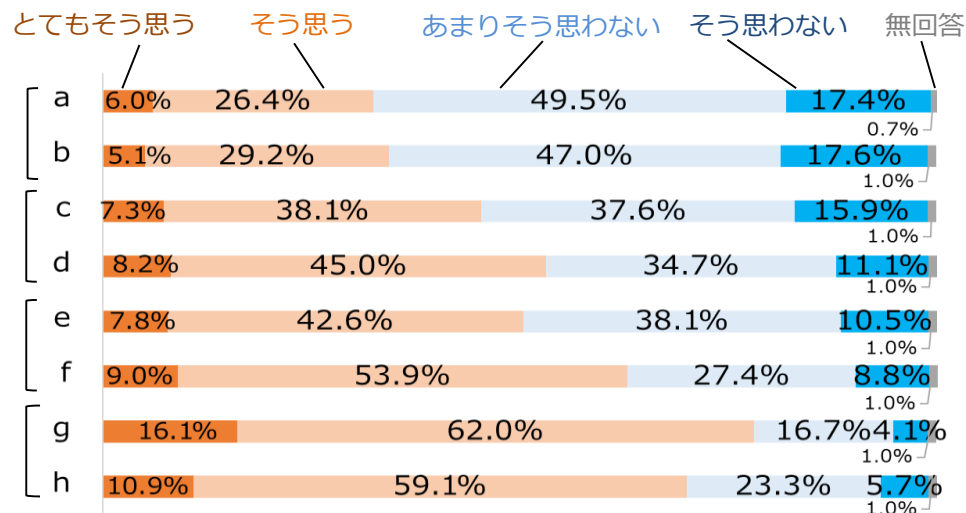
## 公立大学

(n=175学部・単数回答)



## 私立大学

(n=1,662学部・単数回答)



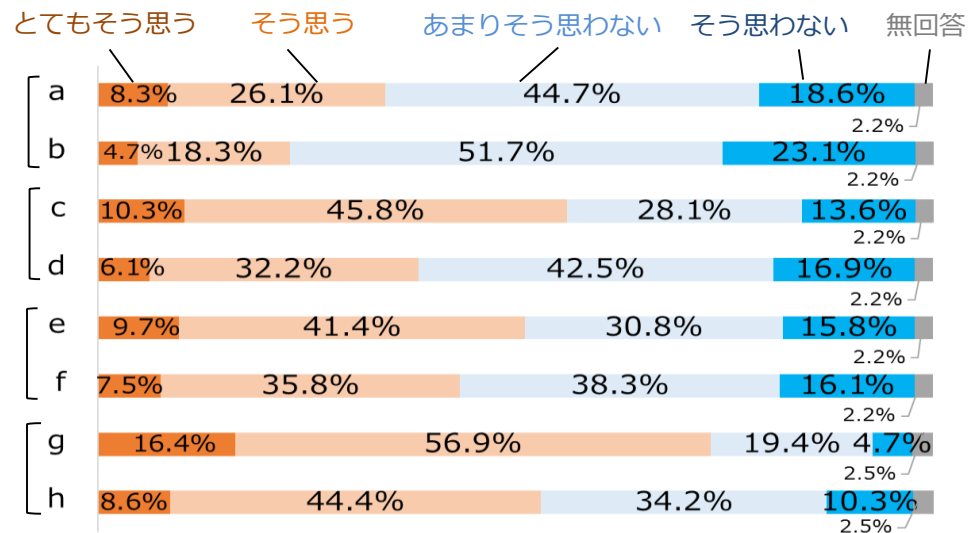
### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストに出題して評価すべき
- b. 大学入学共通テストの枠組で英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- c. 個別入試（一般選抜）において各大学が独自に評価すべき
- d. 個別入試（一般選抜）において英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- e. 個別入試（総合型、学校推薦型）において各大学が独自に評価すべき
- f. 個別入試（総合型、学校推薦型）において英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- g. 大学入学後の教育において各大学が独自に評価すべき
- h. 大学入学後の教育において英語資格・検定試験を活用して評価すべき

# 英語のスピーキング・ライティングの評価方法への意見（大学規模別）

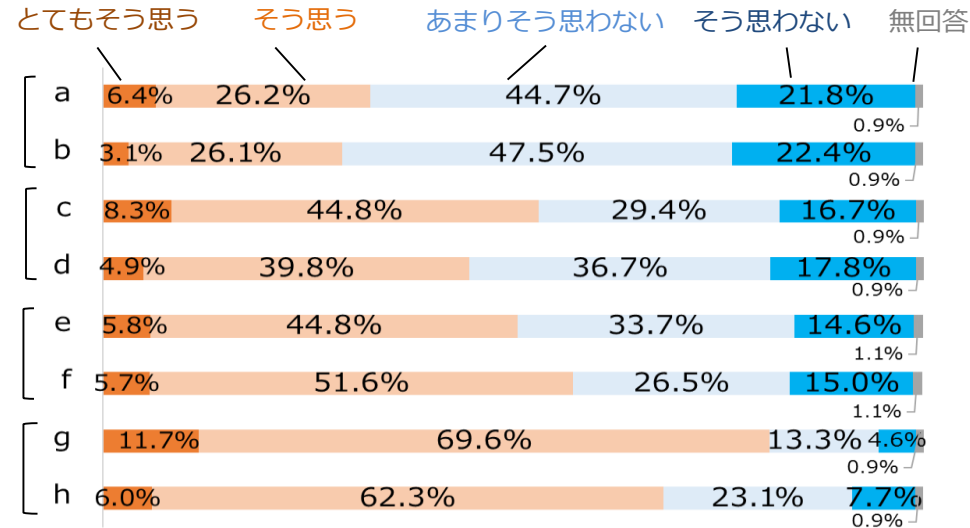
## 入学定員：300人未満

(n=360学部・単数回答)



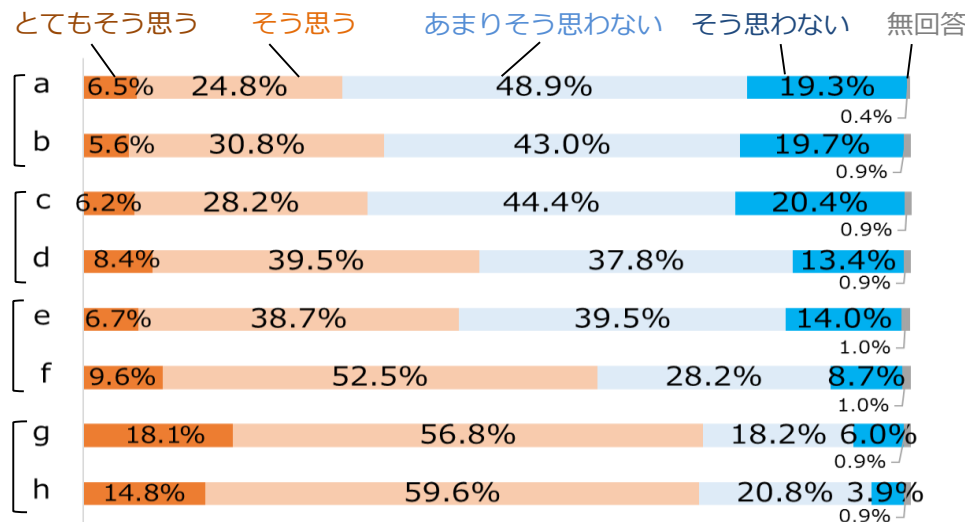
## 入学定員：300人～1,000人未満

(n=701学部・単数回答)



## 入学定員：1,000人以上

(n=1,161学部・単数回答)

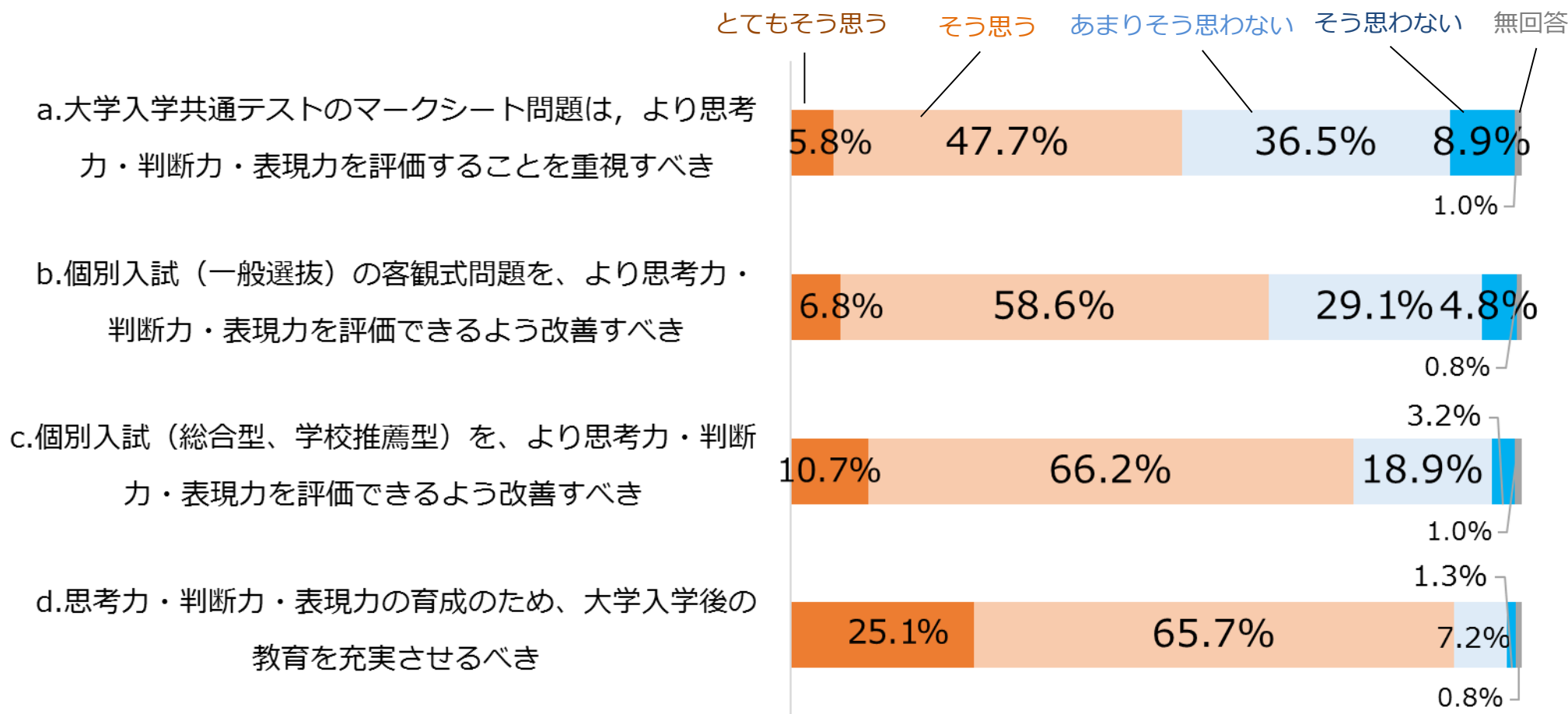


### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストに出題して評価すべき
- b. 大学入学共通テストの枠組で英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- c. 個別入試（一般選抜）において各大学が独自に評価すべき
- d. 個別入試（一般選抜）において英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- e. 個別入試（総合型、学校推薦型）において各大学が独自に評価すべき
- f. 個別入試（総合型、学校推薦型）において英語資格・検定試験を活用して評価すべき
- g. 大学入学後の教育において各大学が独自に評価すべき
- h. 大学入学後の教育において英語資格・検定試験を活用して評価すべき

# 大学入試において思考力・判断力・表現力をどこで評価すべきか

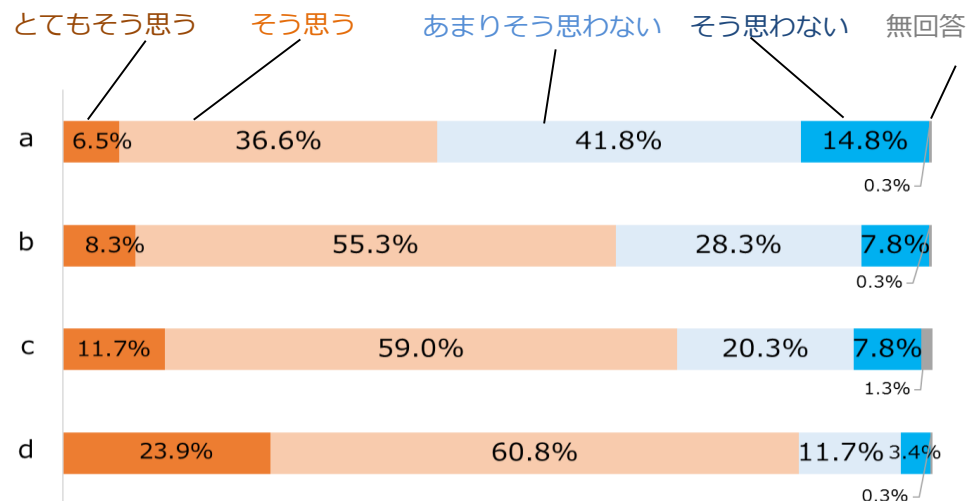
大学入試において思考力・判断力・表現力を評価すべきかについて、肯定的回答（とてもそう思う＋そう思う）をしたのが、  
「a.共通テストで評価」で53.5%、  
「b.一般入試で評価」で65.4%、  
「c.総合型入試等で評価」で76.9%、  
「d.入学後に充実」で90.8%。



# 大学入試において思考力・判断力・表現力をどこで評価すべきか（国公立別）

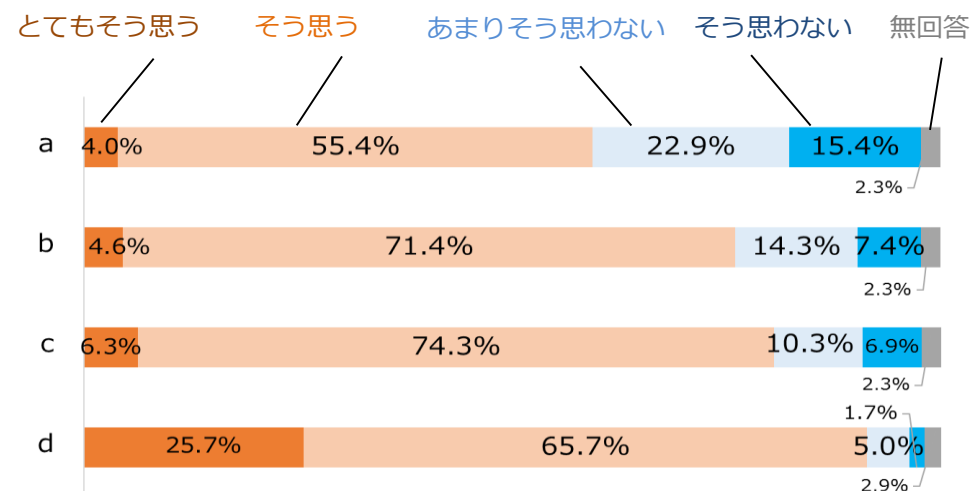
## 国立大学

(n=385学部・単数回答)



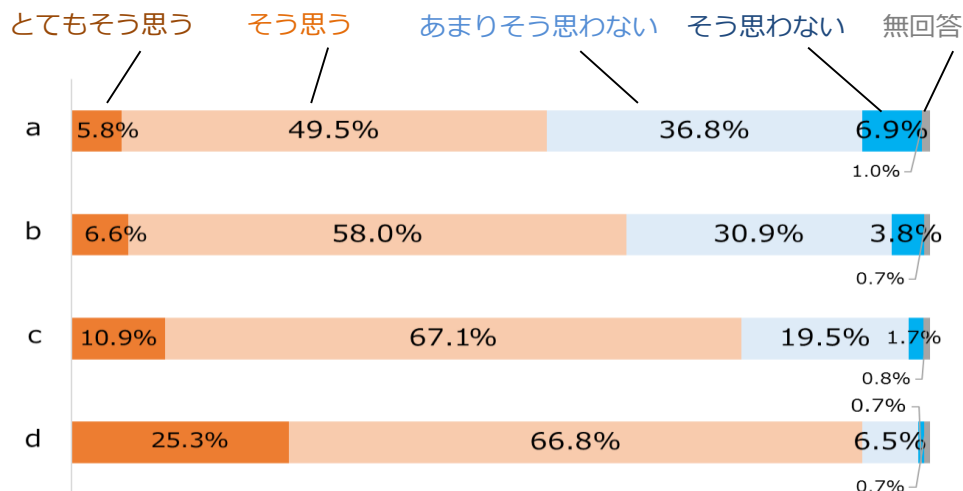
## 公立大学

(n=175学部・単数回答)



## 私立大学

(n=1,662学部・単数回答)



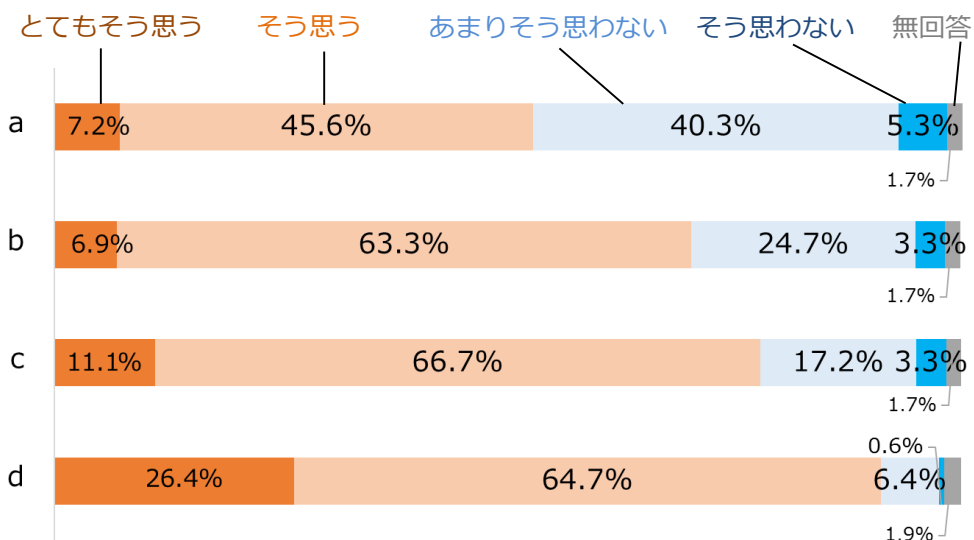
### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストのマークシート問題は、より思考力・判断力・表現力を評価することを重視すべき
- b. 個別入試（一般選抜）の客観式問題を、より思考力・判断力・表現力を評価できるよう改善すべき
- c. 個別入試（総合型、学校推薦型）を、より思考力・判断力・表現力を評価できるよう改善すべき
- d. 思考力・判断力・表現力の育成のため、大学入学後の教育を充実させるべき

# 大学入試において思考力・判断力・表現力をどこで評価すべきか（大学規模別）

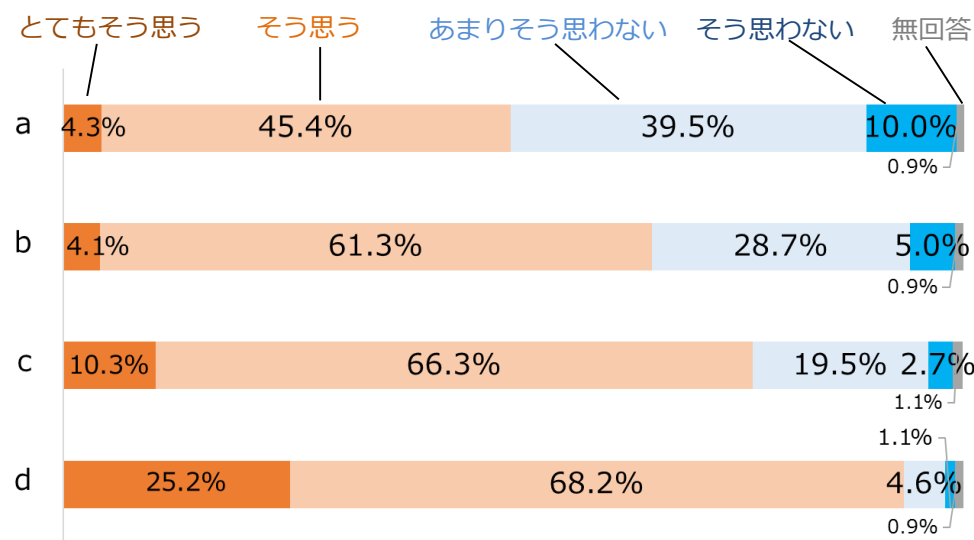
## 入学定員：300人未満

(n=360学部・単数回答)



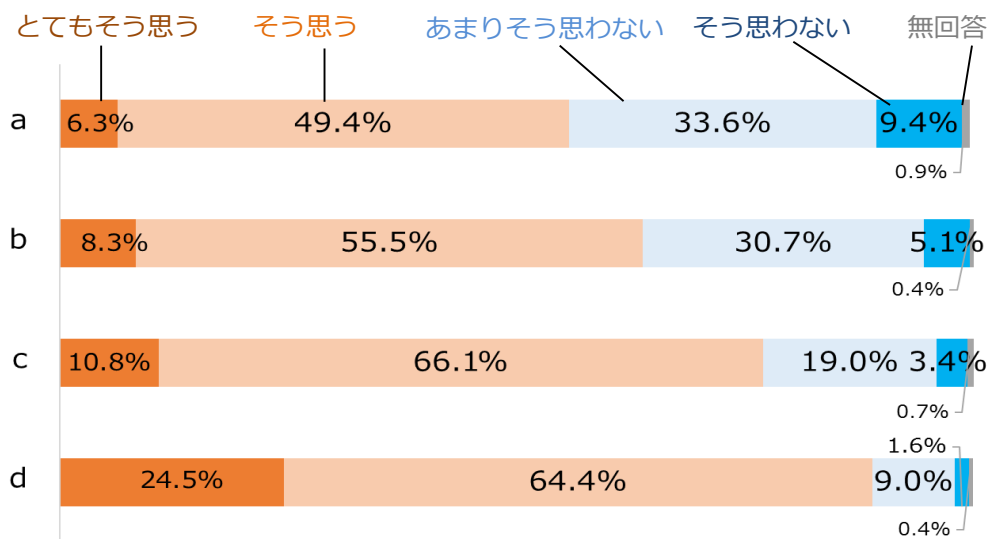
## 入学定員：300人～1,000人未満

(n=701学部・単数回答)



## 入学定員：1,000人以上

(n=1,161学部・単数回答)



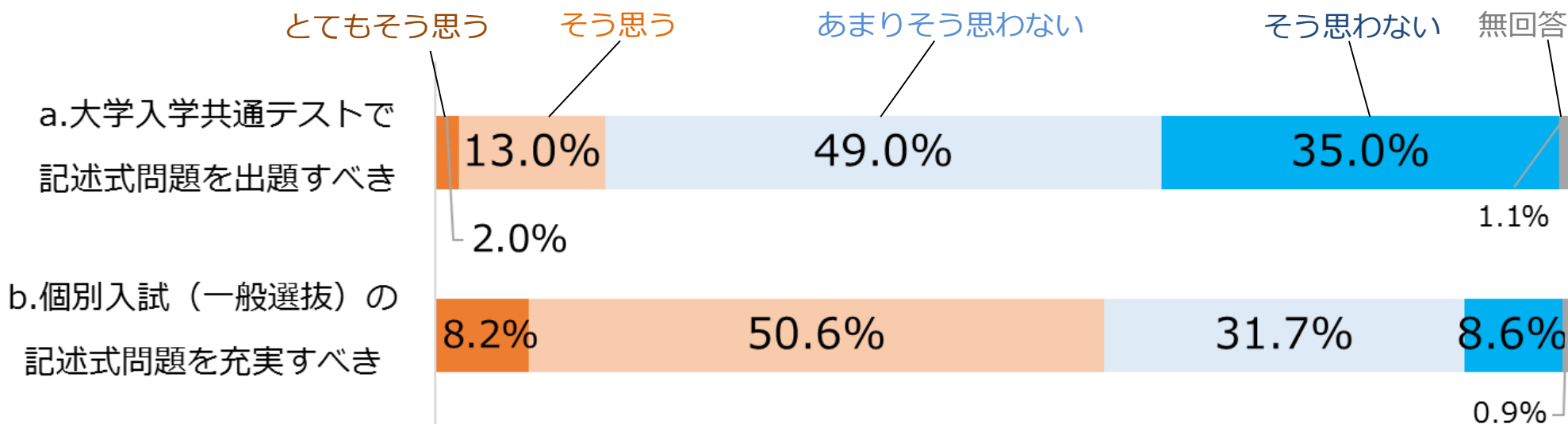
### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストのマークシート問題は、より思考力・判断力・表現力を評価することを重視すべき
- b. 個別入試（一般選抜）の客観式問題を、より思考力・判断力・表現力を評価できるよう改善すべき
- c. 個別入試（総合型、学校推薦型）を、より思考力・判断力・表現力を評価できるよう改善すべき
- d. 思考力・判断力・表現力の育成のため、大学入学後の教育を充実させるべき



## 記述式問題への意見

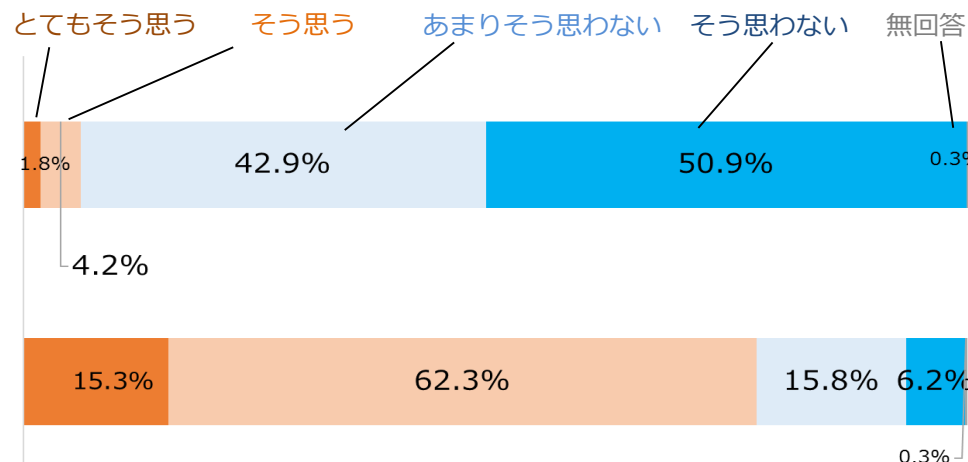
記述式問題について、肯定的回答（とてもそう思う＋そう思う）をしたのが、  
「a.共通テストで出題」で15.0%、  
「b.一般入試で充実」で58.8%。



# 記述式問題への意見（国公立別）

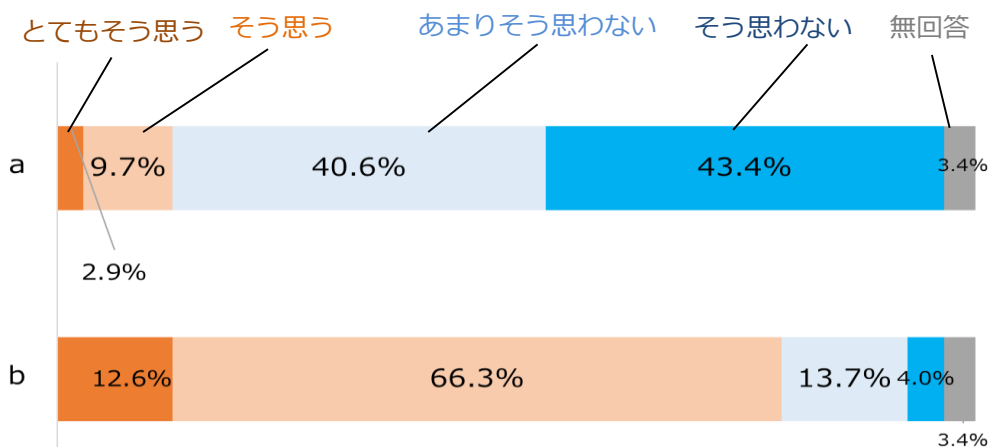
## 国立大学

(n=385学部・単数回答)



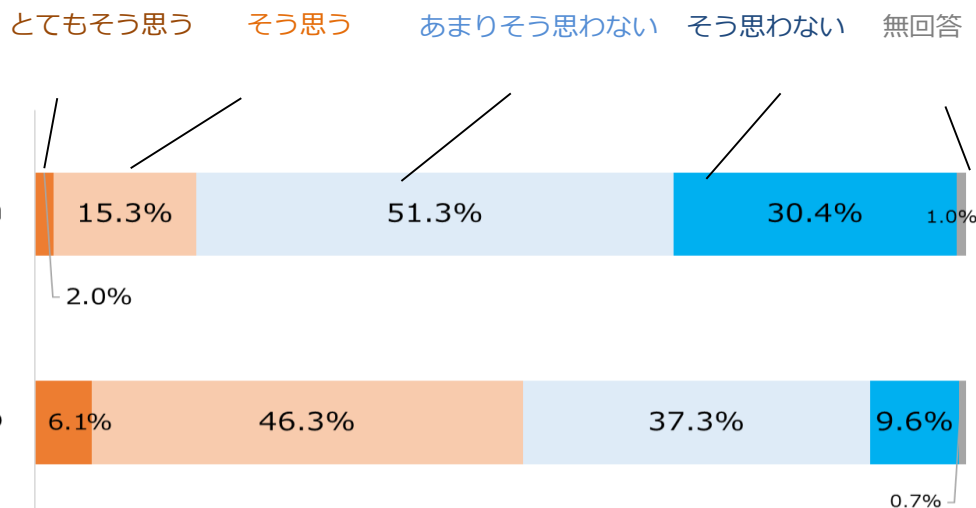
## 公立大学

(n=175学部・単数回答)



## 私立大学

(n=1,662学部・単数回答)



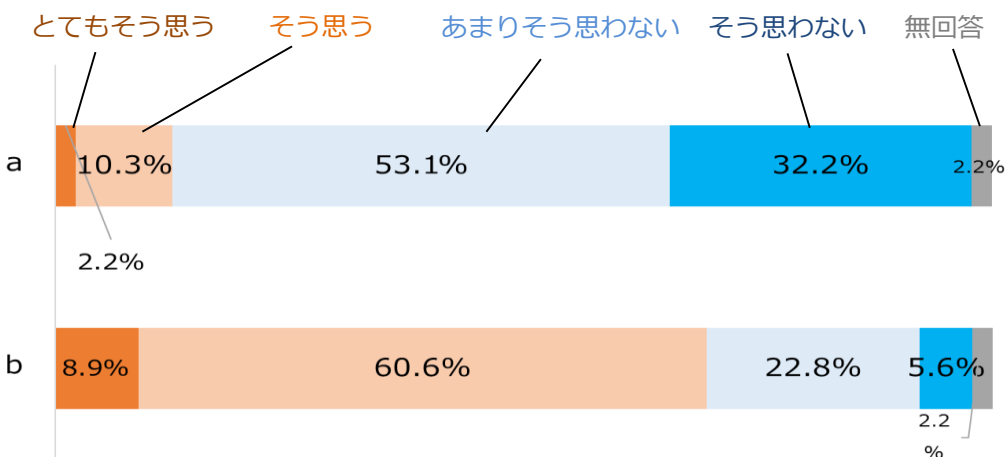
### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストで記述式問題を出題すべき
- b. 個別入試（一般選抜）の記述式問題を充実すべき

# 記述式問題への意見（大学規模別）

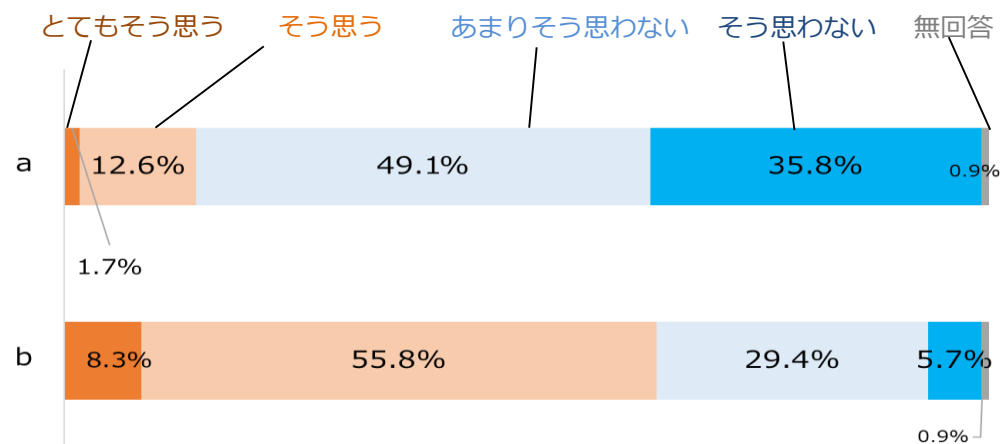
## 入学定員：300人未満

(n=360学部・単数回答)



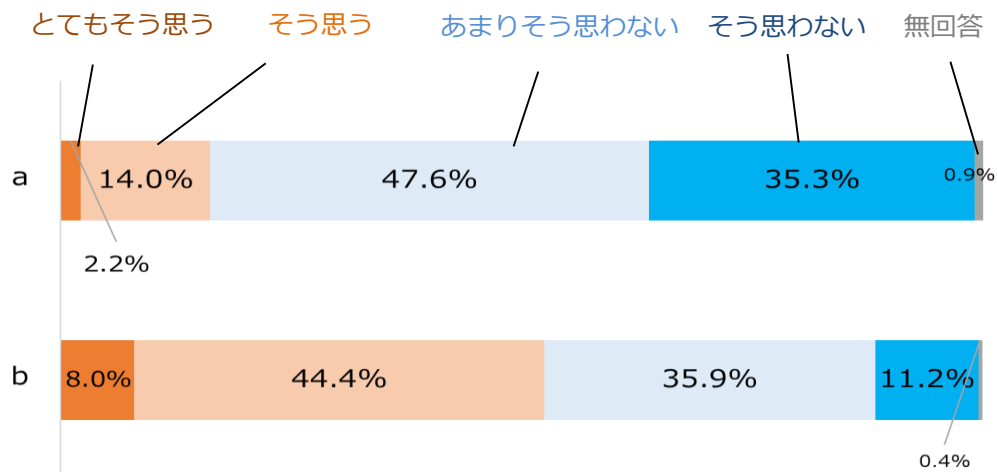
## 入学定員：300人～1,000人未満

(n=701学部・単数回答)



## 入学定員：1,000人以上

(n=1,161学部・単数回答)



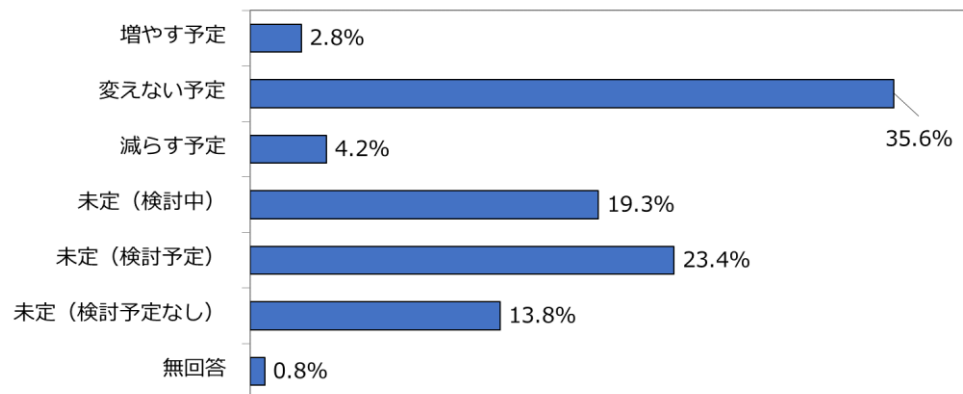
### 【アルファベットの意味】

- a. 大学入学共通テストで記述式問題を出題すべき
- b. 個別入試（一般選抜）の記述式問題を充実すべき

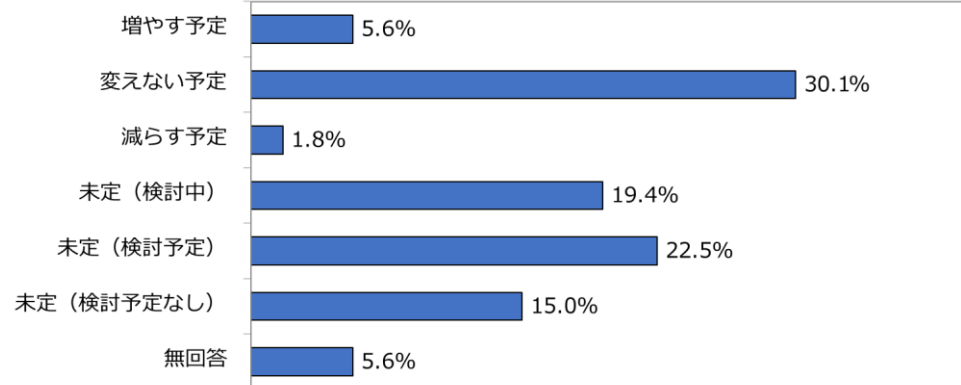
# 各入試方法における募集人員の増減予定

入試方法は今後も変えない予定を選択した大学が一般選抜で35.6%、総合型選抜で30.1%、学校推薦型選抜で34.6%。一方、検討中・検討予定と選択した大学は一般選抜で42.7%、総合型選抜で41.9%、学校推薦型選抜で43.5%。

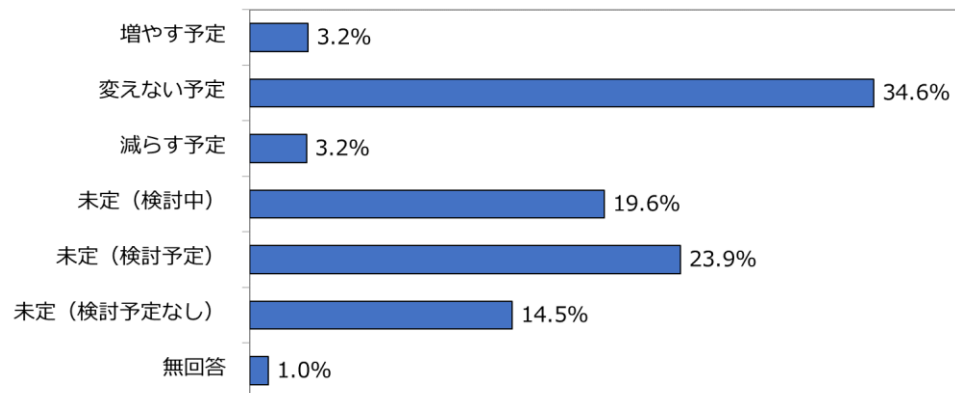
## 一般選抜



## 総合型選抜



## 学校推薦型選抜

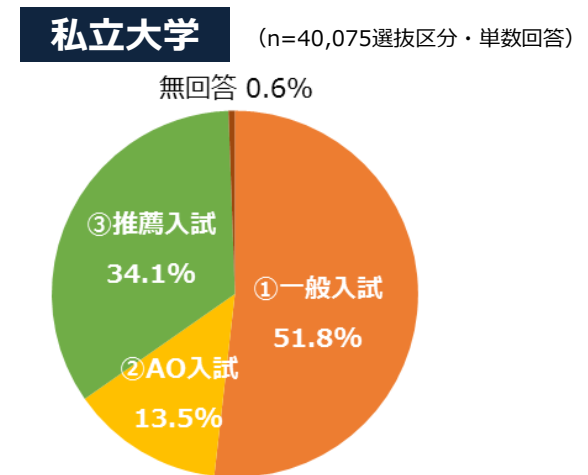
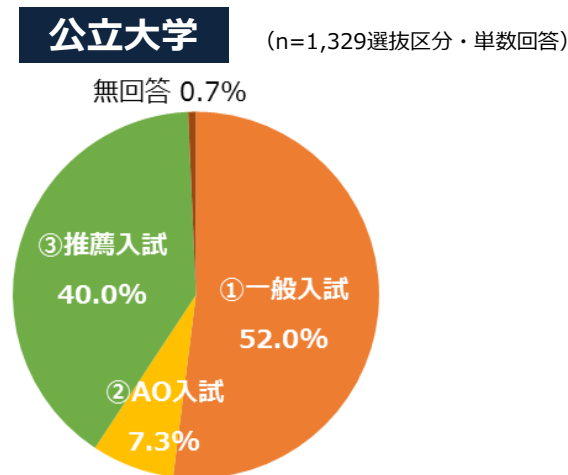
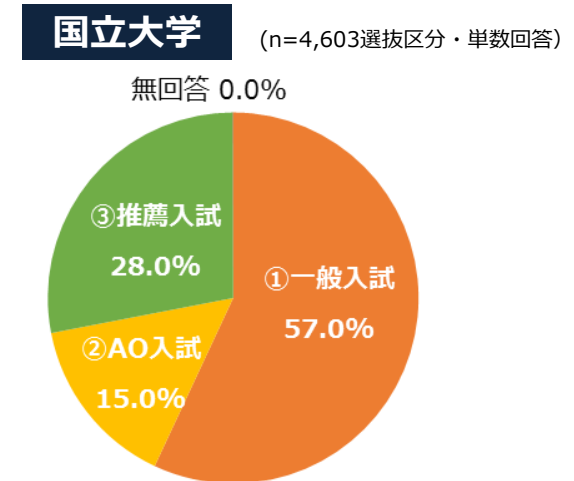
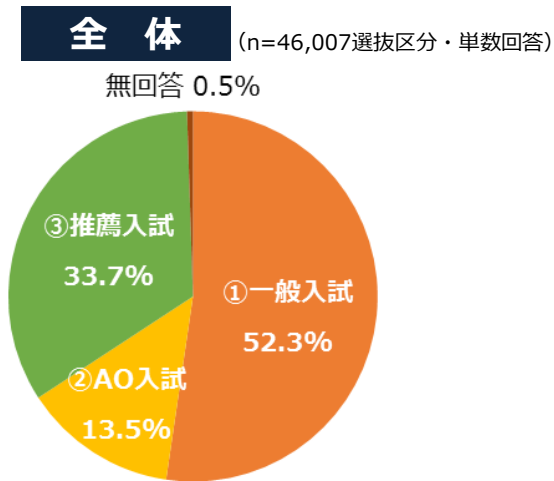


## 2. 入学者選抜の実態

|                            |    |
|----------------------------|----|
| ・ 入試方法 .....               | 26 |
| ・ AO入試・推薦入試の試験回数 .....     | 28 |
| ・ 推薦入試の種類 .....            | 31 |
| ・ 私立大学における推薦入試の併願可否 .....  | 33 |
| ・ 全学部又は複数学部での共通入試の実施 ..... | 34 |
| ・ 出願期間の初日・最終日 .....        | 35 |
| ・ 個別選抜日程 .....             | 36 |
| ・ 合格発表日 .....              | 37 |
| ・ 電子出願の可否 .....            | 38 |

# 入試方法①（国公私・選抜区分数別）

入試方法を選抜区分数別でみると、一般入試52.3%、AO入試13.5%、推薦入試33.7%である。

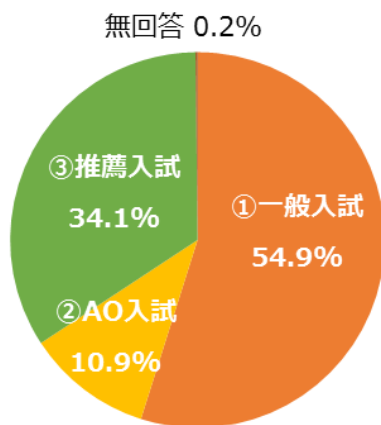


## 入試方法②（国公私・入学者数別）

入試方法を入学者数（延べ人数）別でみると、一般入試54.9%、AO入試10.9%、推薦入試34.1%である。

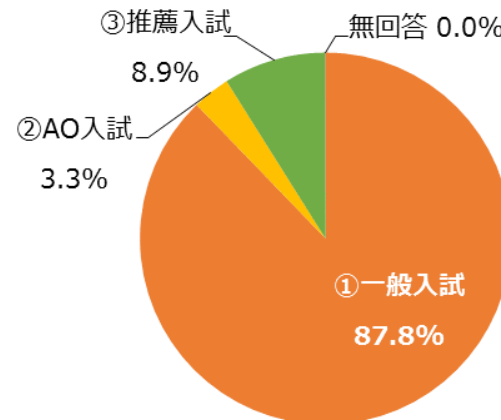
### 全 体

(n=582,427人・単数回答)



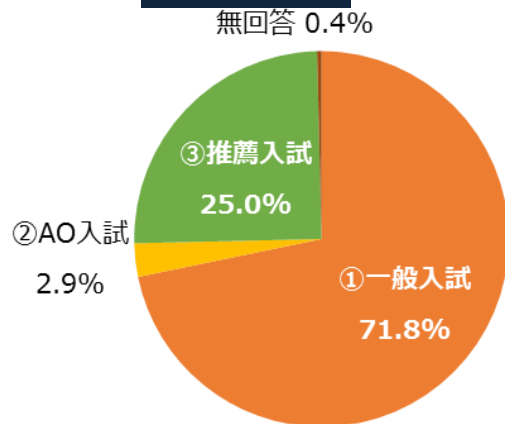
### 国立大学

(n=124,939人・単数回答)



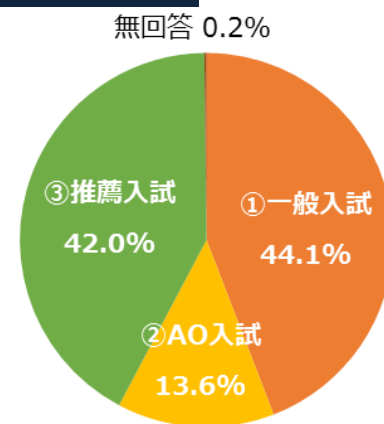
### 公立大学

(n=29,296人・単数回答)



### 私立大学

(n=428,192人・単数回答)



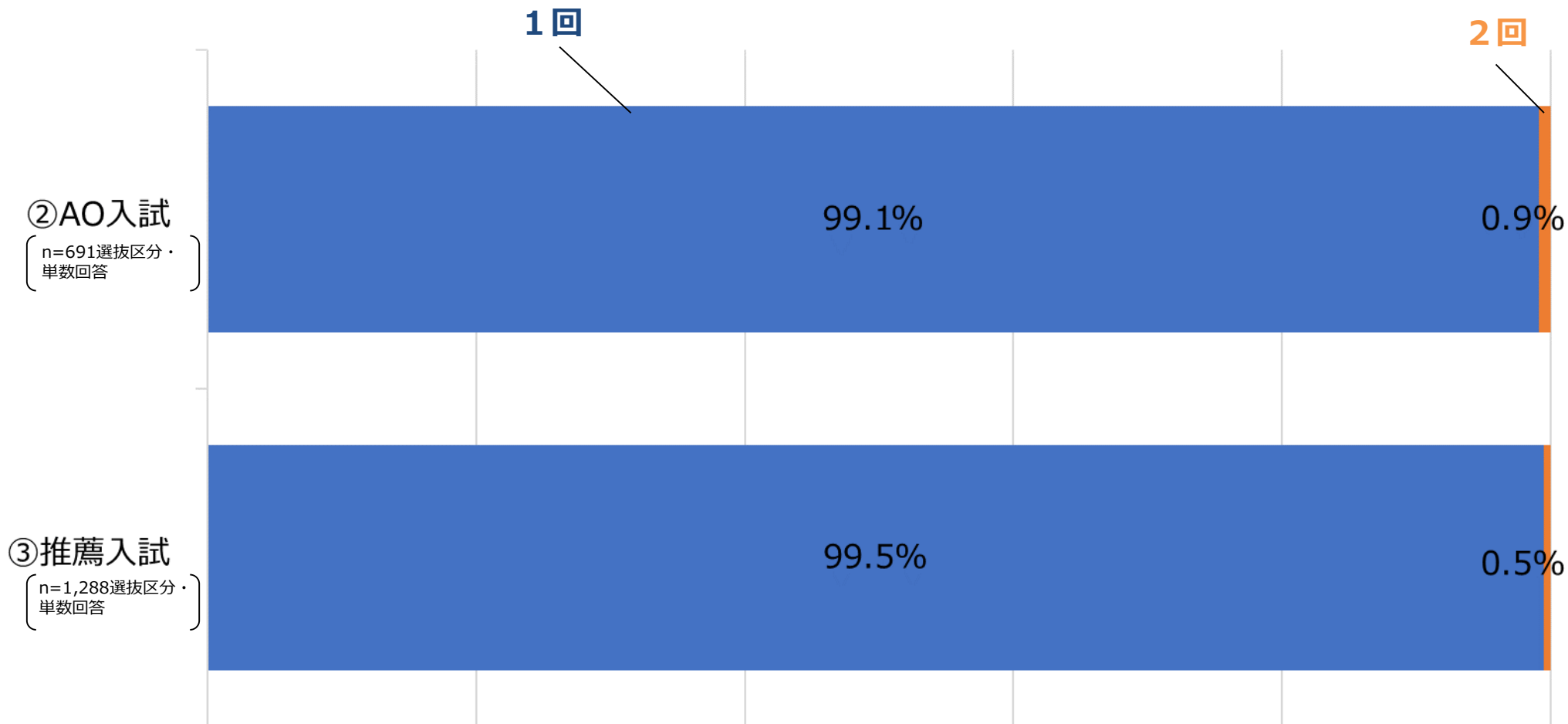
※ 本調査では、一般入試、AO入試及び推薦入試以外の入試方法は調査対象外としている。

※ 本調査では、学部・学科を選択した上で選抜区分ごとに入学者数を回答するため、複数の学部・学科にまたがって実施される選抜区分の場合は、入学者数が重複して回答される。

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語 4 技能評価及び記述式問題の実態調査（令和 2 年度）」

## AO入試・推薦入試の試験回数①（国立大学）

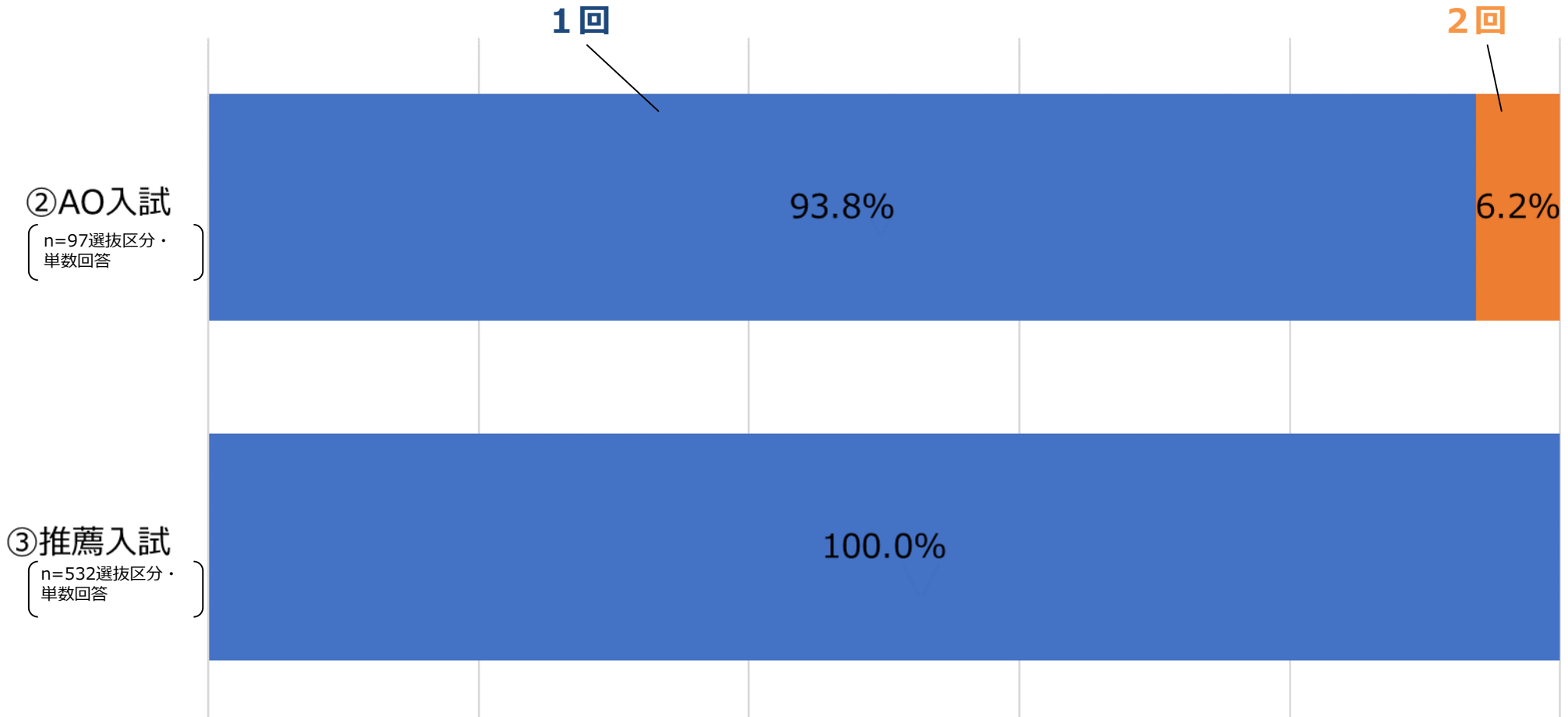
国立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、  
AO入試は1回が99.1%、2回が0.9%  
推薦入試は1回が99.5%、2回が0.5%である。





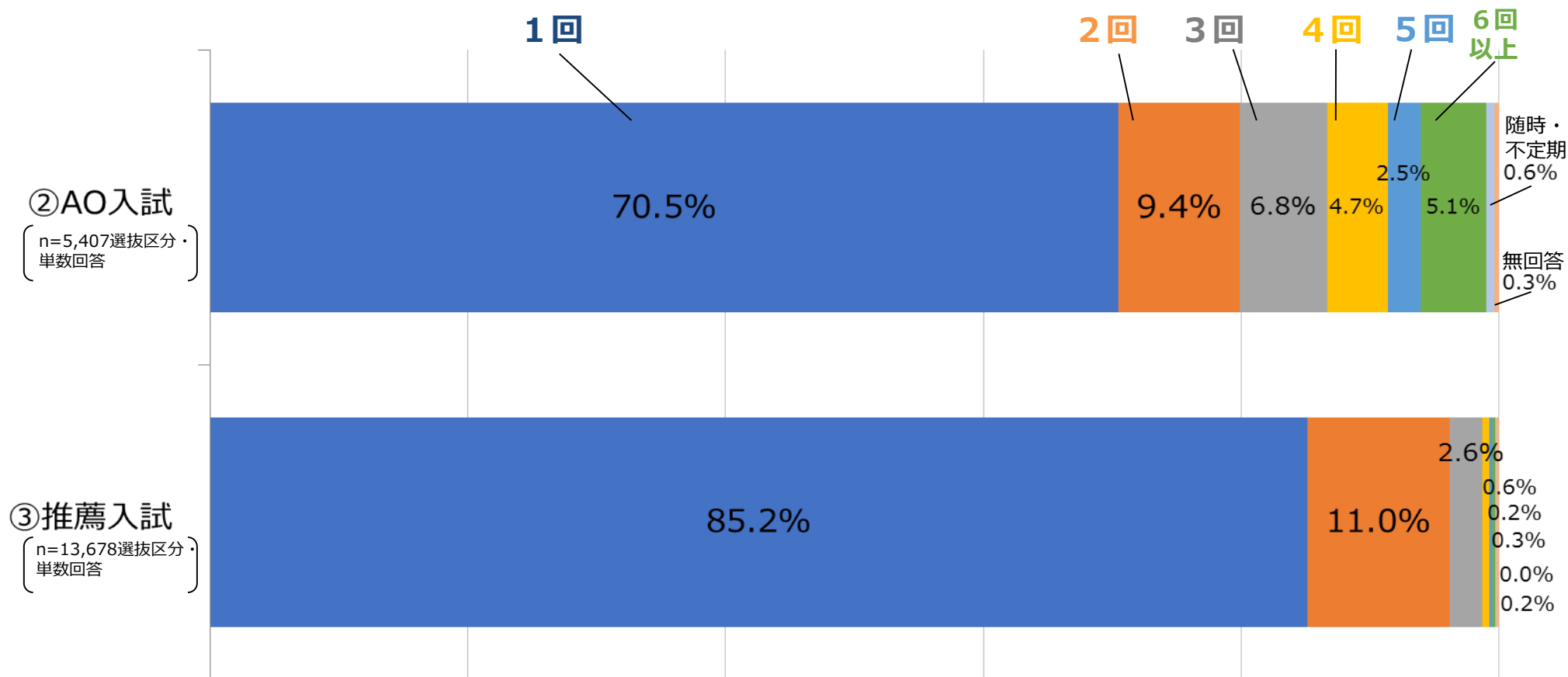
## AO入試・推薦入試の試験回数②（公立大学）

公立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、  
AO入試は1回が93.8%、2回が6.2%  
推薦入試はすべて1回である。



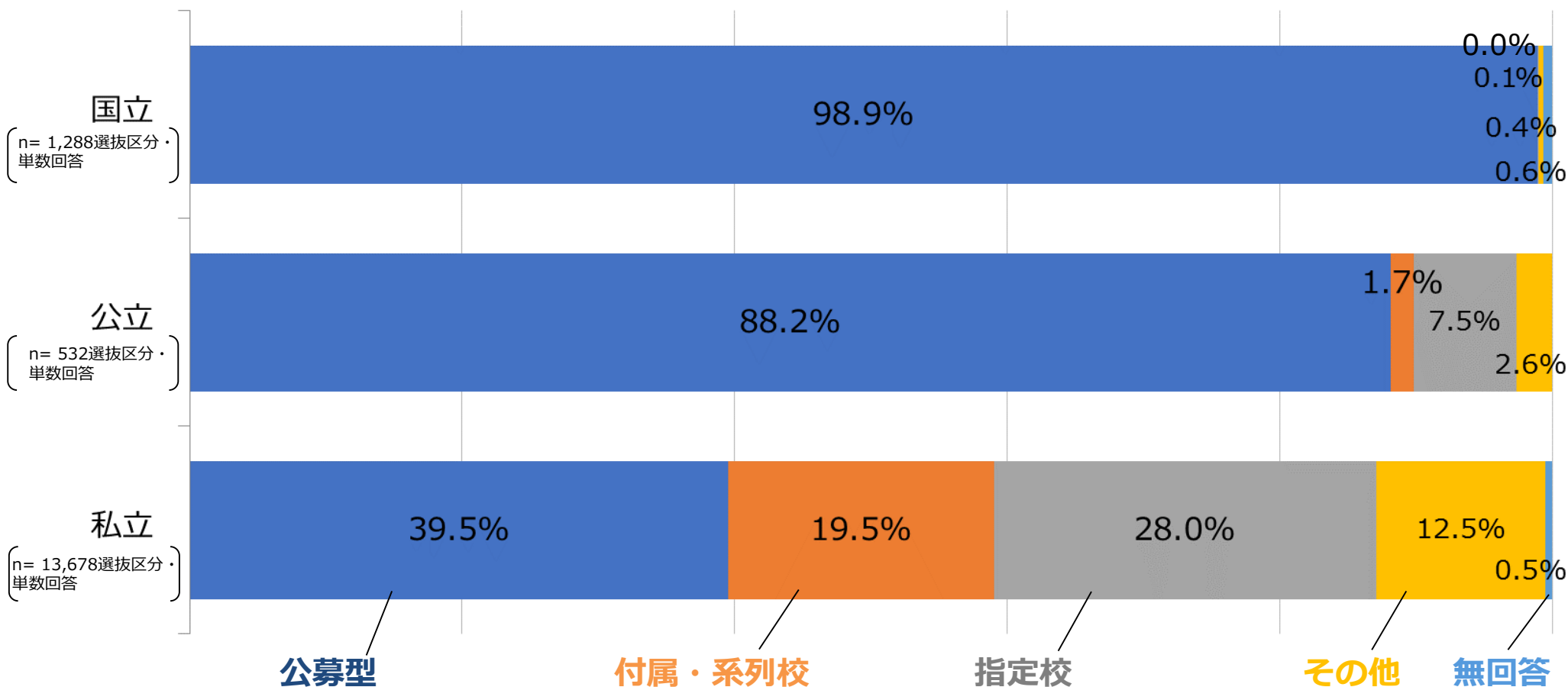
## AO入試・推薦入試の試験回数③（私立大学）

私立大学における、AO入試・推薦入試の選抜区分ごとの試験実施回数（受験可能な回数）は、  
 AO入試は1回が70.5%、2回が9.4%  
 推薦入試は1回が85.2%、2回が11.0%である。



# 推薦入試の種類①（国公立・選抜区分別）

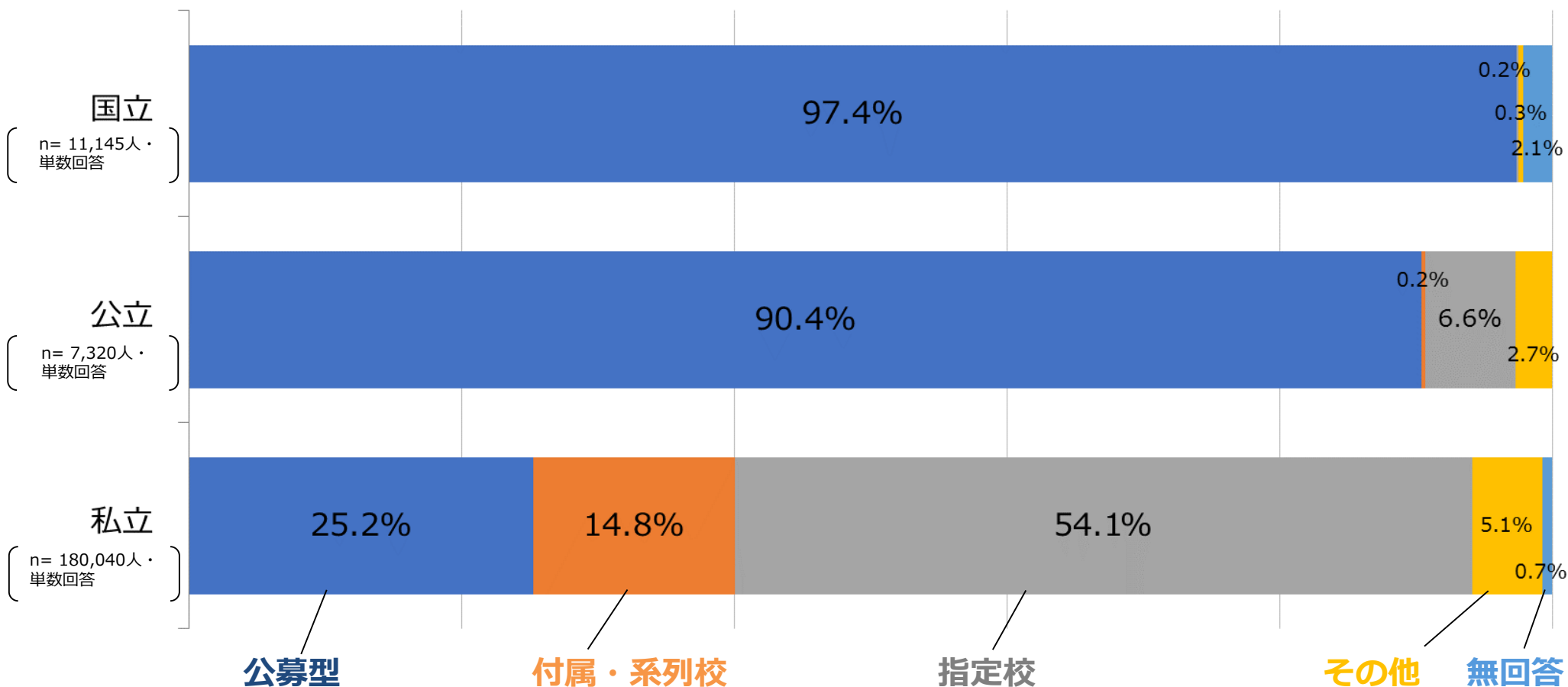
推薦入試の種類を選抜区分別でみると、公募型が国立では98.9%、公立では88.2%、私立では39.5%である。



**公募型** : 大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる推薦入試  
**附属・系列校** : 大学の附属高校・系列高校の生徒のみが出願できる推薦入試  
**指定校** : 大学が指定した学校の生徒のみが出願できる推薦入試（附属・系列校を除く）  
**その他** : 上記以外の推薦入試（地域枠推薦、スポーツ推薦 など）

## 推薦入試の種類②（国公立・入学者数別）

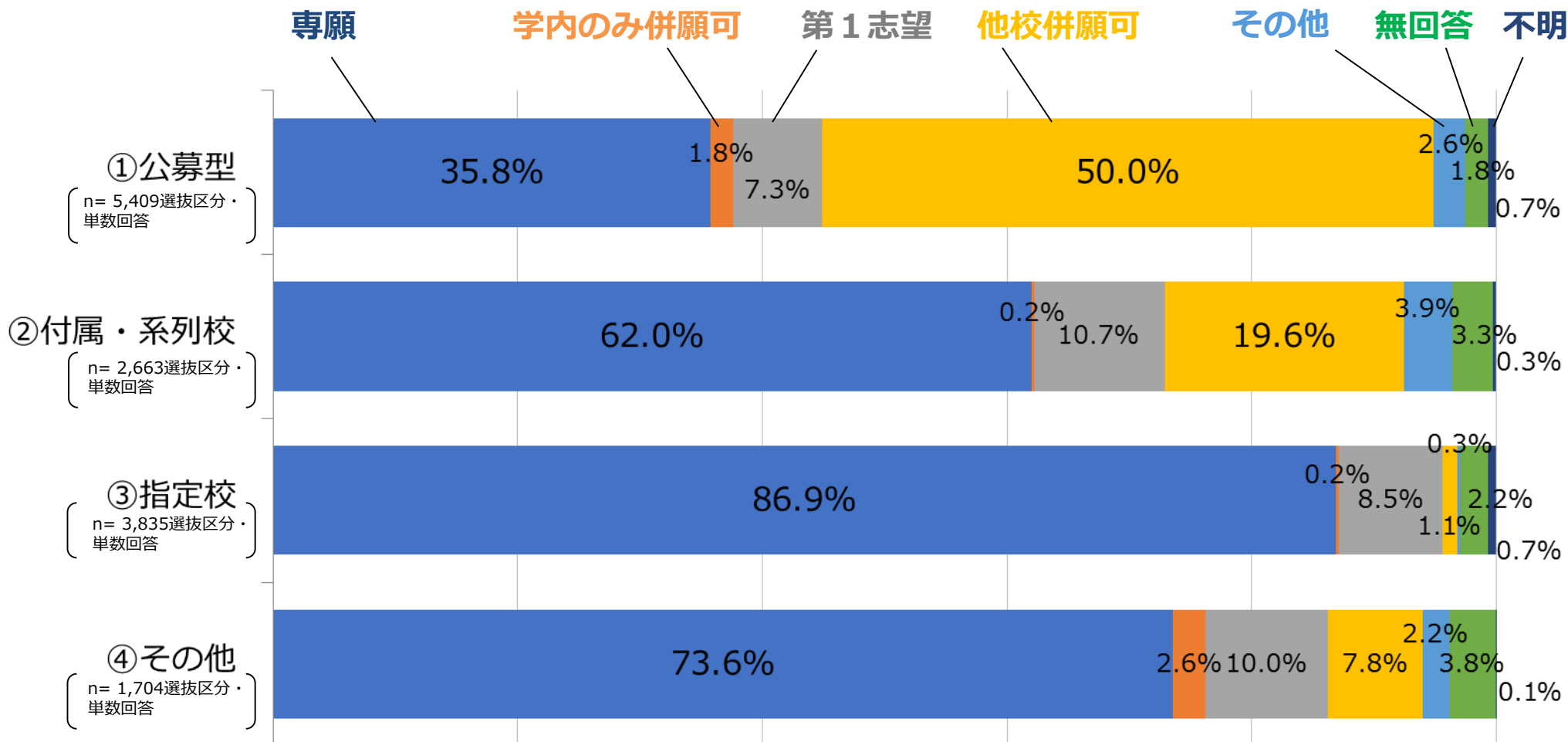
推薦入試の種類を入学者数別でみると、公募型が国立では97.4%、公立では90.4%、私立では25.2%である。



**公募型** : 大学が定める出題要件を満たし、かつ、所属学校の推薦を得られれば、誰でも出願できる推薦入試  
**附属・系列校** : 大学の附属高校・系列高校の生徒のみが出願できる推薦入試  
**指定校** : 大学が指定した学校の生徒のみが出願できる推薦入試（附属・系列校を除く）  
**その他** : 上記以外の推薦入試（地域枠推薦、スポーツ推薦 など）

# 私立大学における推薦入試の併願可否

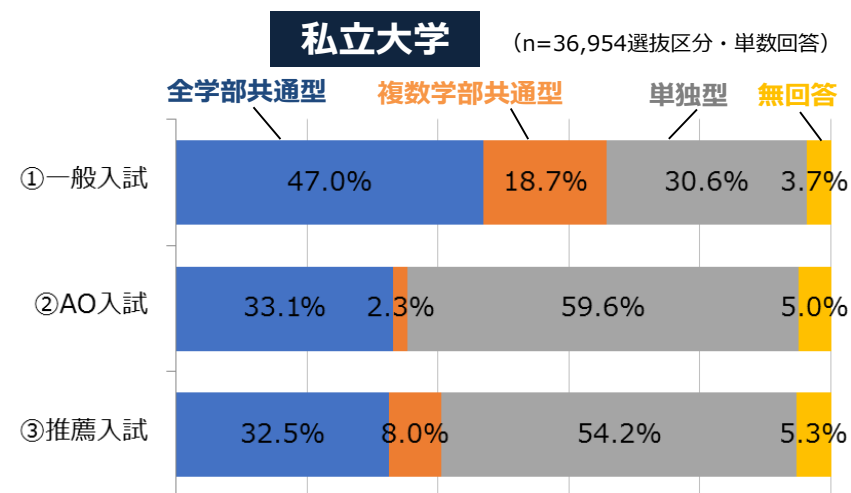
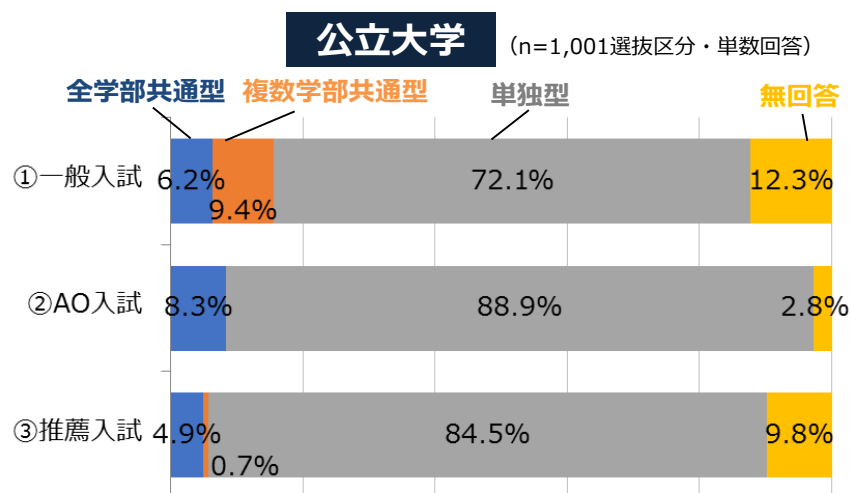
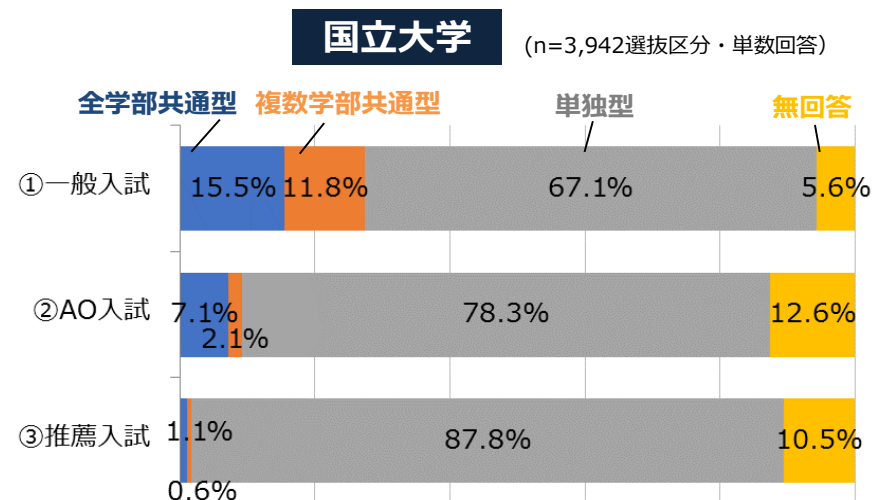
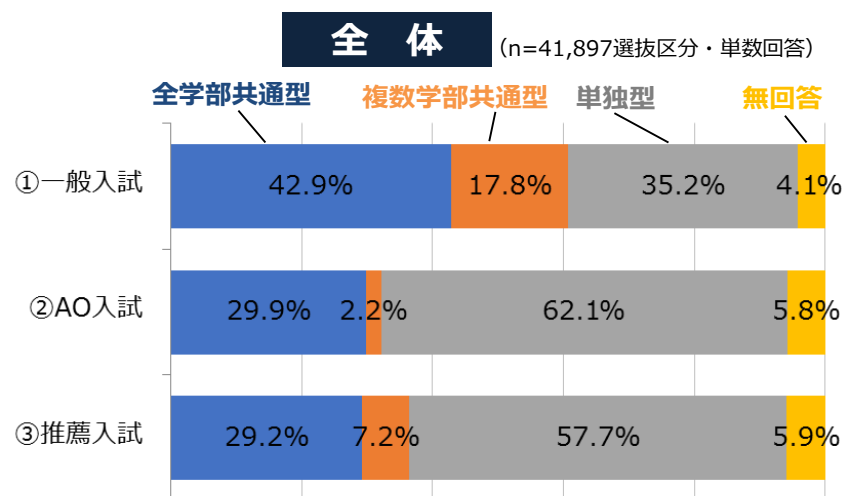
私立大学において、公募型は50.0%が他校併願可である一方、指定校は86.9%が専願である。



専願 : 原則として当該区分のみの出願しか認めていない  
 学内のみ併願可 : 学内・学部内・学科内等の間であれば併願可  
 第1志望 : 当該学部・学科等を第1志望とすることを出願資格としている  
 他校併願可 : 他大学との併願を認めている  
 その他 : 上記以外（（試験日が異なるなどの）条件を満たせば併願可能 など）

# 全学部又は複数学部での共通入試の実施

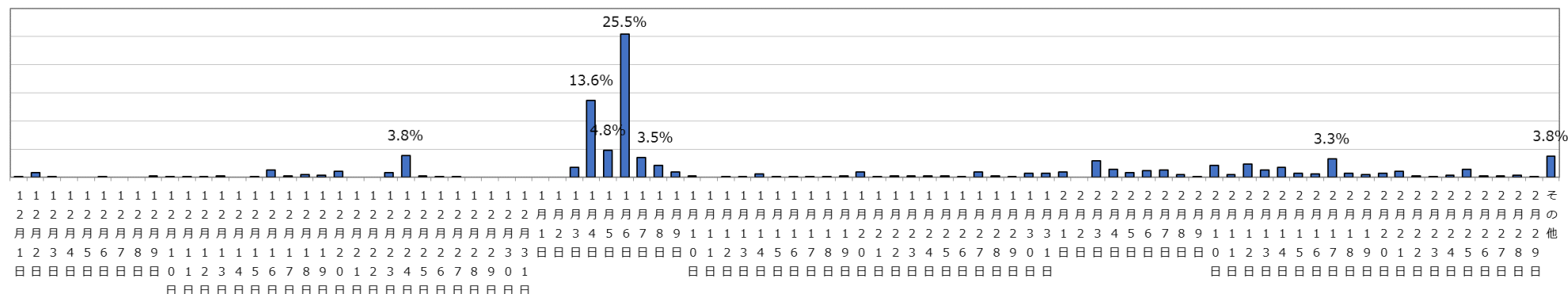
- 一般入試において、全学部で共通の試験問題を用いて合同で試験を実施し、それぞれの学部で合否判定を行う形式の選抜をしているのは42.9%である。
- また、複数の学部（全学部を除く。）で、同じく共通の入試を実施しているのは17.8%である。



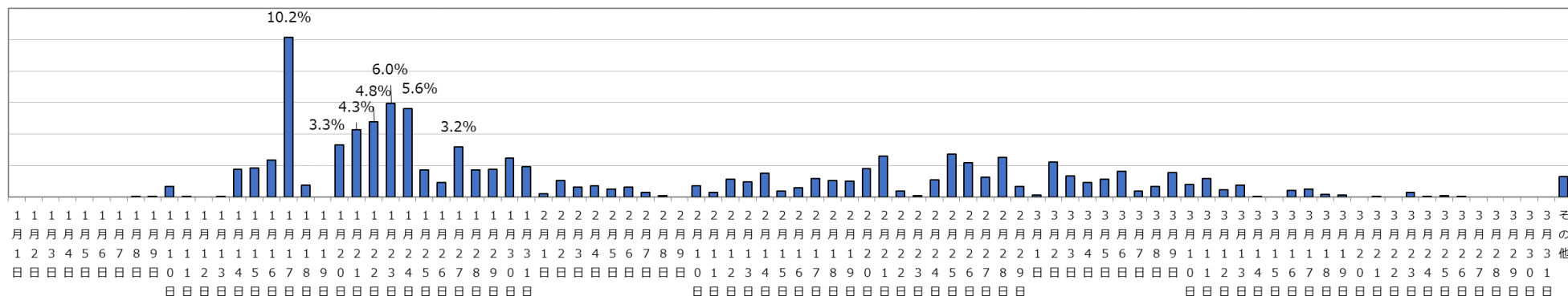
# 出願期間の初日・最終日（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、出願期間の初日は1月6日が25.5%であり、最終日は1月17日が10.2%である。

## 初日



## 最終日



### 【参考】令和2年度大学入学者選抜実施要項（抄）

#### 第4 試験期日等

- 各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。
  - 試験期日 令和2年2月1日から4月15日までの間
  - 入学願書受付期間 試験期日に応じて定める。
  - 合格者の決定発表 令和2年4月20日まで

#### 【参考：一般入試・国立大学／公立大学】

国立（n=2,622）：初日 1月27日（97.8%） 最終日 2月5日（99.0%）

公立（n=691）：初日 1月27日（97.5%） 最終日 2月5日（97.4%）

※初日は1月8日～2月18日、最終日は1月21日～3月2日のいずれかに含まれる

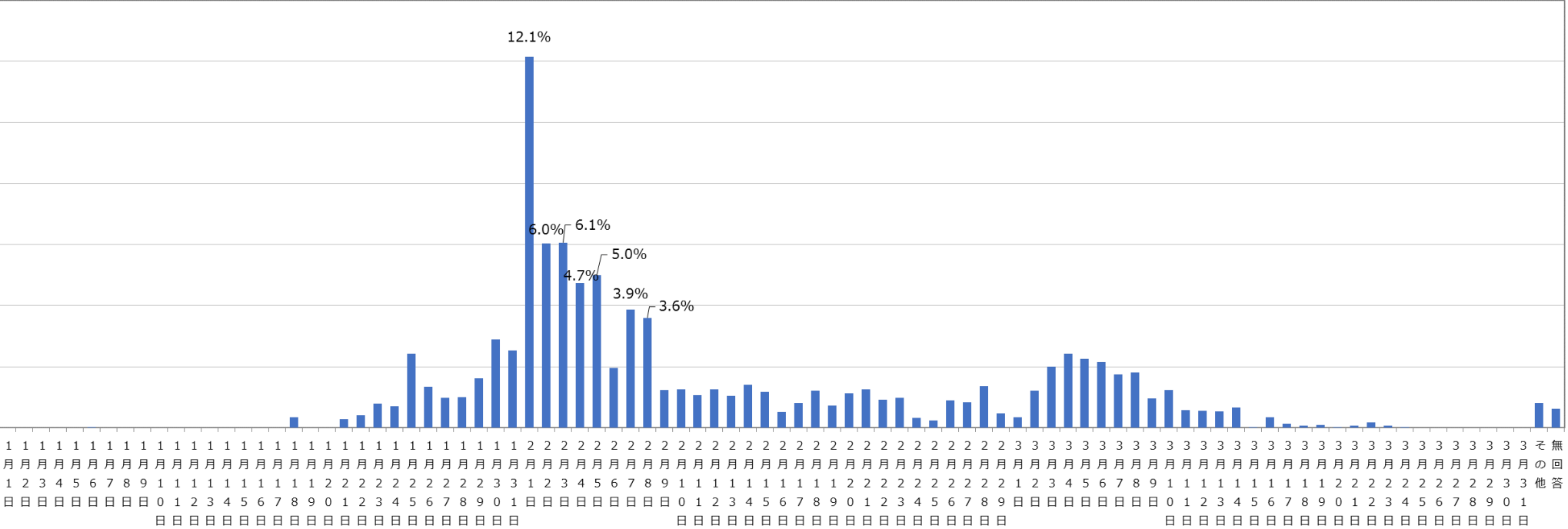
n=20,763選抜区分

単数回答

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# 個別選抜日程（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、個別選抜は2月1日に12.1%が実施されている。



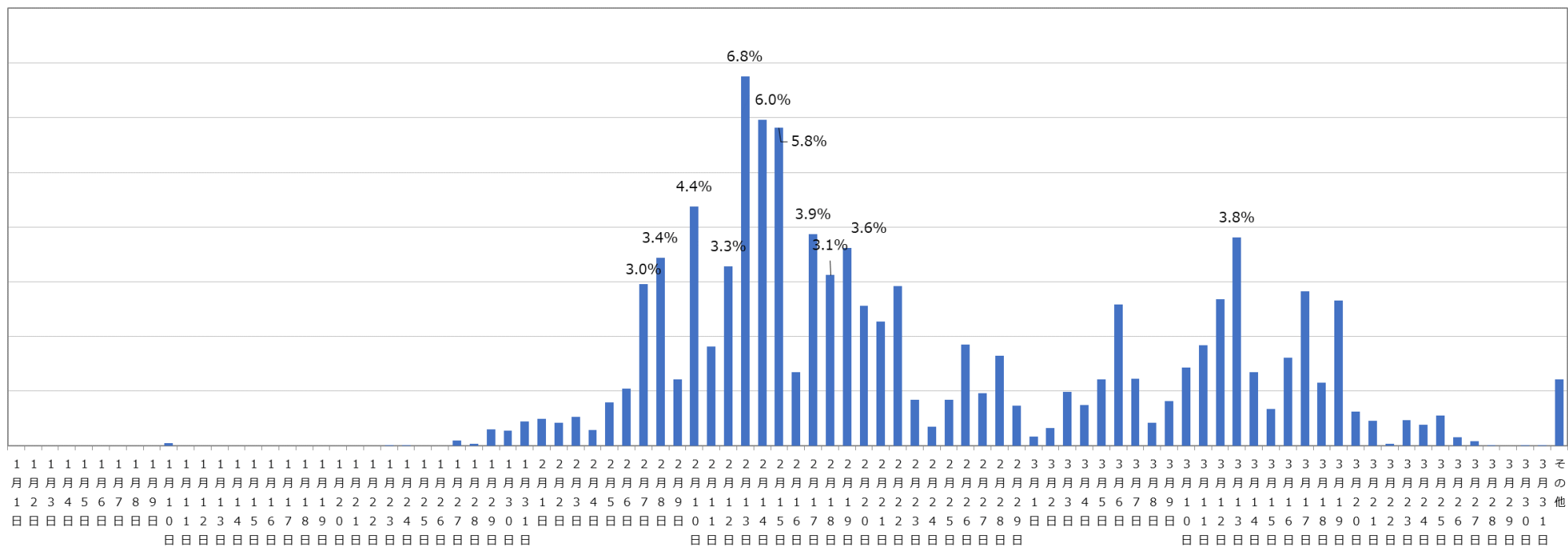
【参考】令和2年度大学入学者選抜実施要項（抄）  
第4 試験期等  
1 各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。  
(1) 試験期日 令和2年2月1日から4月15日までの間  
(2) 入学願書受付期間 試験期日に応じて定める。  
(3) 合格者の決定発表 令和2年4月20日まで

【参考：一般入試・国立大学／公立大学】  
国立（n=2,622）：2月25日（56.1%） 3月12日（33.6%）  
公立（n= 691）：2月25日（47.9%） 3月12日（30.2%）



# 合格発表日（一般入試・私立大学）

私立大学の一般入試において、合格発表日は2月13日が6.8%であり、2月7～19日が多い。



## 【参考】令和2年度大学入学選抜実施要項（抄）

### 第4 試験期日等

1 各大学で実施する一般入試（中略）において学力検査を課す場合の期日については、次により適宜定める。

(1) 試験期日 令和2年2月1日から4月15日までの間

(2) 入学願書受付期間 試験期日に応じて定める。

(3) 合格者の決定発表 令和2年4月20日まで

## 【参考：一般入試・国立大学／公立大学】

国立（n=2,622）：3月6日（39.4%） 3月20日（17.0%）

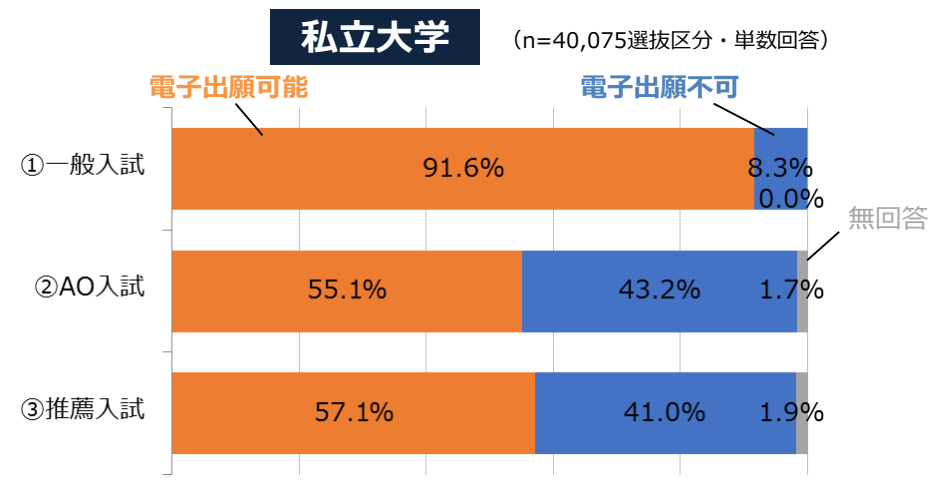
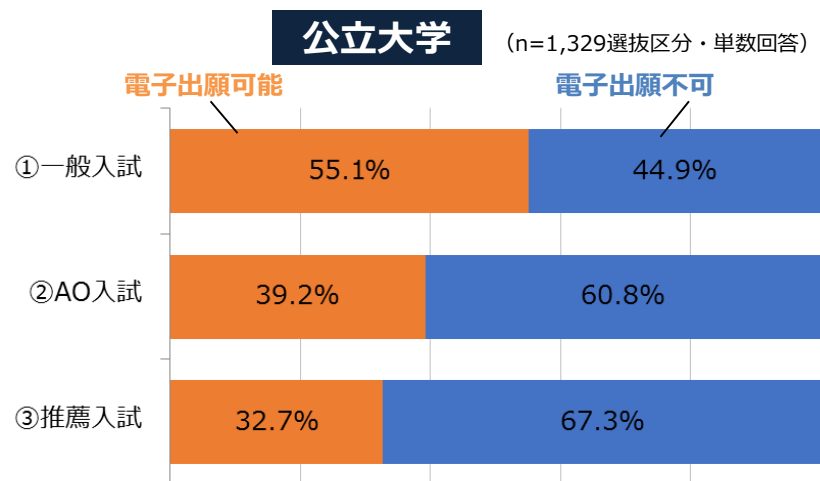
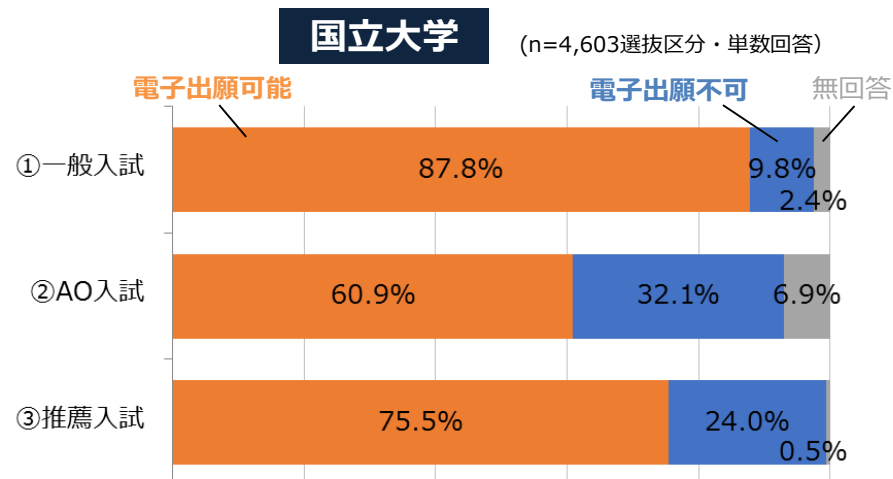
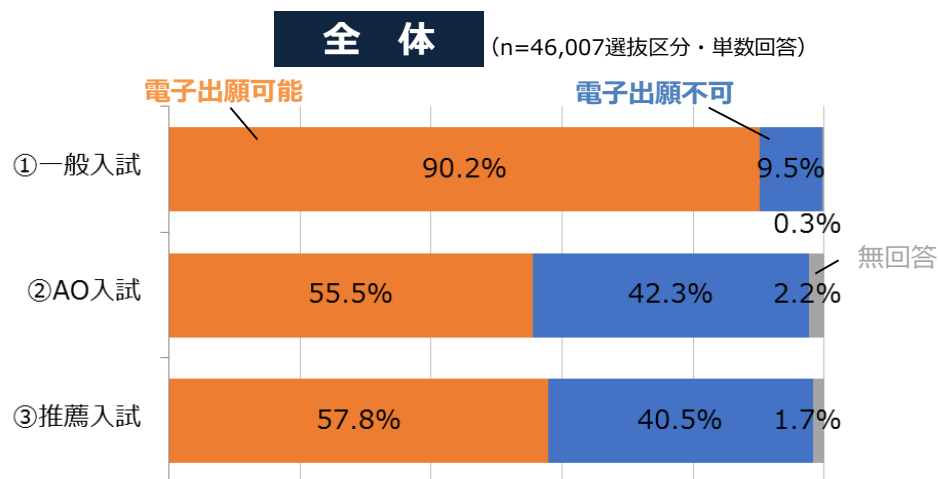
※3月6日～21日に9割以上が実施

公立（n= 691）：3月6日（18.8%） 3月21日（19.2%）

※3月5日～23日に9割以上が実施

# 電子出願の可否（国公立別）

電子出願が可能な選抜区分は一般入試では90.2%、AO入試では55.5%、推薦入試では57.8%である。



※ 一部に紙媒体が必要であっても出願の一部で電子的な方法が利用されていれば「電子出願可能」としている。

## 3. センター試験の利用の実態

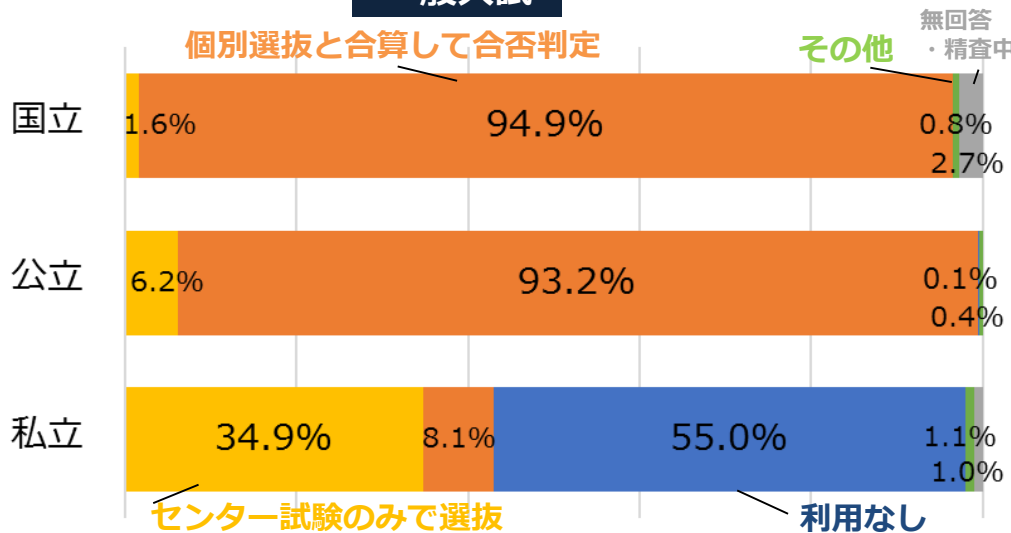
|                                |    |
|--------------------------------|----|
| ・センター試験の利用状況 .....             | 40 |
| ・センター試験の過年度成績の利用状況 .....       | 41 |
| ・合否判定に利用するセンター試験の科目数 .....     | 42 |
| ・センター試験の外国語の利用 .....           | 43 |
| ・センター試験英語のリスニングの利用 .....       | 45 |
| ・リスニングを利用する場合の外国語の得点算出方法 ..... | 46 |
| ・センター試験の合否判定時の換算点の割合 .....     | 47 |

# センター試験の利用状況

一般入試においてセンター試験を個別選抜と合算して合否判定するために利用する選抜区分は、国立大学で94.9%、公立大学で93.2%。他方、利用しない選抜区分は、私立大学で55.0%である。

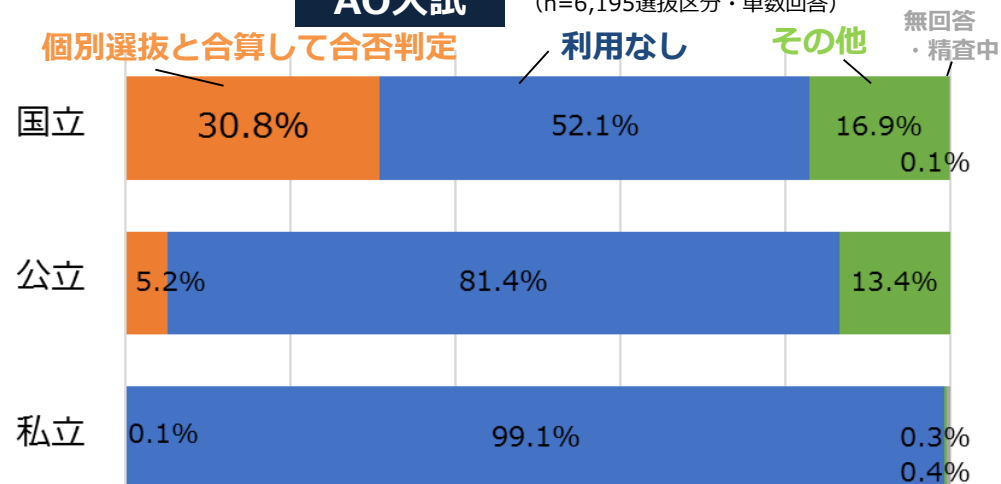
## 一般入試

(n=24,076選抜区分・単数回答)



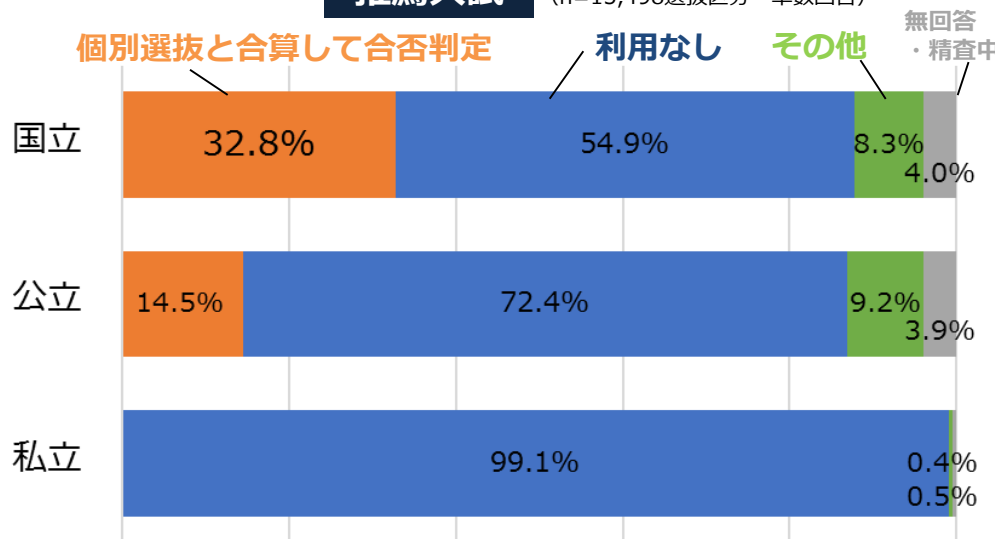
## AO入試

(n=6,195選抜区分・単数回答)



## 推薦入試

(n=15,498選抜区分・単数回答)



### 【その他の内容の主な例】

○一定の得点以上を2次試験受験資格として設定

### 【各選抜区分数】

○一般入試

国立：n= 2,622選抜区分  
公立：n= 691選抜区分  
私立：n=20,763選抜区分

○AO入試

国立：n= 691選抜区分  
公立：n= 97選抜区分  
私立：n= 5,407選抜区分

○推薦入試

国立：n= 1,288選抜区分  
公立：n= 532選抜区分  
私立：n=13,678選抜区分

# センター試験の過年度成績の利用状況

センター試験の過年度成績の利用については、一般入試で6.8%（国立：0 選抜区分 公立：0 選抜区分 私立：861選抜区分）、AO入試で2.5%（国立：6 選抜区分 公立：1 選抜区分 私立：3 選抜区分）となっている。

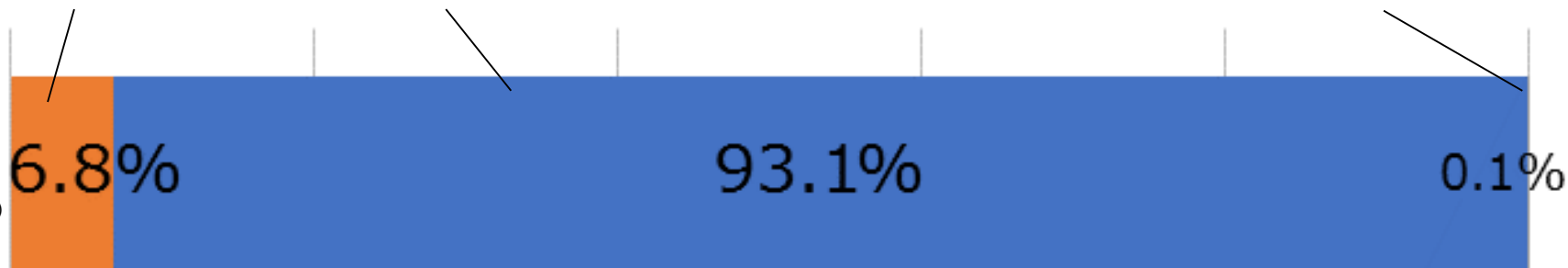
利用可能

利用不可

無回答

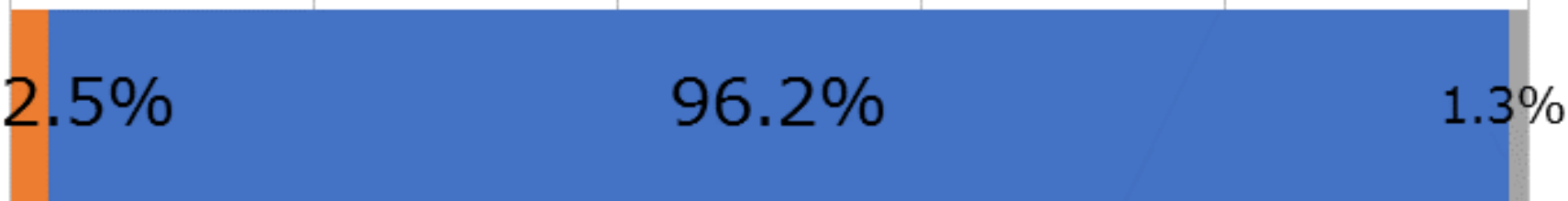
①一般入試

(n=12,661選抜区分・単数回答)



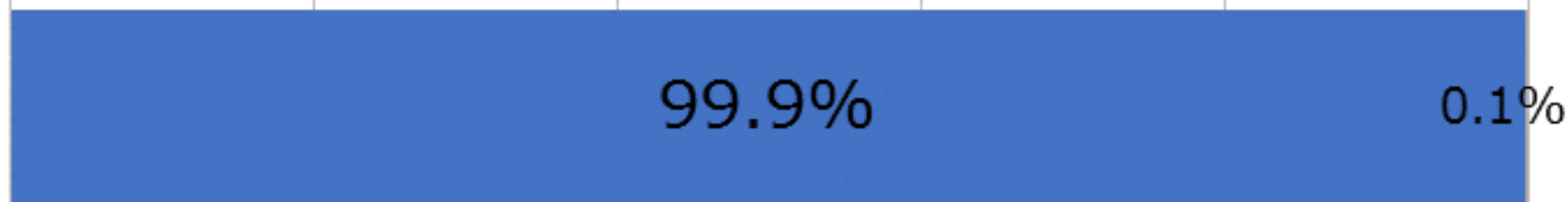
②AO入試

(n=395選抜区分・単数回答)



③推薦入試

(n=851選抜区分・単数回答)



# 合否判定に利用するセンター試験の科目数

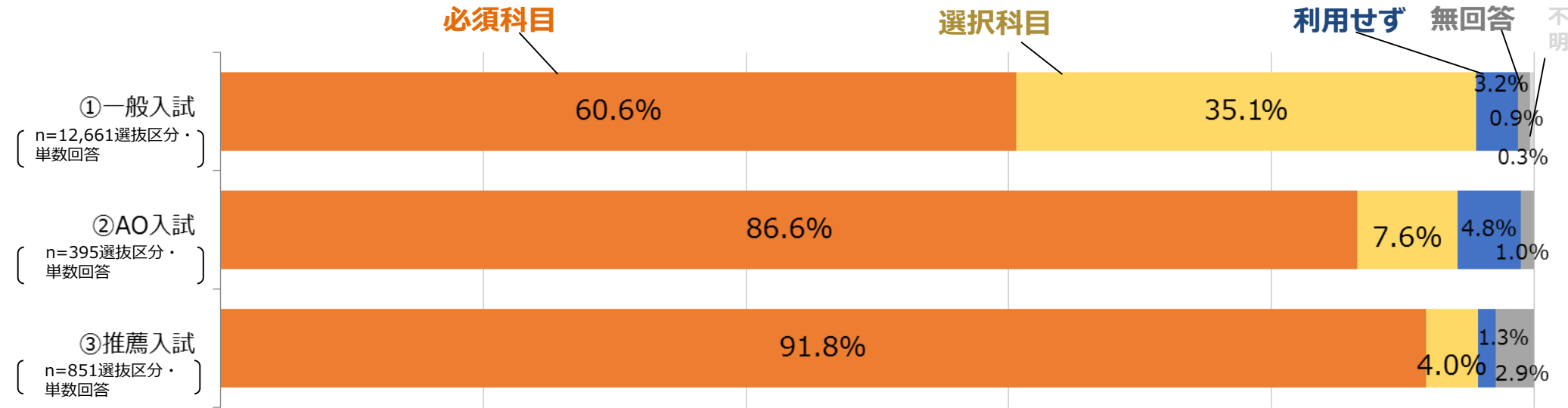
センター試験を利用する場合、一般入試においては、国立大学では7科目の利用、公立大学では7・5・6科目の利用、私立大学では2・3科目の利用が多い。

| 入試方法 | 国公私                 | 1科目  | 2科目          | 3科目          | 4科目          | 5科目          | 6科目          | 7科目          | 8科目   | 無回答   | 平均科目数      |
|------|---------------------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------|-------|------------|
| 一般入試 | 国立<br>(n=2,621選抜区分) | 0.0% | 0.6%         | 2.4%         | 2.7%         | 4.0%         | 6.0%         | <b>58.2%</b> | 26.0% | 0.0%  | <b>6.9</b> |
|      | 公立<br>(n=680選抜区分)   | 0.6% | 2.8%         | 15.6%        | 15.7%        | <b>19.1%</b> | <b>17.9%</b> | <b>21.9%</b> | 6.3%  | 0.0%  | <b>5.2</b> |
|      | 私立<br>(n=9,246選抜区分) | 7.6% | <b>37.1%</b> | <b>36.7%</b> | 9.4%         | 5.5%         | 2.1%         | 0.6%         | 0.0%  | 1.1%  | <b>2.8</b> |
| AO入試 | 国立<br>(n=331選抜区分)   | 0.3% | 0.9%         | 10.0%        | 10.0%        | 8.5%         | 5.4%         | <b>50.2%</b> | 14.8% | 0.0%  | <b>6.2</b> |
|      | 公立<br>(n=14選抜区分)    | 0.0% | 14.3%        | 7.1%         | 28.6%        | 0.0%         | 0.0%         | <b>50.0%</b> | 0.0%  | 0.0%  | <b>5.1</b> |
|      | 私立<br>(n=46選抜区分)    | 4.3% | 21.7%        | <b>26.1%</b> | <b>39.1%</b> | 2.2%         | 0.0%         | 6.5%         | 0.0%  | 0.0%  | <b>3.4</b> |
| 推薦入試 | 国立<br>(n=581選抜区分)   | 0.2% | 1.0%         | 6.7%         | 6.4%         | 6.0%         | 10.3%        | <b>50.4%</b> | 18.9% | 0.0%  | <b>6.4</b> |
|      | 公立<br>(n=134選抜区分)   | 0.0% | 0.0%         | 20.9%        | 9.7%         | <b>23.1%</b> | 8.2%         | <b>26.9%</b> | 11.2% | 0.0%  | <b>5.4</b> |
|      | 私立<br>(n=123選抜区分)   | 1.6% | 7.3%         | 20.3%        | <b>32.5%</b> | <b>22.8%</b> | 0.8%         | 1.6%         | 0.0%  | 13.0% | <b>3.9</b> |

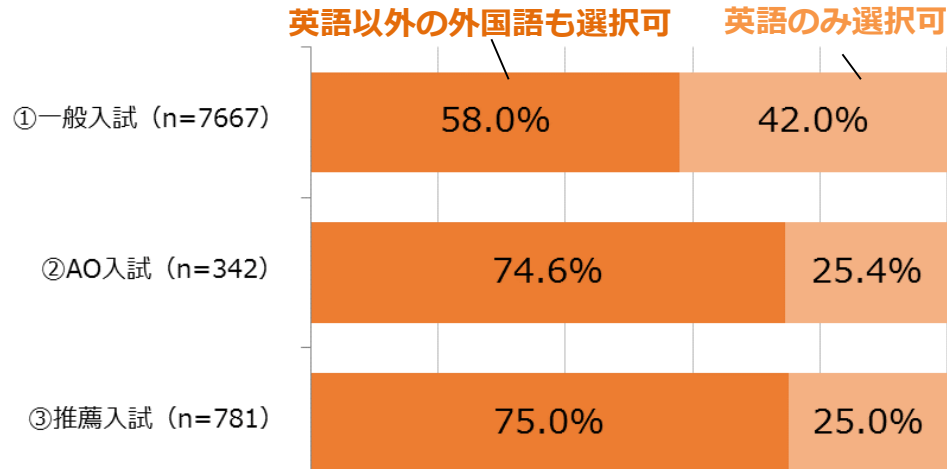
※ nは、センター試験を利用する選抜区分のうち、合否判定に利用するセンター試験の科目数が1～8の選抜区分のみ集計

# センター試験の外国語の利用①

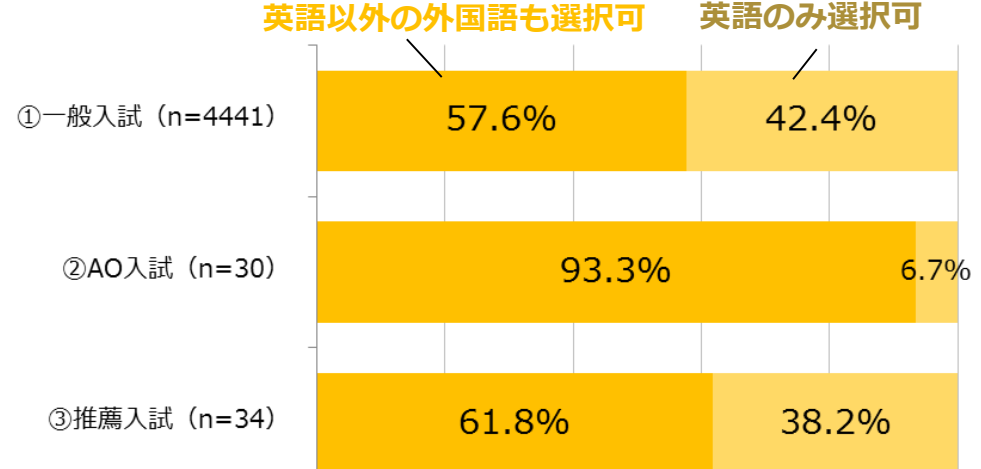
センター試験を利用する選抜区分のうち外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）の利用状況は、一般入試で「必須科目としている」が60.6%、「選択科目としている」が35.1%である。



## 必須科目の内訳



## 選択科目の内訳



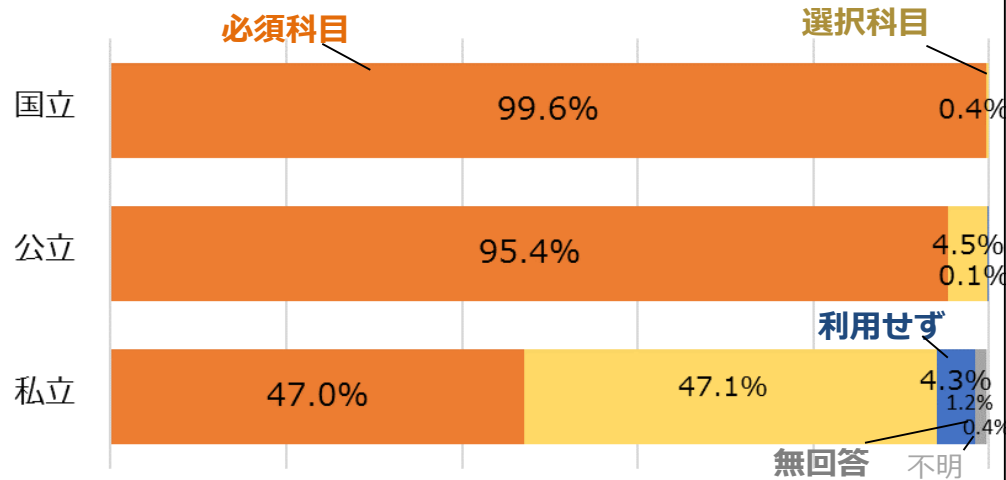
※ nは、センター試験を利用する選抜区分数

【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

# センター試験の外国語の利用②（国公私別）

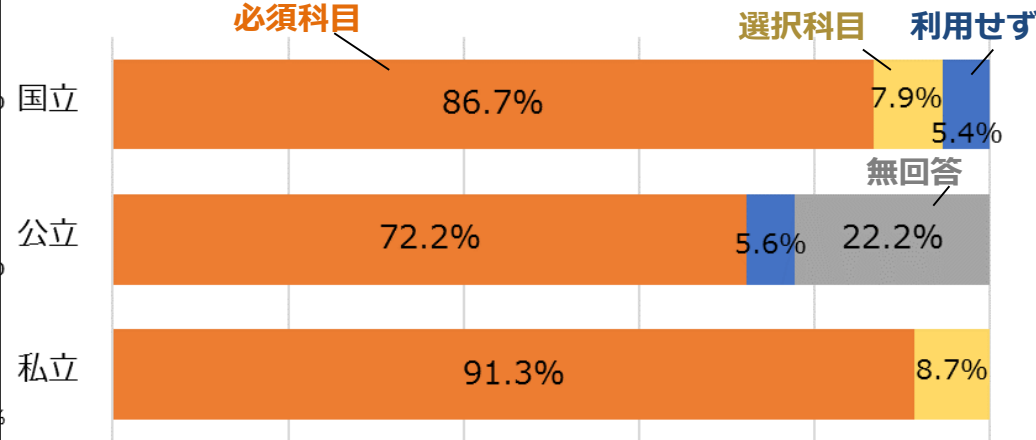
## 一般入試

（n=12,661選抜区分・単数回答）



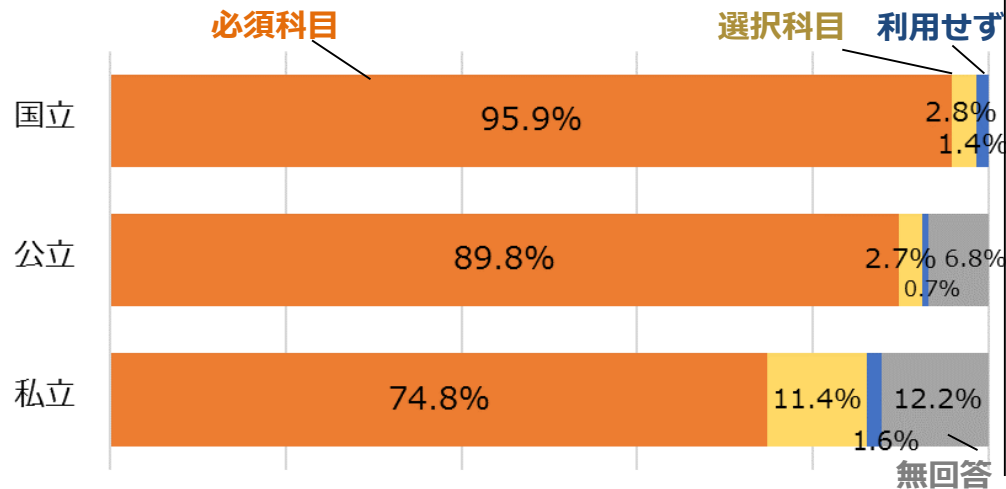
## AO入試

（n=395選抜区分・単数回答）



## 推薦入試

（n=851選抜区分・単数回答）



※ nは、センター試験を利用する選抜区分数

○一般入試

国立：n=2,621選抜区分

公立：n= 690選抜区分

私立：n=9,350選抜区分

○AO入試

国立：n=331選抜区分

公立：n= 18選抜区分

私立：n= 46選抜区分

○推薦入試

国立：n=581選抜区分

公立：n=147選抜区分

私立：n=123選抜区分

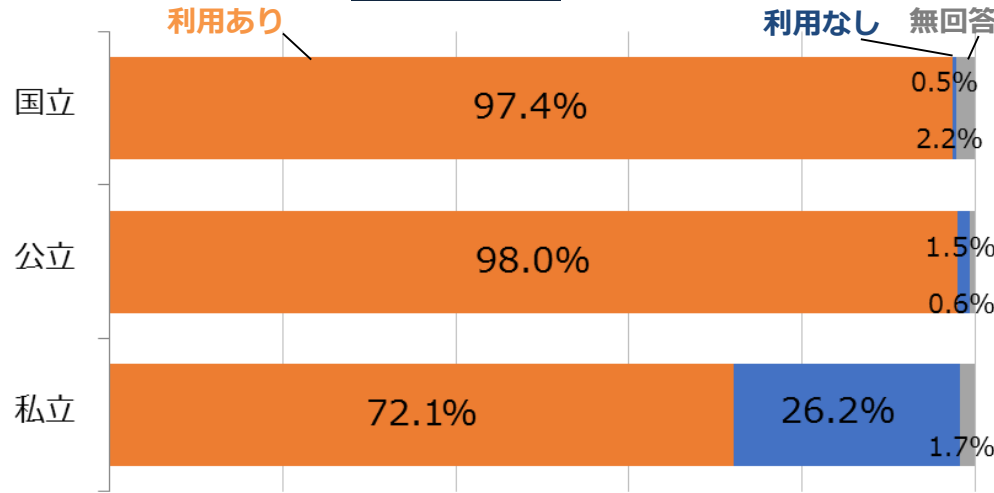


# センター試験英語のリスニングの利用

センター試験英語を利用する場合、一般入試では、リスニングを利用するのは、国立大学で97.4%、公立大学で98.0%、私立大学で72.1%である。

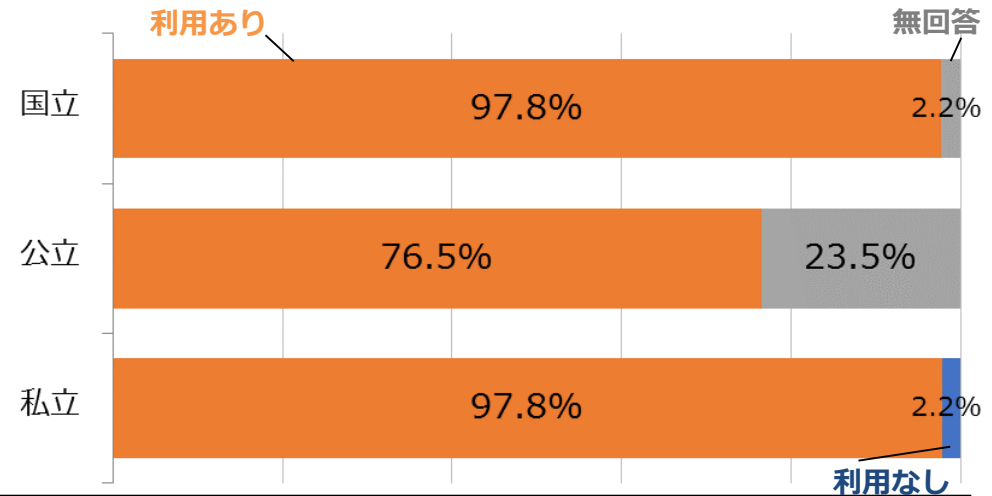
## 一般入試

(n=12,262選抜区分・単数回答)



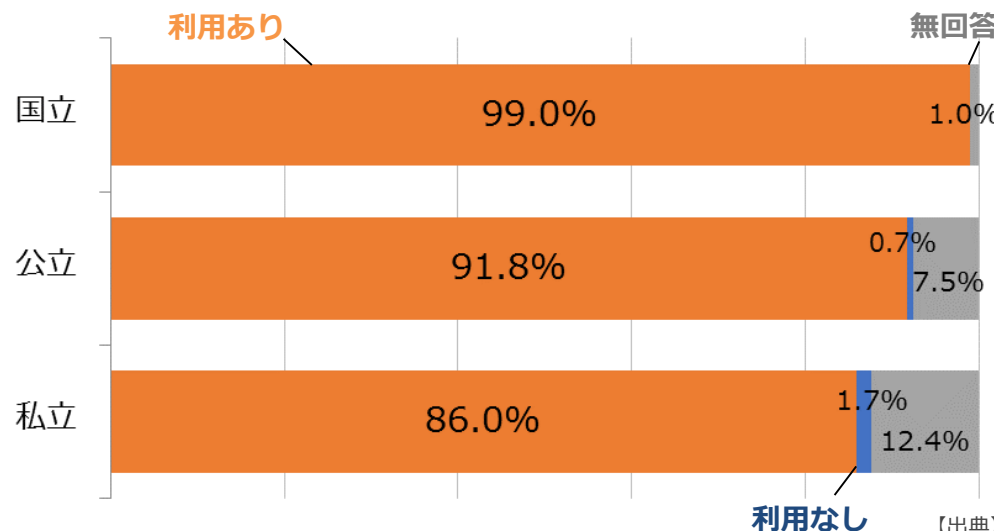
## AO入試

(n=376選抜区分・単数回答)



## 推薦入試

(n=840選抜区分・単数回答)



※ nは、センター試験の英語を利用する選抜区分数

○一般入試

国立：n=2,621選抜区分

公立：n= 689選抜区分

私立：n=8,952選抜区分

○AO入試

国立：n=313選抜区分

公立：n= 17選抜区分

私立：n= 46選抜区分

○推薦入試

国立：n=573選抜区分

公立：n=146選抜区分

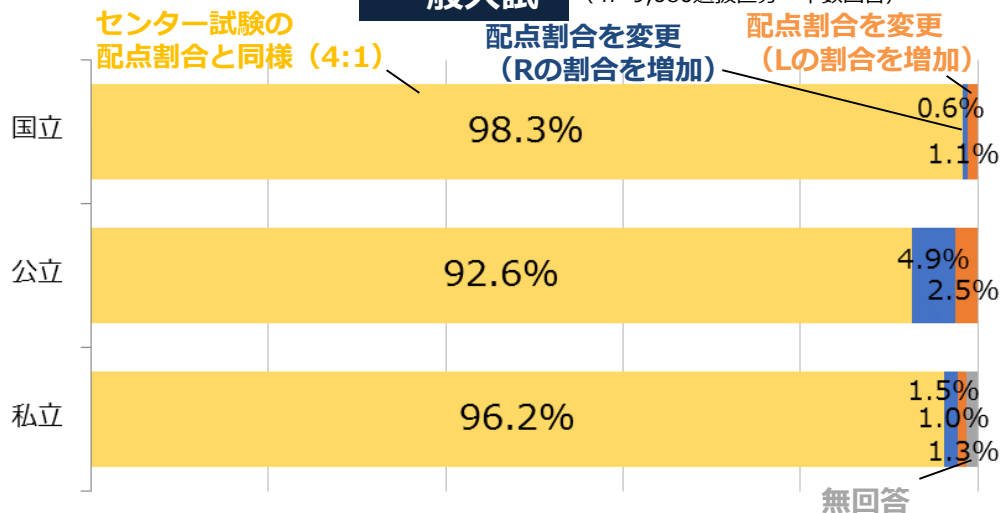
私立：n=121選抜区分

# リスニングを利用する場合の外国語の得点算出方法

センター試験の英語のリスニングの得点算出方法について、一般入試においては、センター試験の配点割合と同様の4：1とする選抜区分が、国立大学では96.5%、公立大学では92.6%、私立大学で96.2%である。

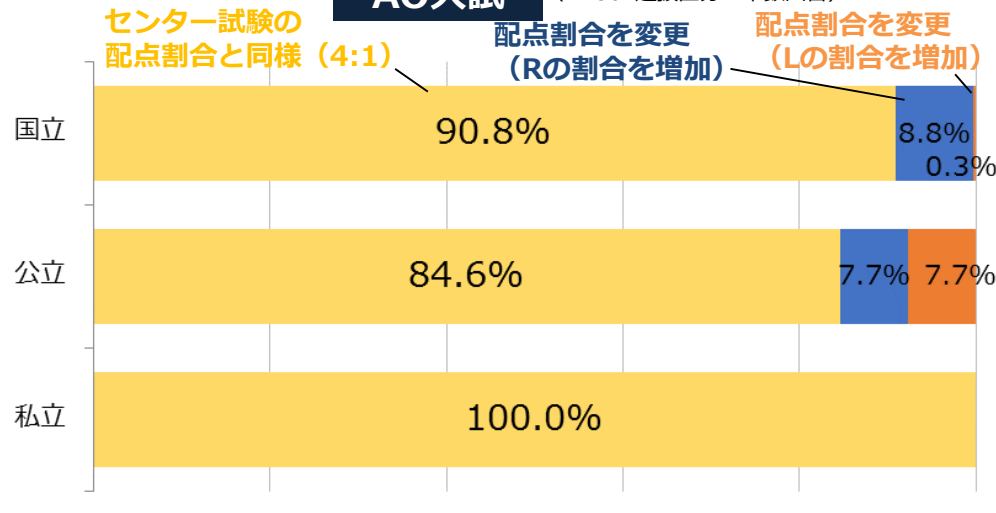
## 一般入試

(n=9,680選抜区分・単数回答)



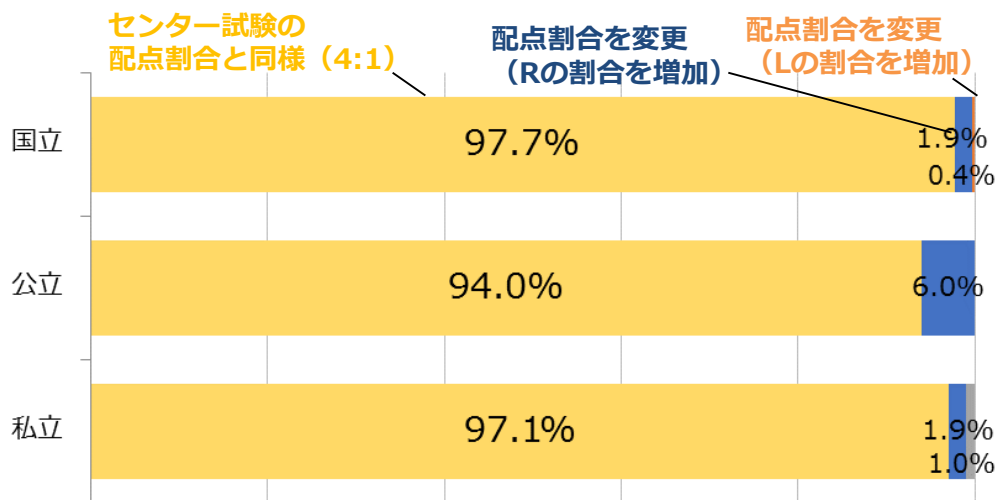
## AO入試

(n=364選抜区分・単数回答)



## 推薦入試

(n=805選抜区分・単数回答)



R：リーディング

L：リスニング

※ nは、センター試験の英語を利用し、かつリスニングを利用する選抜区分数

○一般入試

国立：n=2,552選抜区分

公立：n= 675選抜区分

私立：n=6,453選抜区分

○AO入試

国立：n=306選抜区分

公立：n= 13選抜区分

私立：n= 45選抜区分

○推薦入試

国立：n=567選抜区分

公立：n=134選抜区分

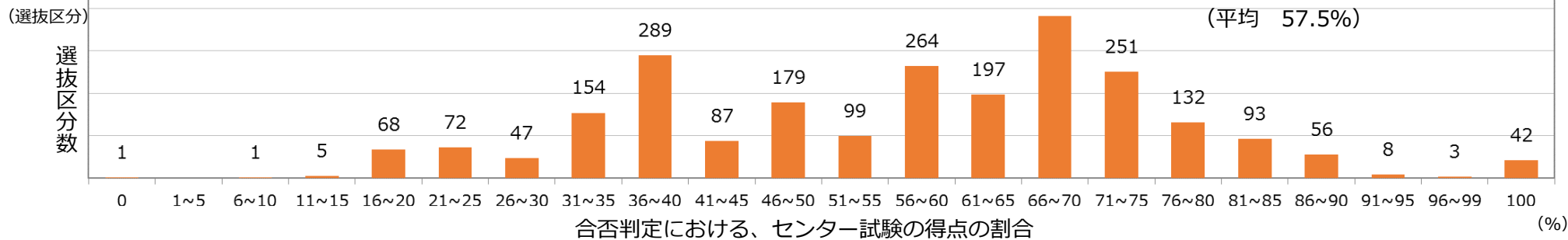
私立：n=104選抜区分

# センター試験の合否判定時の換算点の割合（一般入試）

一般入試において、合否判定での総合点に占めるセンター試験の配点の割合は、平均して、国立大学では57.5%、公立大学では65.7%、私立大学では個別選抜のみあるいはセンター試験のみによる選抜区分が多い。

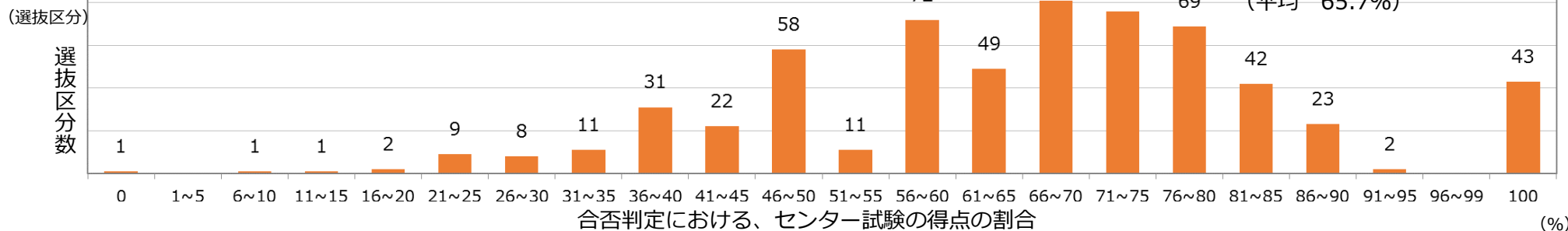
## 国立大学

(n=2,430選抜区分・単数回答)



## 公立大学

(n=612選抜区分・単数回答)



## 私立大学

(n=20,350選抜区分・単数回答)



※ nは、一般入試のうち、センター試験を個別選抜と合算しないもの及び合否判定時の換算点の回答がないものを除外している

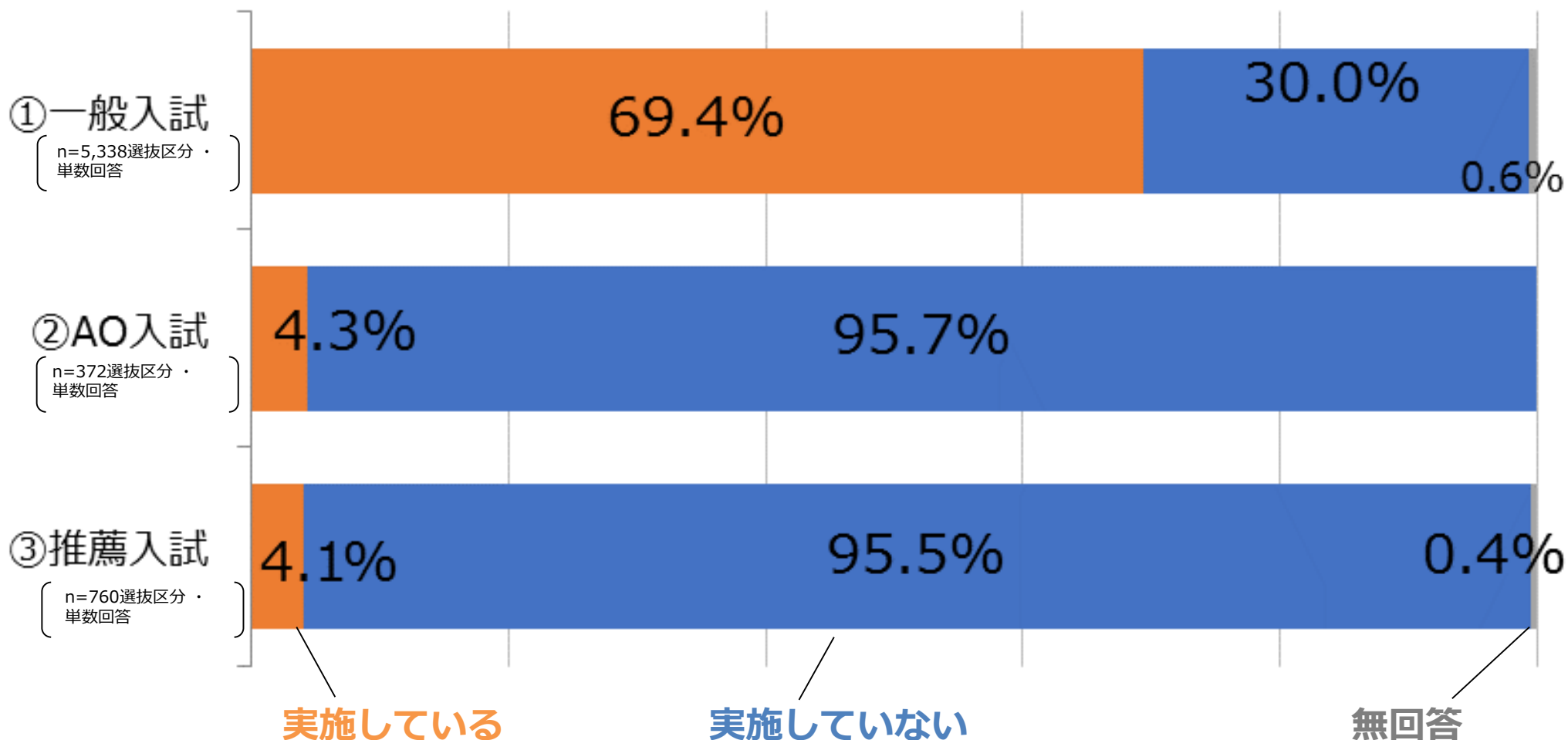
【出典】文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査（令和2年度）」

## 4. 個別選抜の実態

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| ・ 個別学力検査実施の有無 .....              | 49 |
| ・ 合否判定に利用する個別学力検査の科目数 .....      | 50 |
| ・ 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況 ..... | 53 |
| ・ 英語に係る技能別の出題の有無 .....           | 67 |
| ・ 小論文出題状況 .....                  | 68 |
| ・ AO入試における学力把握措置 .....           | 69 |
| ・ 推薦入試における学力把握措置 .....           | 70 |
| ・ AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況 ..... | 71 |
| ・ 推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況 ..... | 72 |
| ・ 学力検査以外の資料等の考慮 .....            | 73 |
| ・ 学力検査以外に考慮する資料等の利用率 .....       | 74 |

## 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用あり）

センター試験を利用していると回答した選抜区分（n=6,479）のうち、更に、個別学力検査を実施しているのは、一般入試が69.4%（3,704選抜区分）、AO入試が4.3%（16選抜区分）、推薦入試が4.1%（31選抜区分）。



# 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用あり）

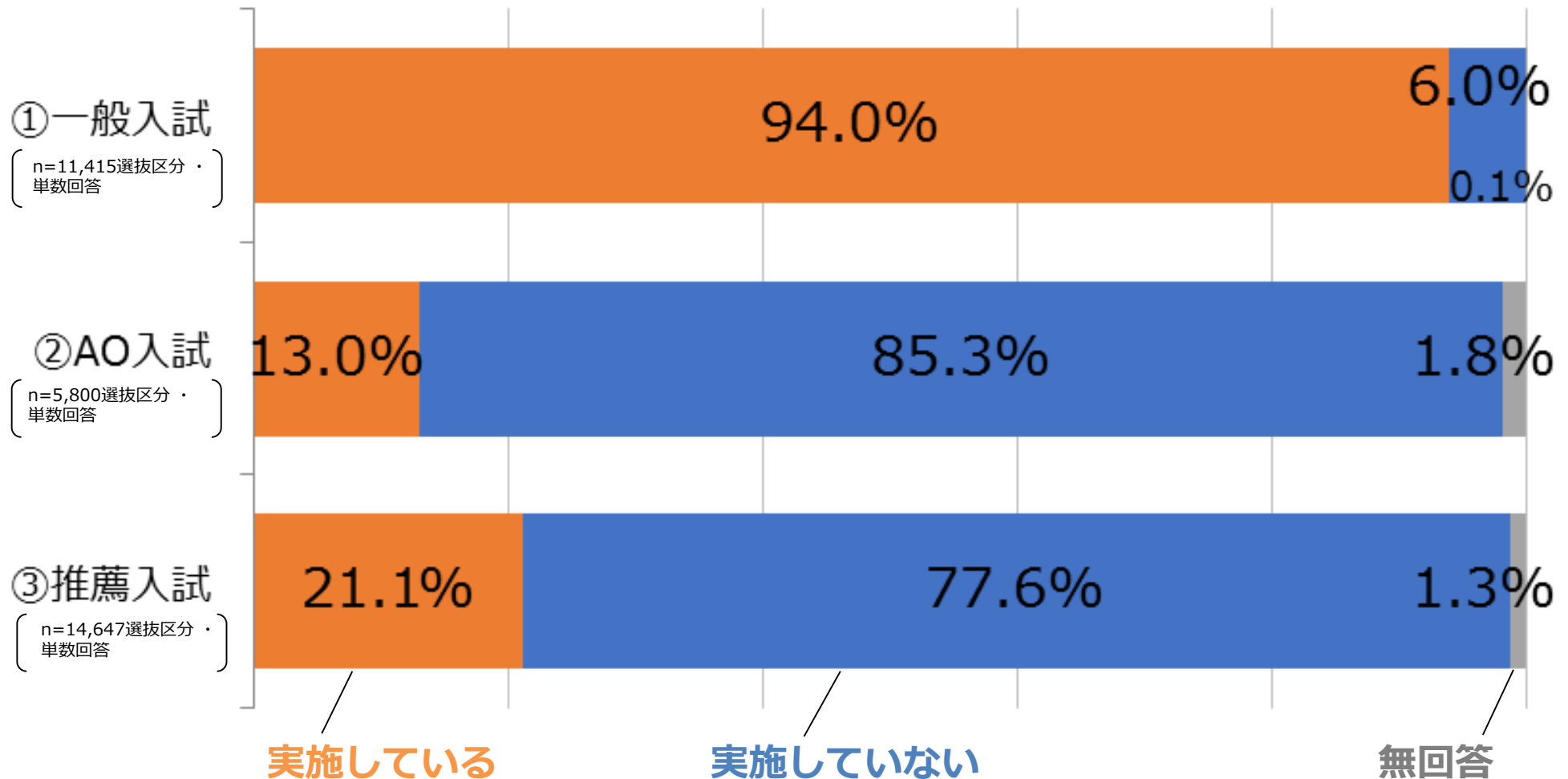
センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、国立大学では2・1・4科目、公立大学では1・2科目、私立大学では1・2科目が多い。

| 入試方法 | 国公私                 | 1科目   | 2科目   | 3科目   | 4科目   | 5科目  | 6科目  | 7科目  | 8科目  | 無回答   | 平均科目数 |
|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|-------|-------|
| 一般入試 | 国立<br>(n=1,741選抜区分) | 27.8% | 32.3% | 13.7% | 22.1% | 2.0% | 0.0% | 0.3% | 1.2% | 0.5%  | 2.5   |
|      | 公立<br>(n=357選抜区分)   | 43.7% | 34.5% | 13.2% | 6.7%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.0%  | 1.8   |
|      | 私立<br>(n=1,606選抜区分) | 41.7% | 36.9% | 19.7% | 1.1%  | 0.0% | 0.1% | 0.0% | 0.0% | 0.5%  | 1.8   |
| AO入試 | 国立<br>(n=13選抜区分)    | 92.3% | 7.7%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | 1.1   |
|      | 公立<br>(n=0選抜区分)     |       |       |       |       |      |      |      |      |       |       |
|      | 私立<br>(n=3選抜区分)     | 66.7% | 33.3% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | 1.3   |
| 推薦入試 | 国立<br>(n=6選抜区分)     | 66.7% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 33.3% | 1.0   |
|      | 公立<br>(n=7選抜区分)     | 71.4% | 0.0%  | 28.6% | 0.0%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | 1.6   |
|      | 私立<br>(n=18選抜区分)    | 83.3% | 16.7% | 0.0%  | 0.0%  | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | 1.2   |

※ nは、センター試験を利用し、かつ個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～8の選抜区分のみ集計

## 個別学力検査実施の有無（センター試験の利用なし）

センター試験を利用していないと回答した選抜区分（n=31,994）のうち、個別学力検査を実施していないのは、一般入試が6.0%（680選抜区分）、AO入試が85.3%（4,946選抜区分）、推薦入試が77.6%（11,362選抜区分）。



# 合否判定に利用する個別学力検査の科目数（センター試験の利用なし）

センター試験を利用せず、個別学力検査を課す場合、合否判定に利用する個別学力検査の科目数は、一般入試において、私立大学では2・3科目が多い。

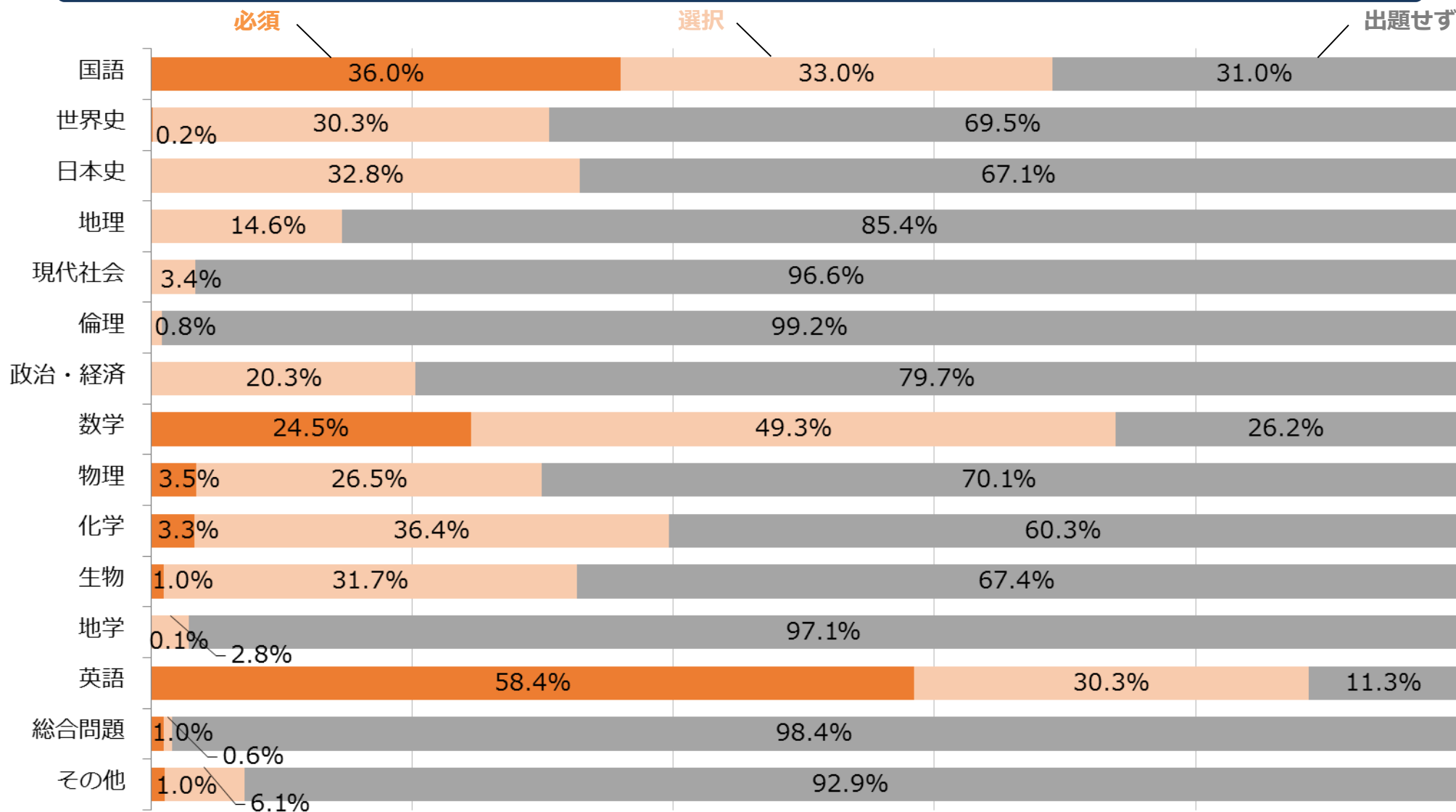
| 入試方法 | 国公私                  | 1科目           | 2科目           | 3科目          | 4科目  | 5科目  | 6科目  | 7科目  | 8科目  | 無回答   | 平均科目数      |
|------|----------------------|---------------|---------------|--------------|------|------|------|------|------|-------|------------|
| 一般入試 | 国立<br>(n=0選抜区分)      |               |               |              |      |      |      |      |      |       |            |
|      | 公立<br>(n=1選抜区分)      | 0.0%          | <b>100.0%</b> | 0.0%         | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | <b>2.0</b> |
|      | 私立<br>(n=10,726選抜区分) | 8.1%          | <b>48.9%</b>  | <b>39.7%</b> | 2.1% | 0.1% | 0.3% | 0.2% | 0.0% | 0.7%  | <b>2.4</b> |
| AO入試 | 国立<br>(n=50選抜区分)     | <b>34.0%</b>  | <b>48.0%</b>  | 18.0%        | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | <b>1.8</b> |
|      | 公立<br>(n=2選抜区分)      | <b>50.0%</b>  | <b>50.0%</b>  | 0.0%         | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | <b>1.5</b> |
|      | 私立<br>(n=700選抜区分)    | <b>44.6%</b>  | <b>35.1%</b>  | 15.4%        | 0.9% | 1.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.6%  | <b>1.8</b> |
| 推薦入試 | 国立<br>(n=22選抜区分)     | <b>100.0%</b> | 0.0%          | 0.0%         | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0%  | <b>1.0</b> |
|      | 公立<br>(n=59選抜区分)     | <b>62.7%</b>  | 15.3%         | 1.7%         | 5.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 15.3% | <b>1.4</b> |
|      | 私立<br>(n=3,015選抜区分)  | 39.8%         | <b>51.1%</b>  | 5.7%         | 0.7% | 0.2% | 0.6% | 0.0% | 0.0% | 1.8%  | <b>1.7</b> |

※ nは、センター試験を利用せず、個別学力検査を課す選抜区分のうち、合否判定に利用する個別学力検査の科目数が1～8の選抜区分のみ集計



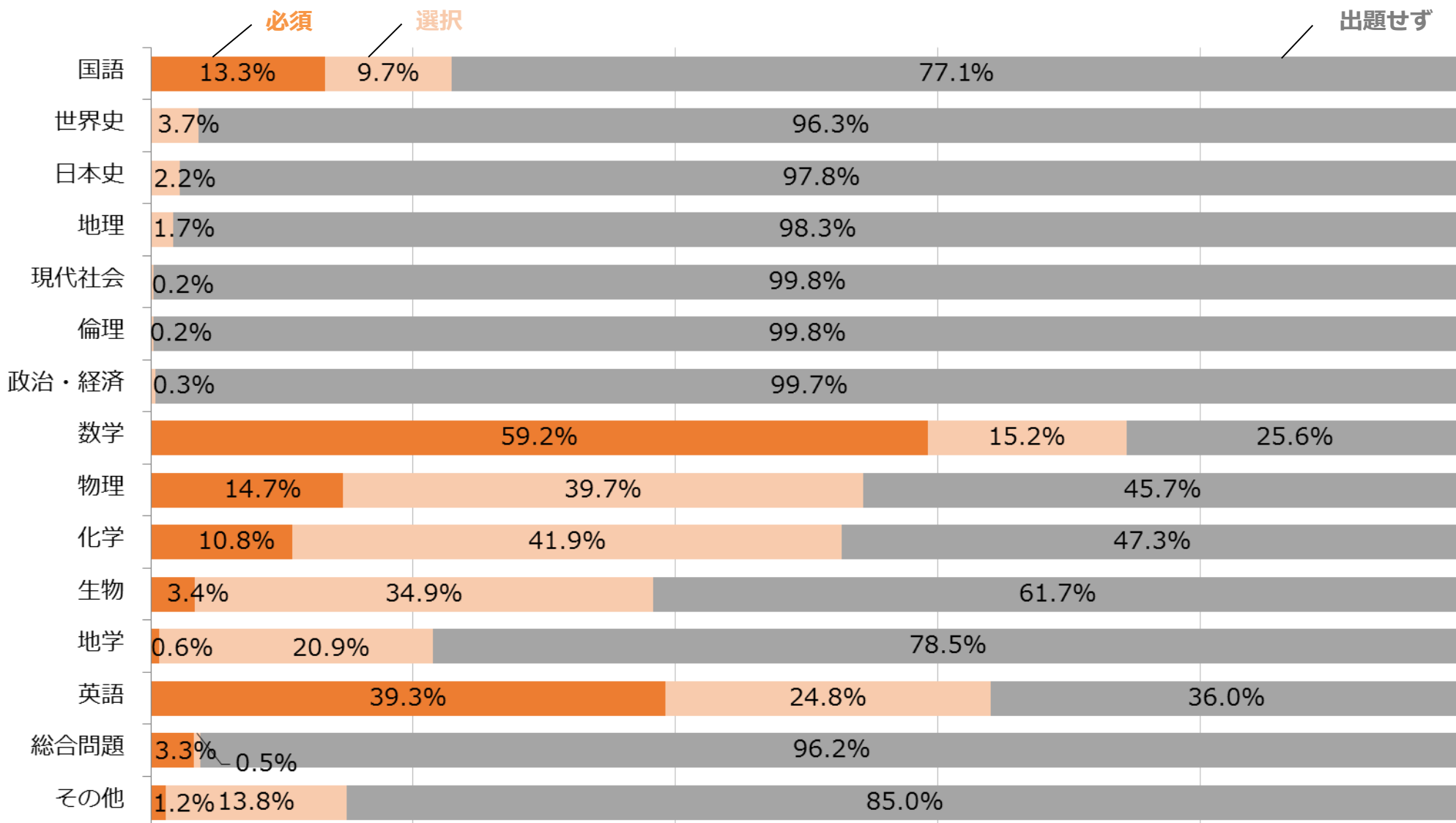
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況①

一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 88.7%）、数学（同 73.8%）、国語（同 69.0%）を出題する選抜区分が多い。



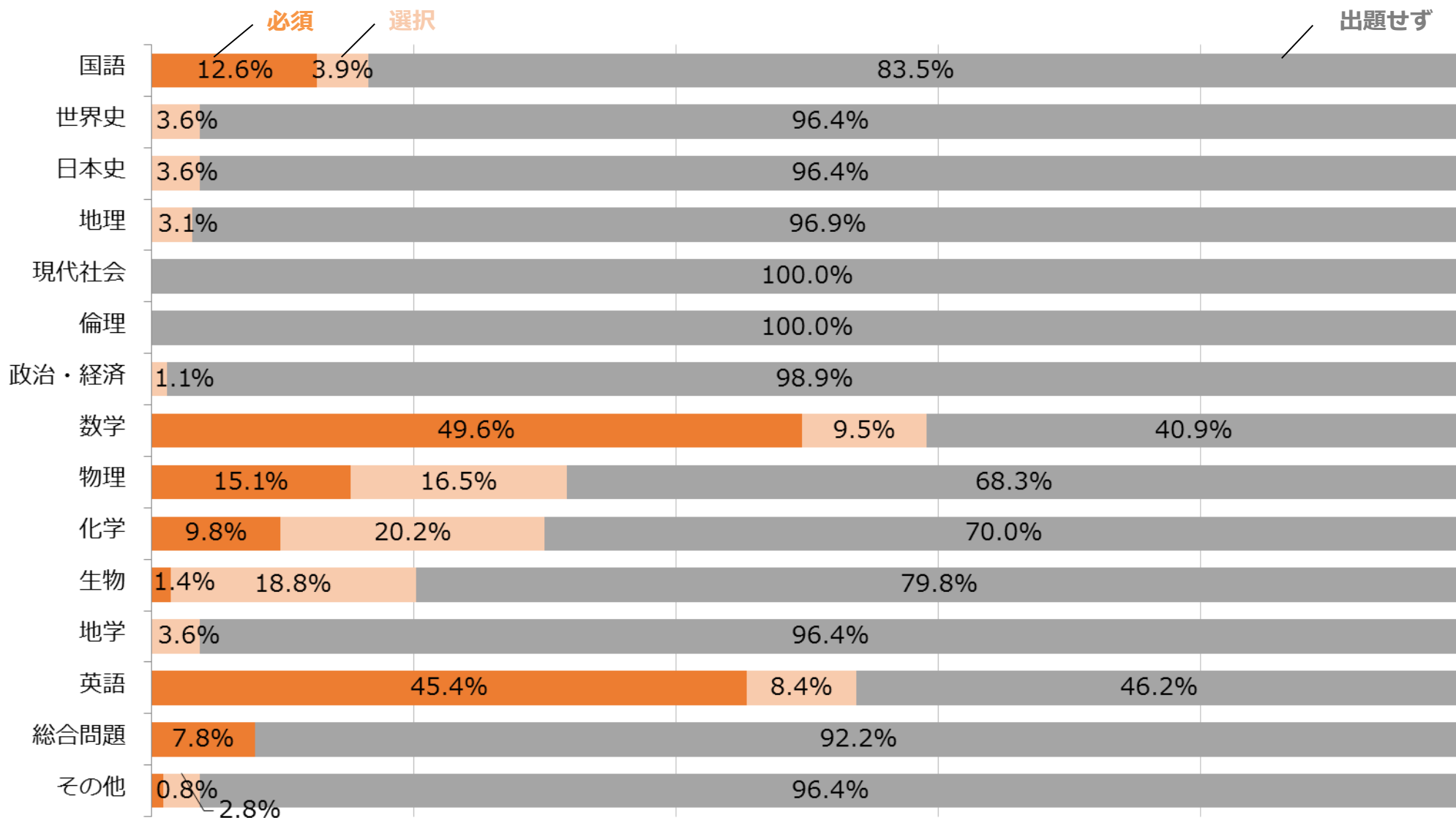
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況②（国立大学）

国立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 74.4%）、英語（同 64.1%）、物理（同 54.4%）を出題する選抜区分が多い。



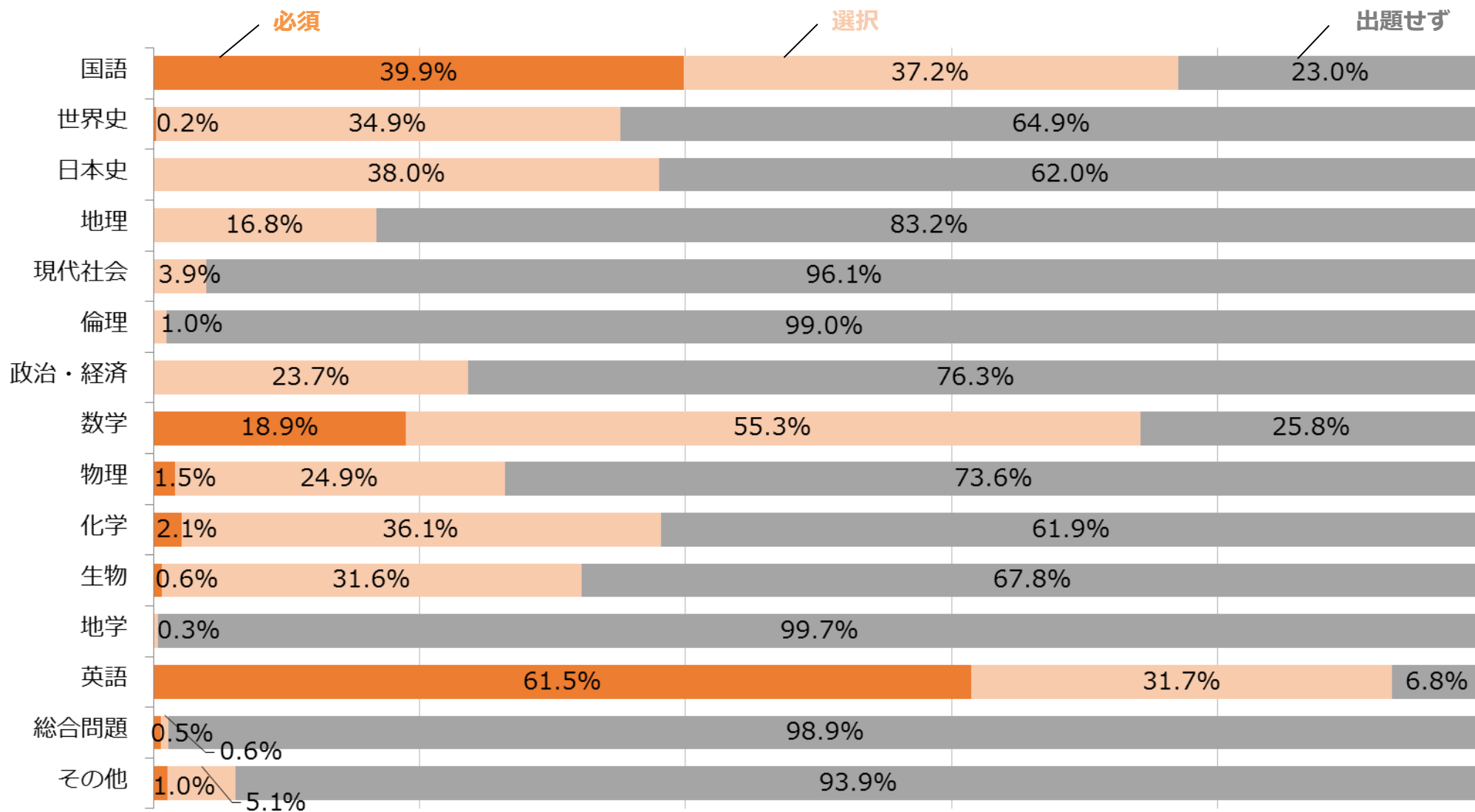
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況③（公立大学）

公立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須+選択 59.1%）、英語（同 53.8%）、物理（同 31.6%）を出題する選抜区分が多い。



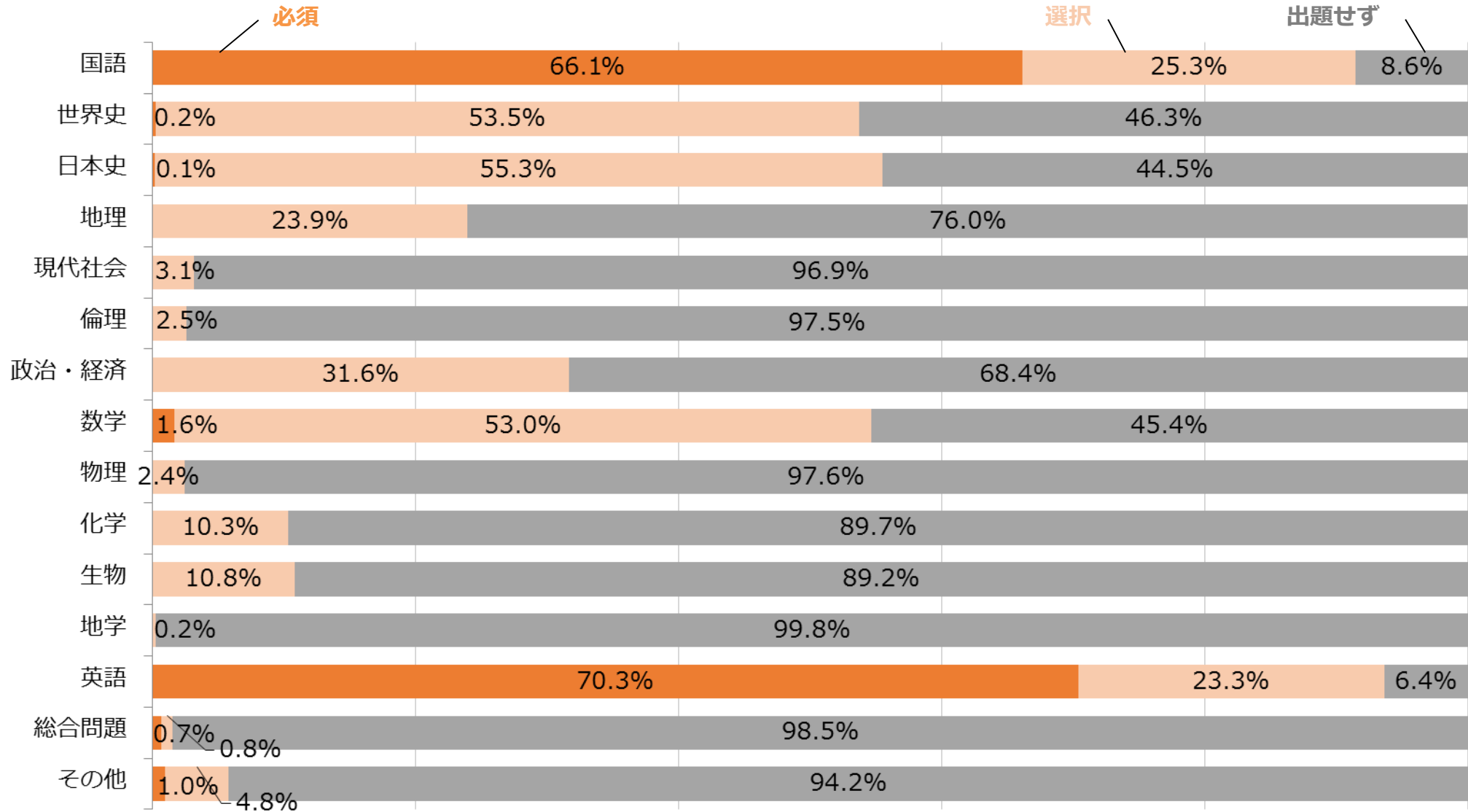
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況④（私立大学）

私立大学において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.2%）、国語（同 77.1%）、数学（同 74.2%）を出題する選抜区分が多い。



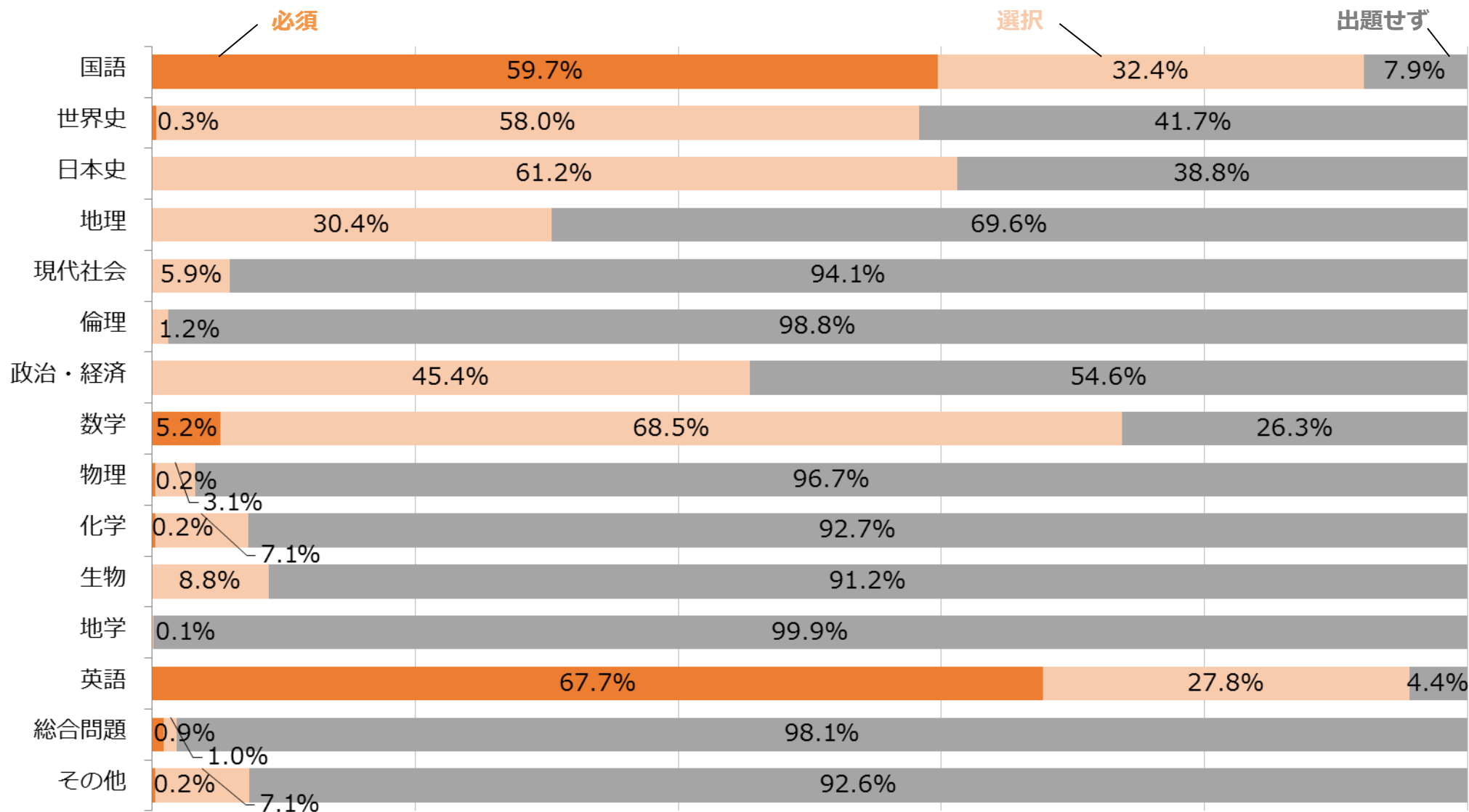
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑤（学科系統分類別／人文科学）

人文科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.6%）、国語（同 91.4%）、日本史（同 55.4%）を出題する選抜区分が多い。



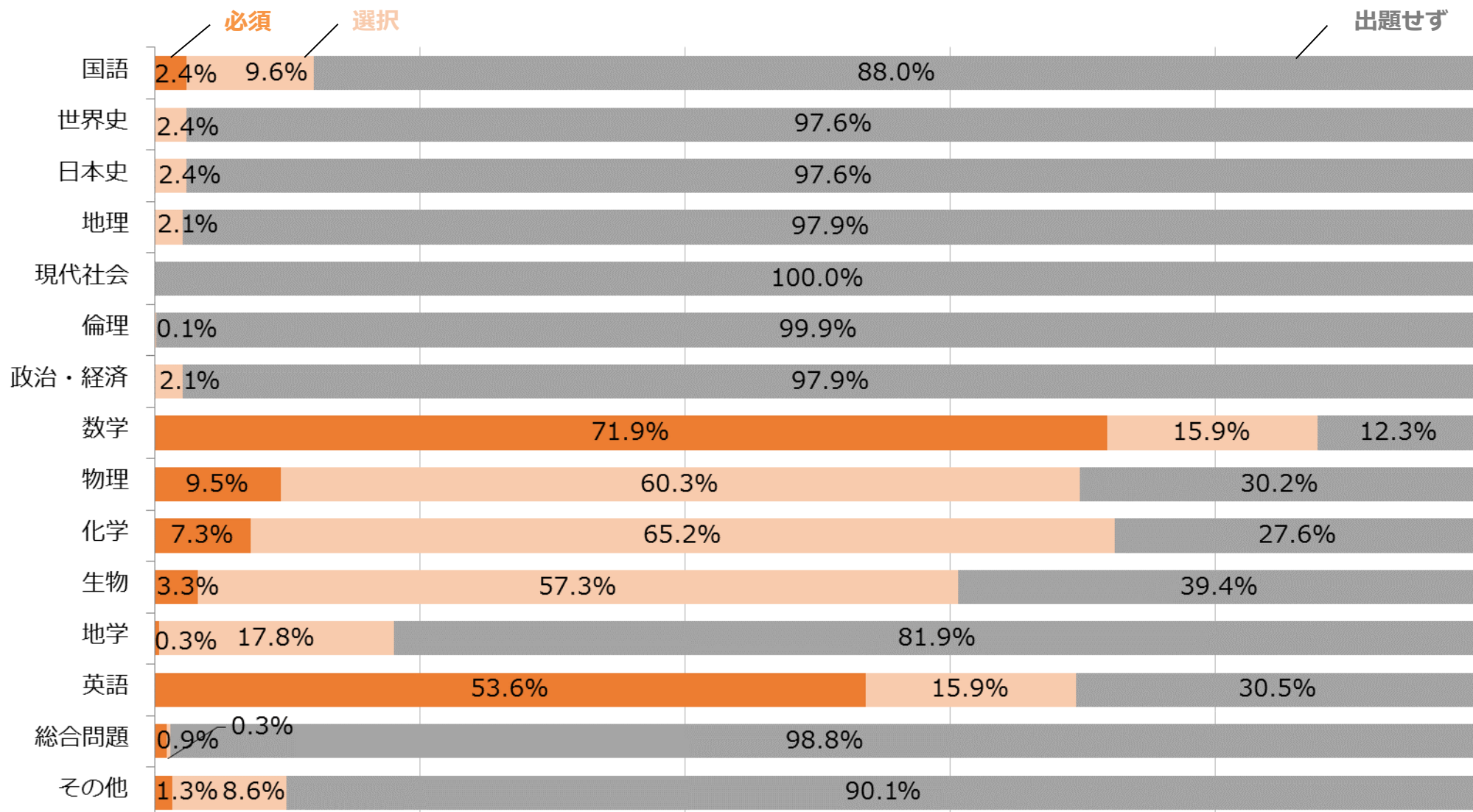
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑥（学科系統分類別／社会科学）

社会科学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 95.5%）、国語（同 92.1%）、数学（同 73.7%）を出題する選抜区分が多い。



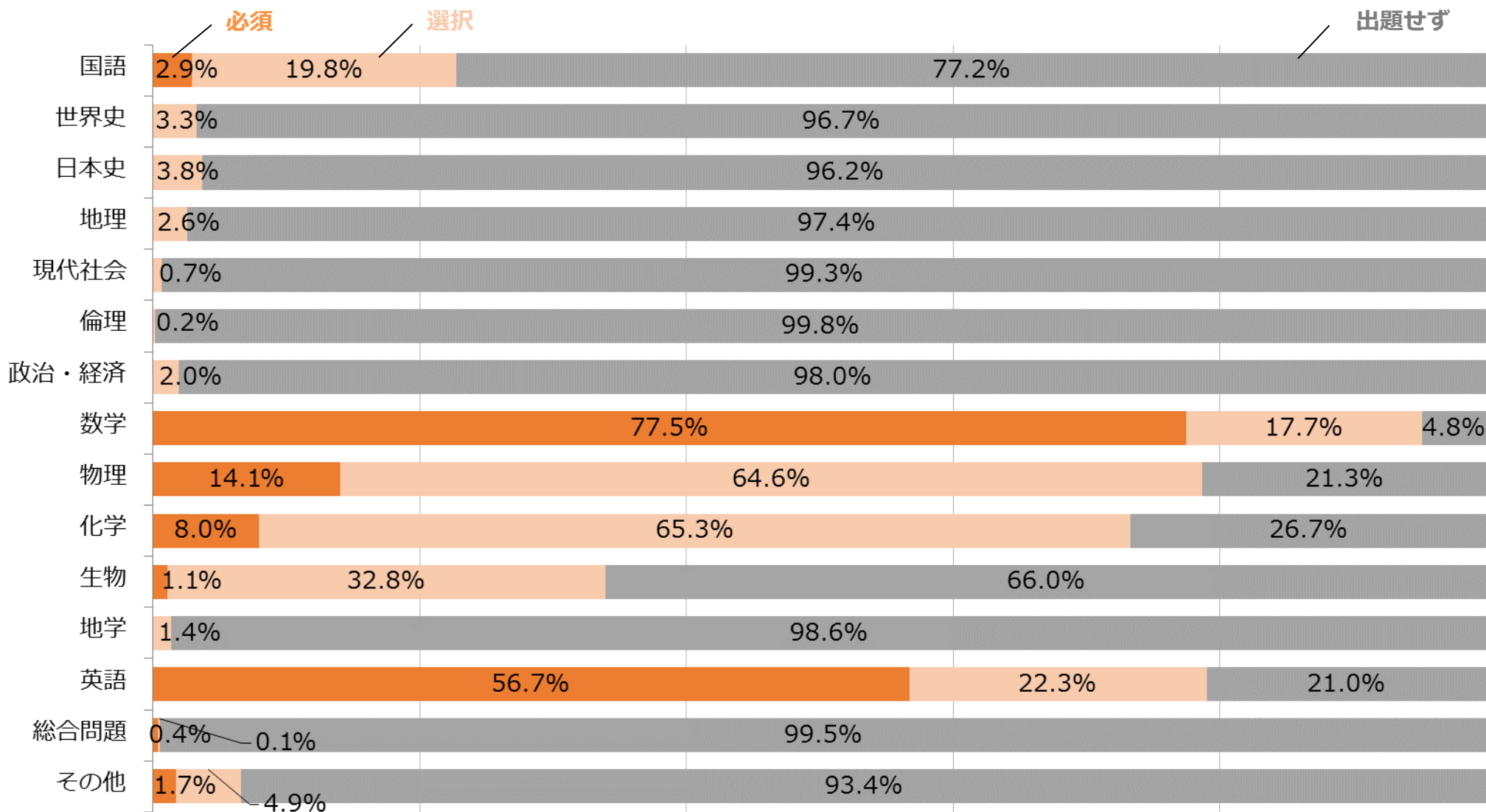
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑦（学科系統分類別／理学）

理学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 87.8%）、化学（72.5%）、物理（69.8%）を出題する選抜区分が多い。



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑧（学科系統分類別／工学）

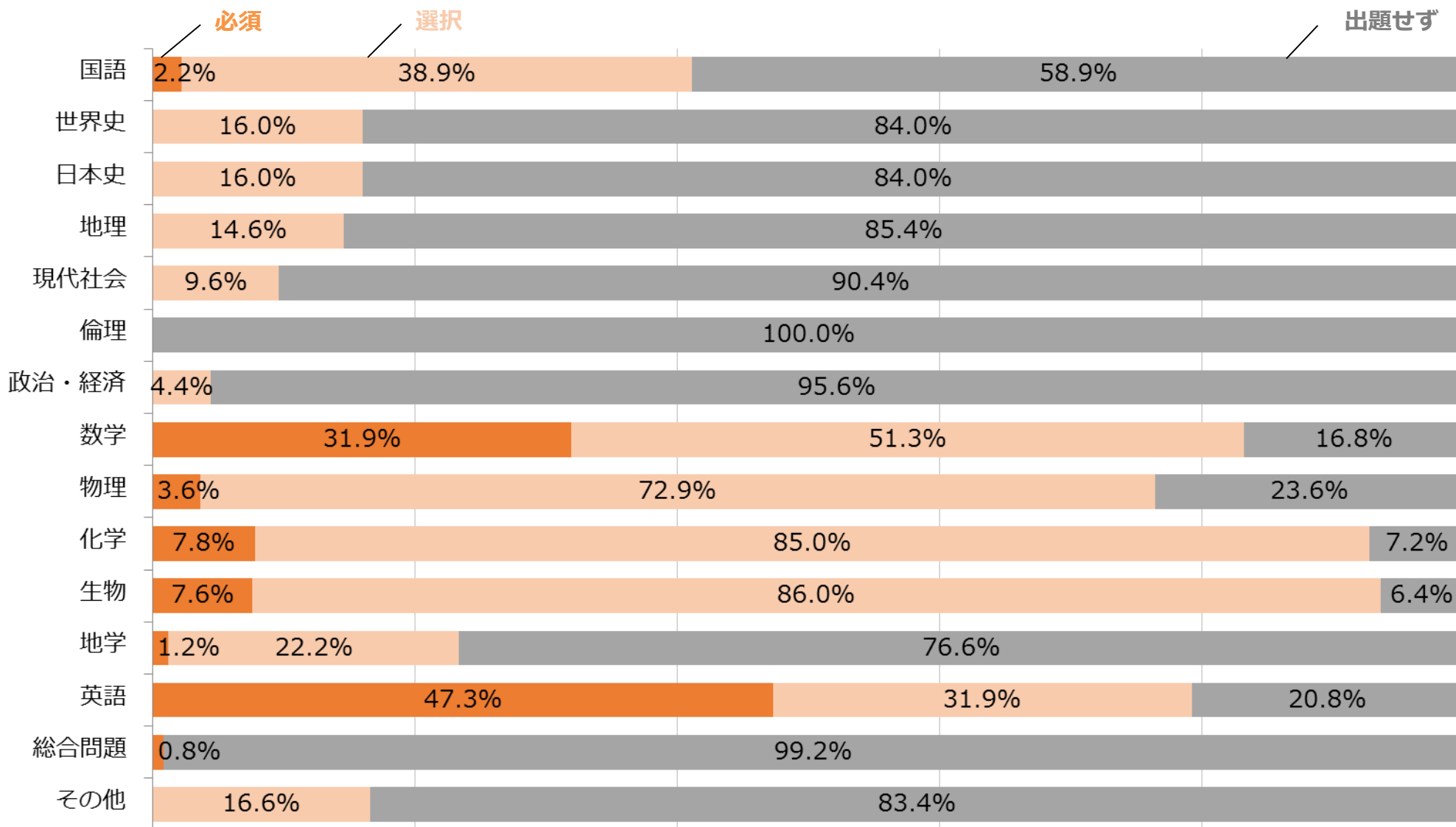
工学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、数学（必須＋選択 95.2%）、英語（同 79.0%）、物理（同 78.7%）を出題する選抜区分が多い。





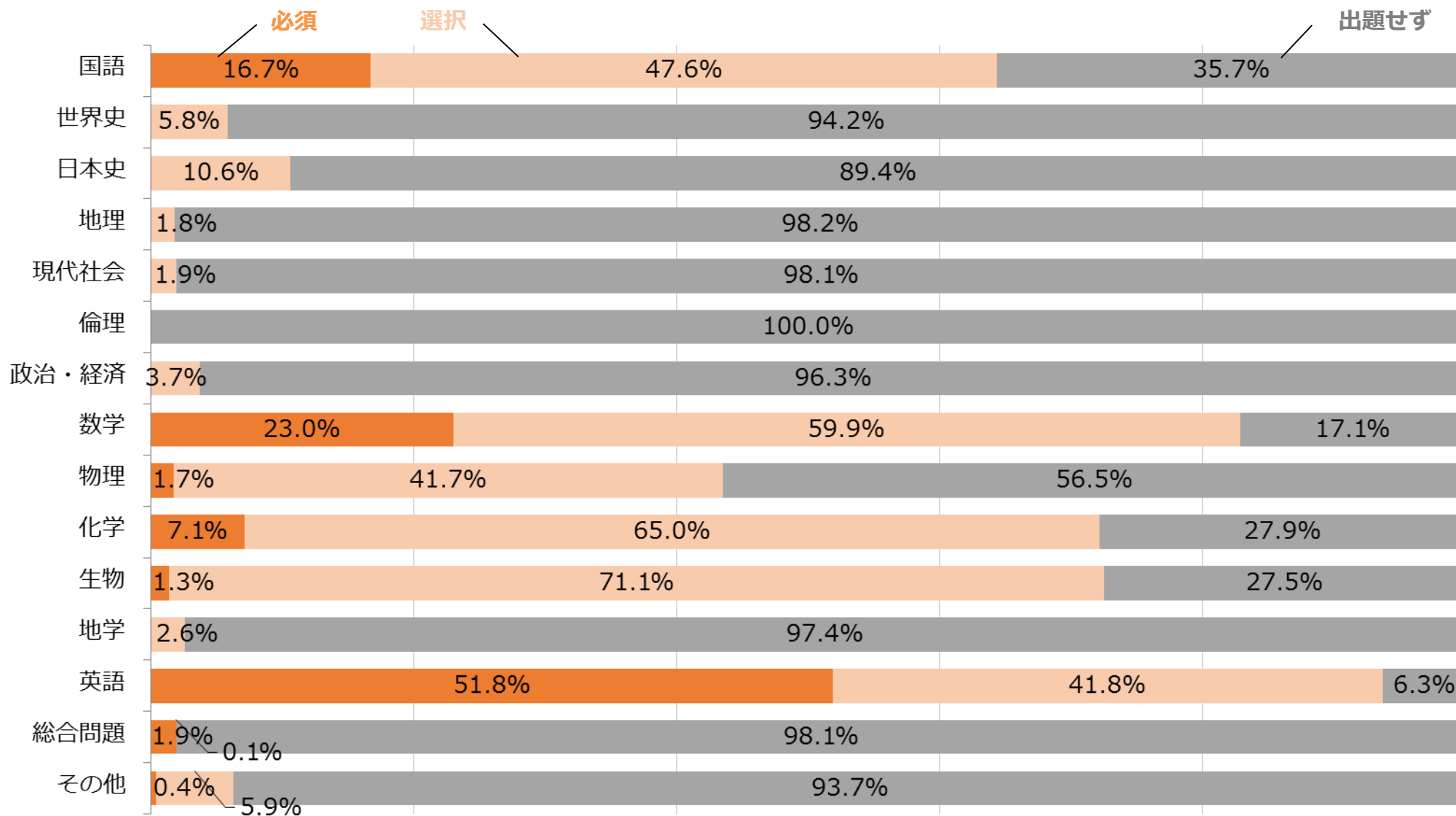
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑨（学科系統分類別／農学）

農学系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、生物（必須＋選択 93.6%）、化学（同 92.8%）、数学（同 83.2%）を出題する選抜区分が多い。



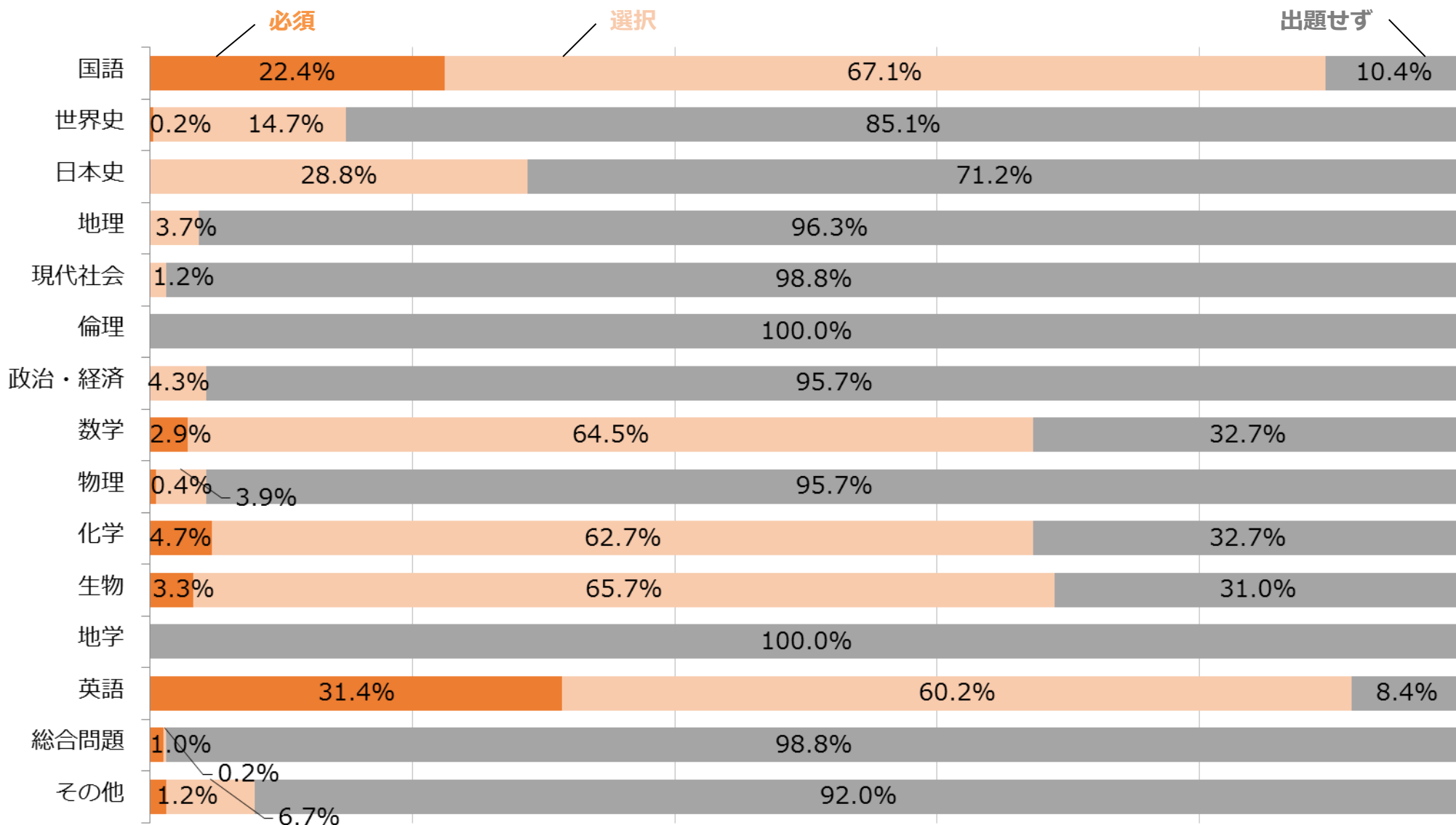
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑩（学科系統分類別／保健）

保健系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 93.6%）、数学（同 82.9%）、生物（同 72.4%）を出題する選抜区分が多い。



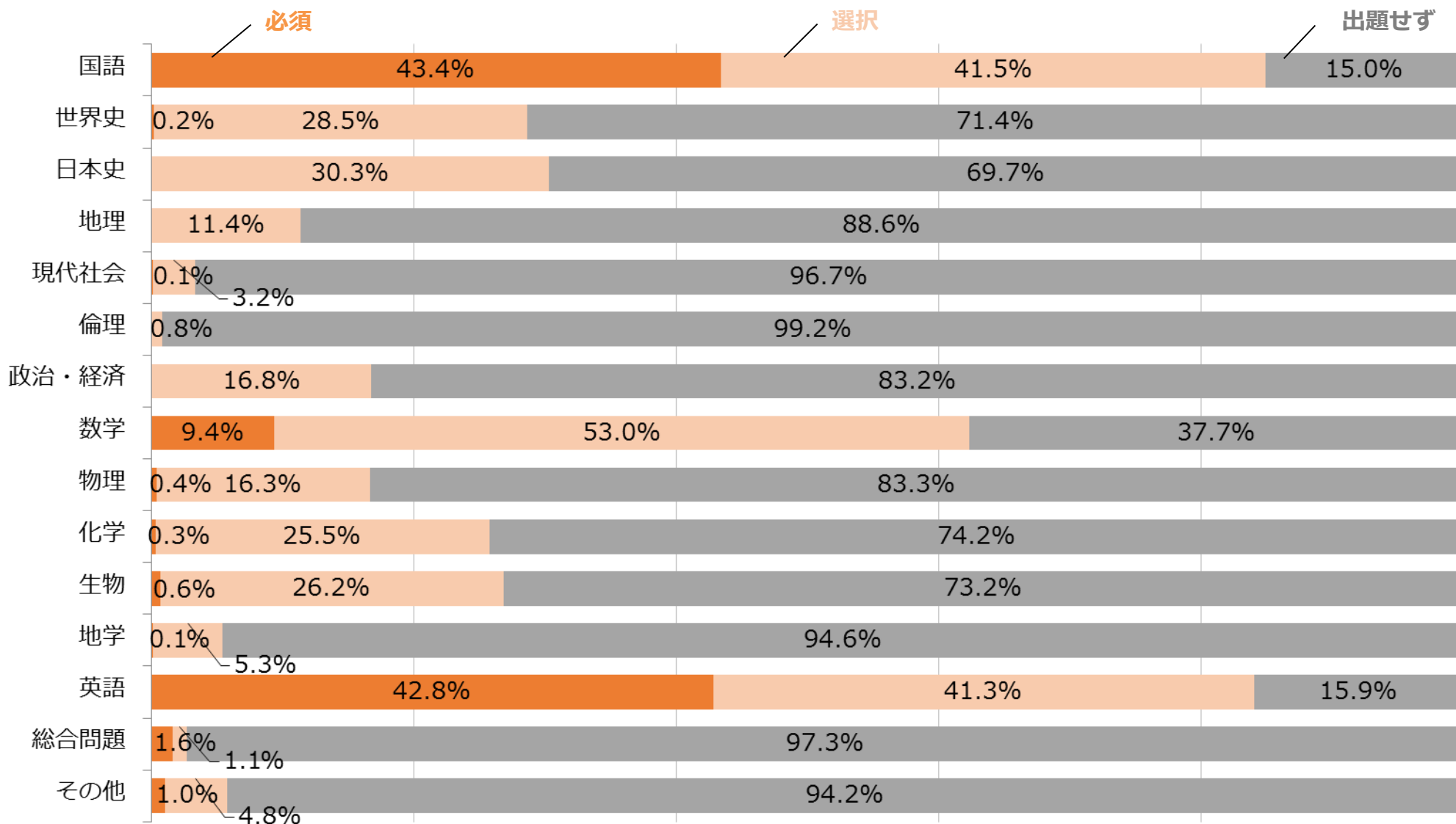
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑪（学科系統分類別／家政）

家政系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 91.6%）、国語（同 89.5%）、生物（同 69.0%）を出題する選抜区分が多い。



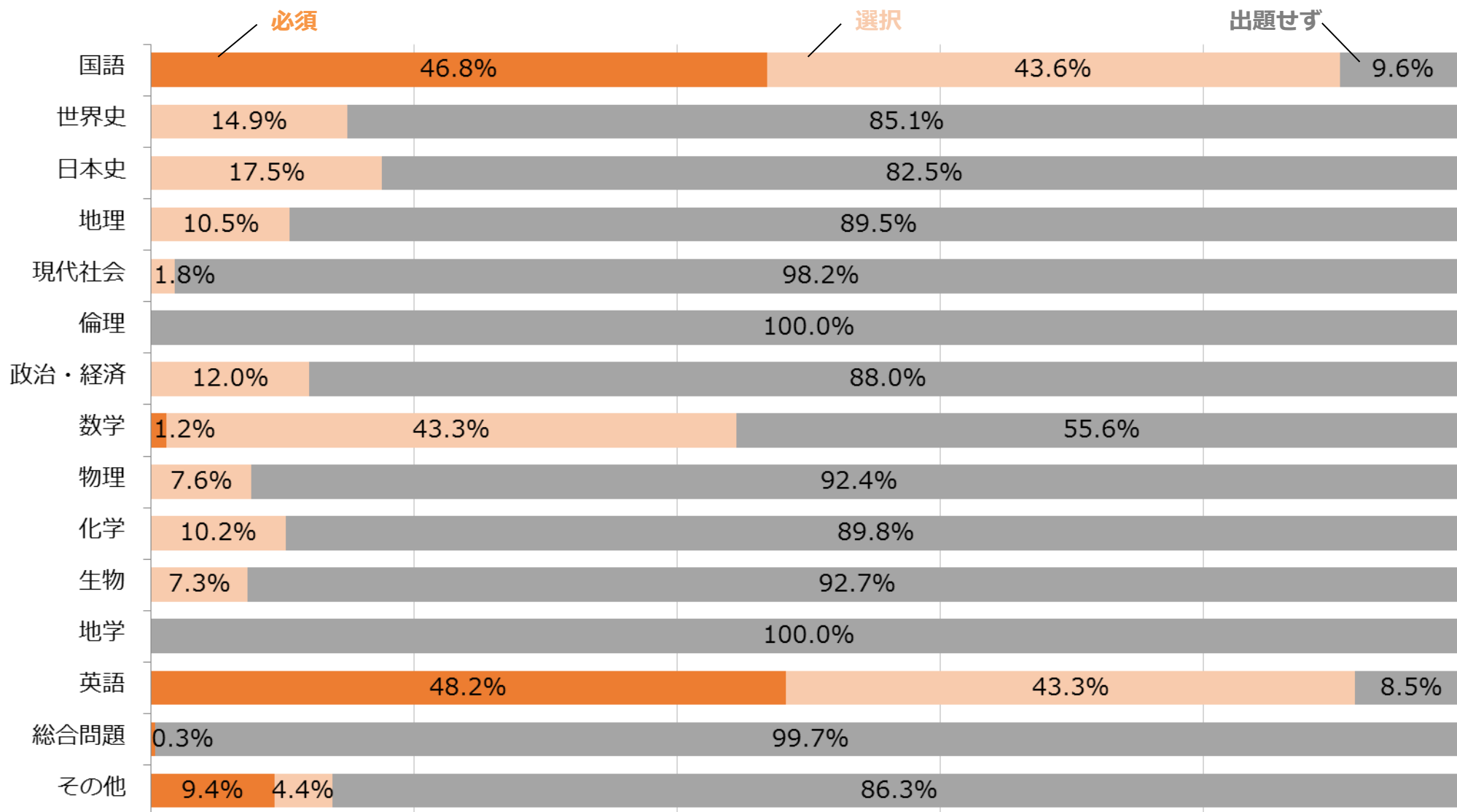
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑫（学科系統分類別／教育）

教育系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、国語（必須＋選択 84.9%）、英語（同 84.1%）、数学（同 62.4%）を出題する選抜区分が多い。



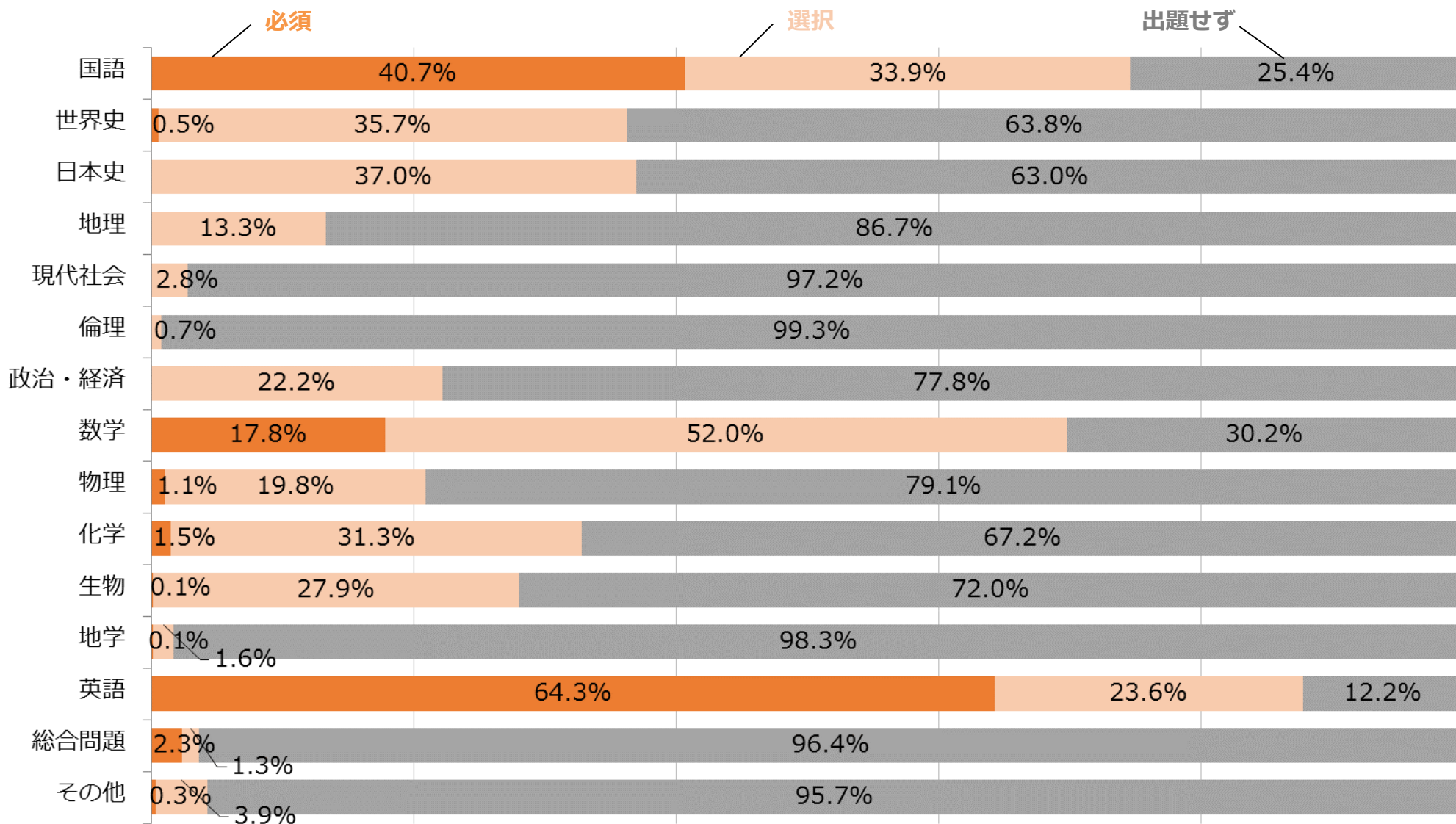
# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況⑬（学科系統分類別／芸術）

芸術系の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 91.5%）、国語（同 90.4%）、数学（同 44.5%）を出題する選抜区分が多い。



# 一般入試での個別学力検査における各科目の出題状況<sup>⑭</sup>（学科系統分類別／その他）

前記以外のその他の学科において、一般入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 17.9%）、国語（同 74.6%）、数学（同 69.8%）を出題する選抜区分が多い。

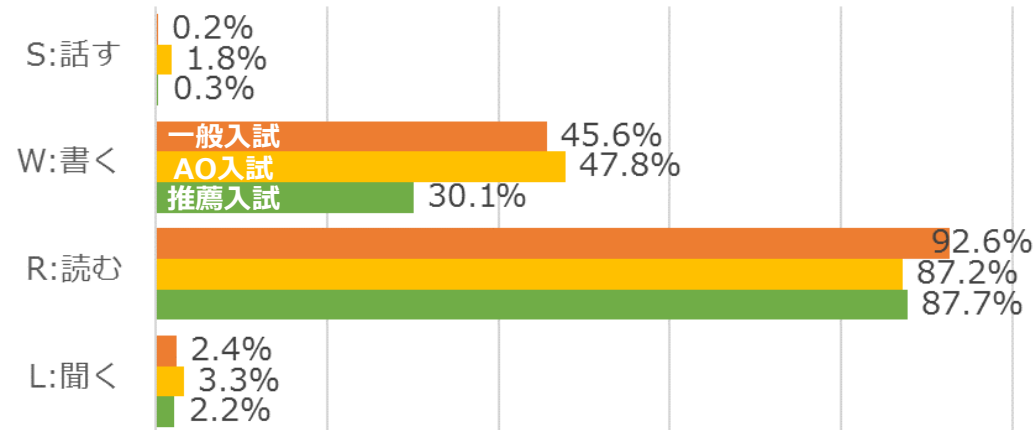


# 英語に係る技能別の出題の有無（国公私）

一般入試の個別学力検査「英語」では、「読むこと（例：筆記試験）」を92.6%、「書くこと（例：筆記試験（記述式）」を45.6%、「聞くこと（例：リスニングテスト）」を2.4%、「話すこと（例：スピーキングテスト）」を0.2%の選抜区分で出題している。

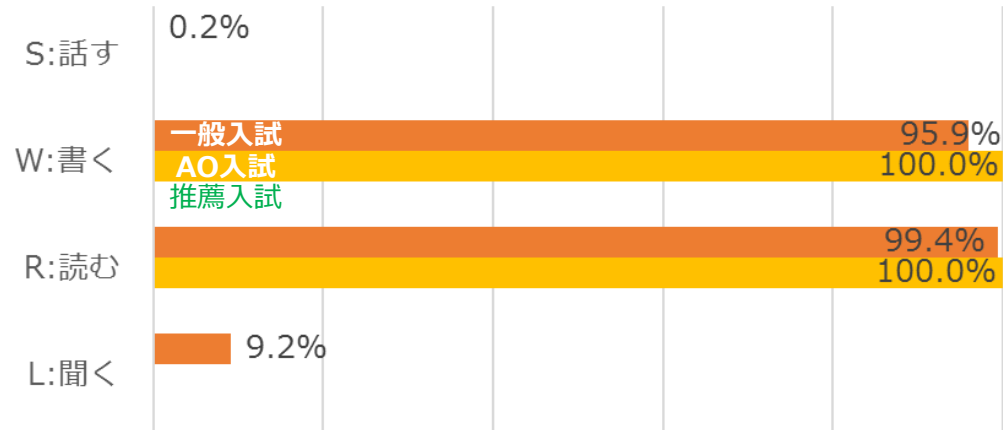
## 全 体

(n=15,312選抜区分・単数回答)



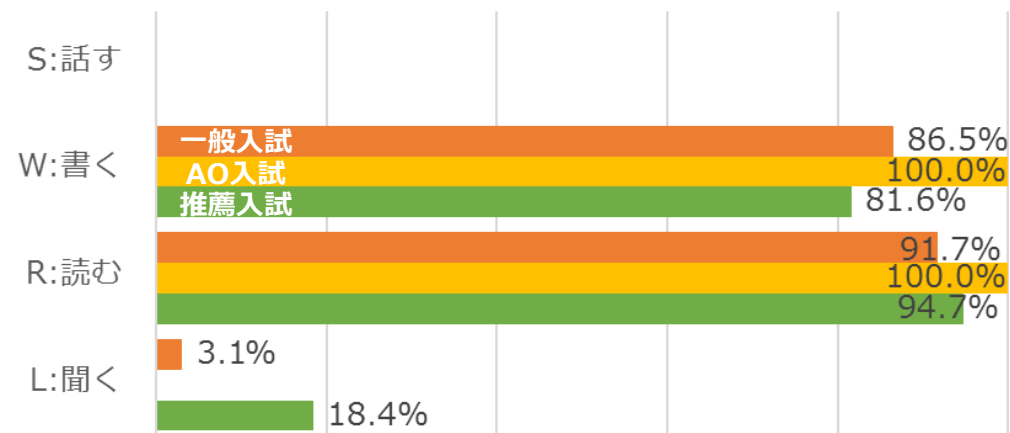
## 国立大学

(n=1,111選抜区分・単数回答)



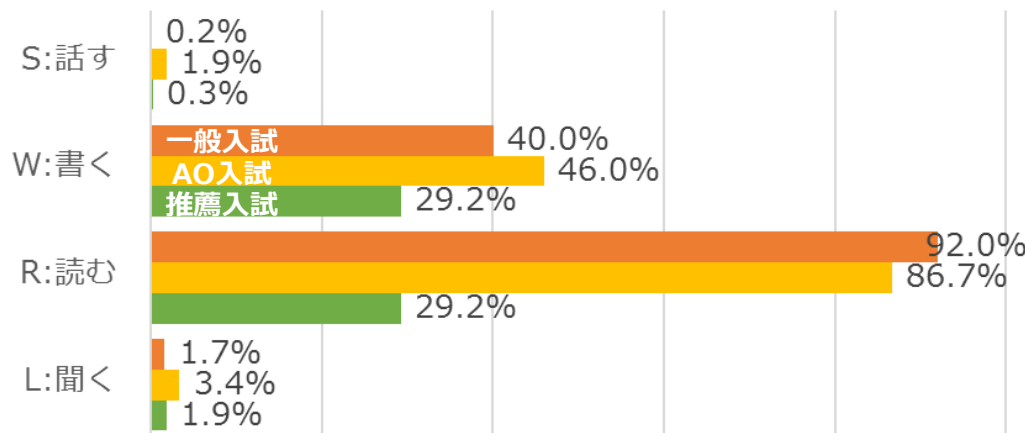
## 公立大学

(n=235選抜区分・単数回答)



## 私立大学

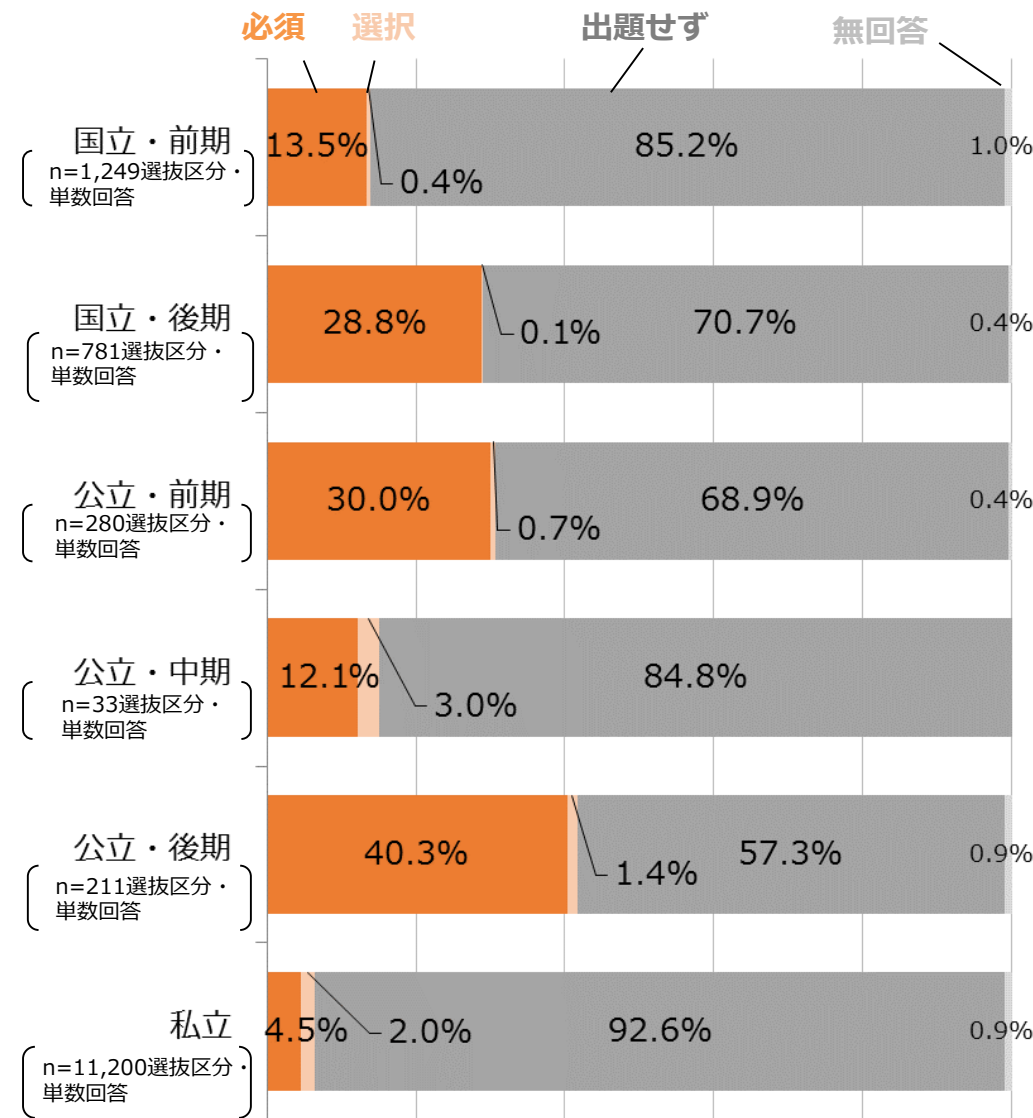
(n=13,966選抜区分・単数回答)



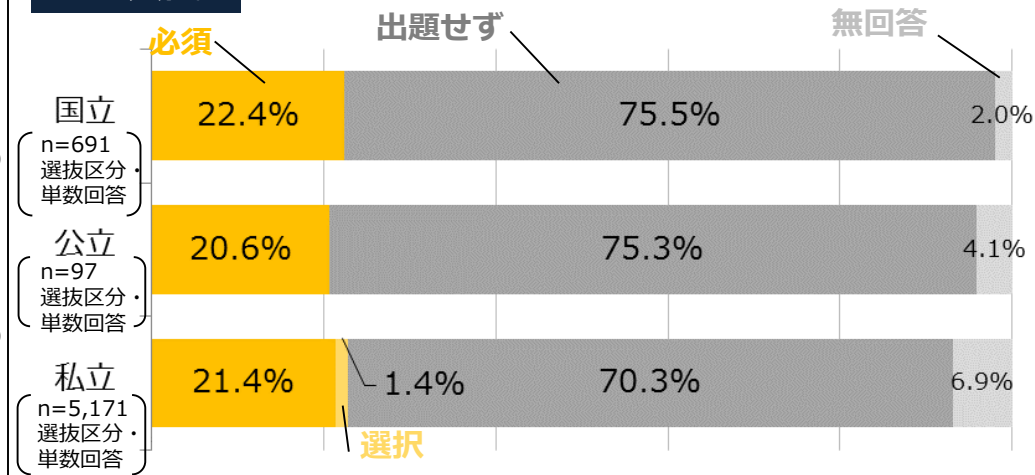


# 小論文出題状況

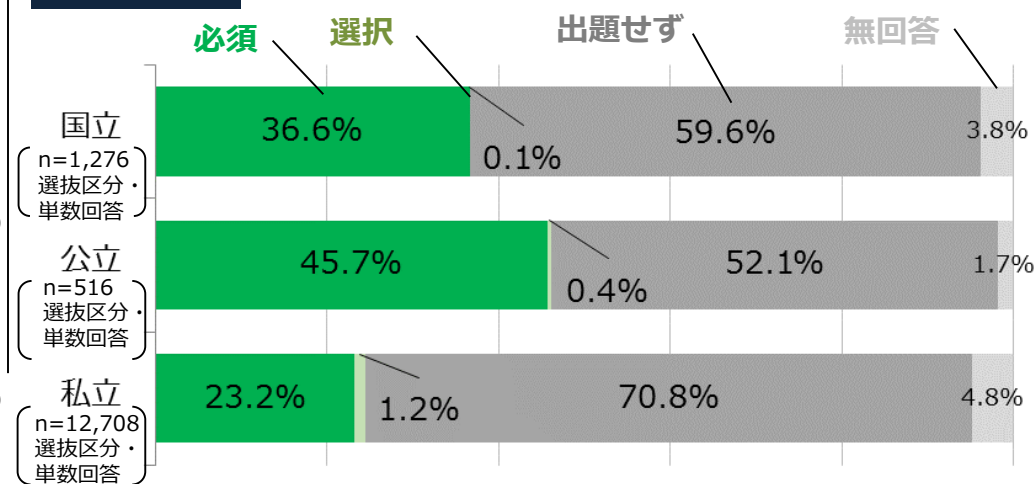
## 一般入試



## AO入試



## 推薦入試

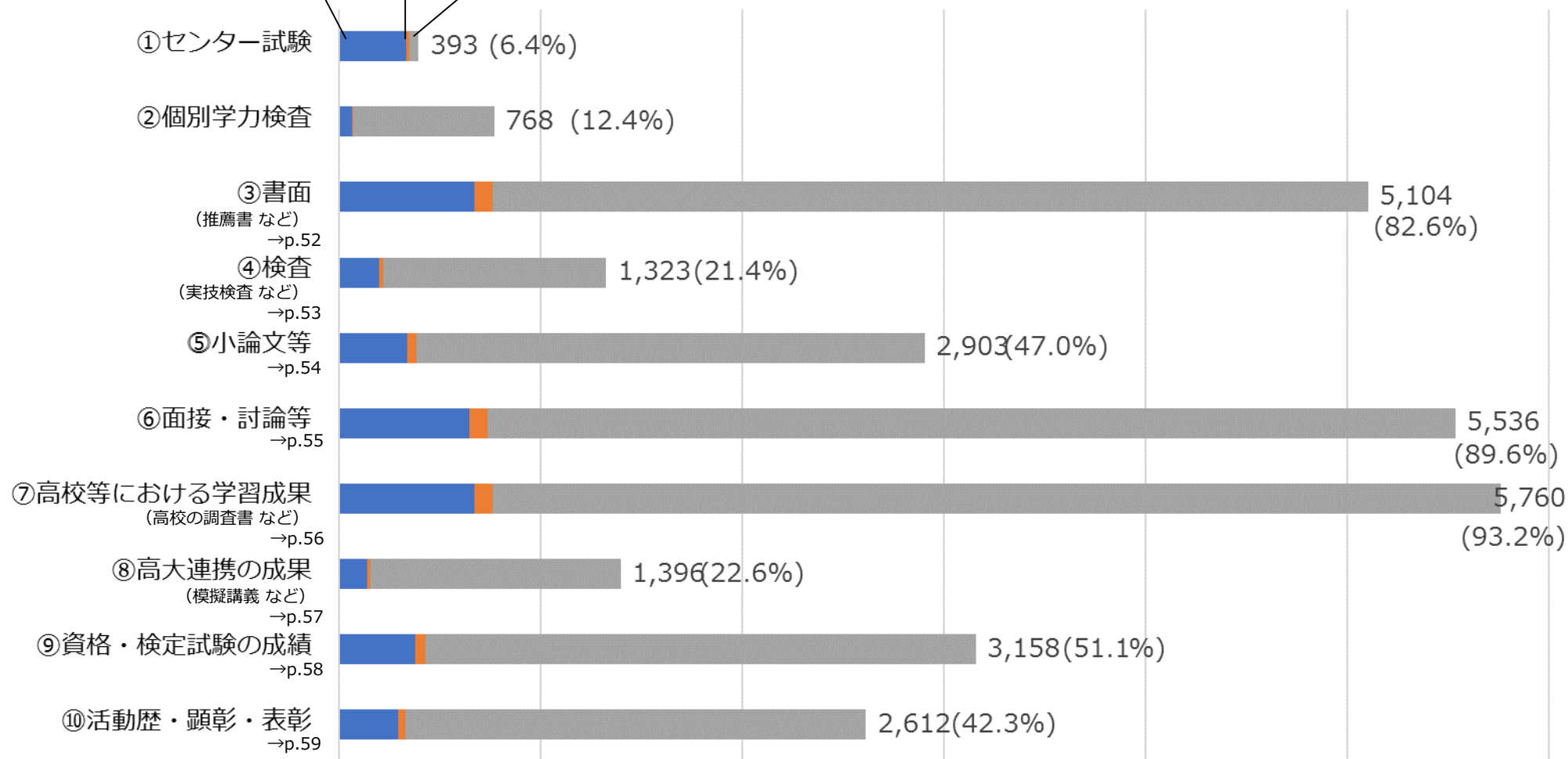


※本スライドにおける小論文は、試験科目として小論文を課すもののみを対象とし、個別学力検査におけるテストの枝問として出題する小論文を含まない。



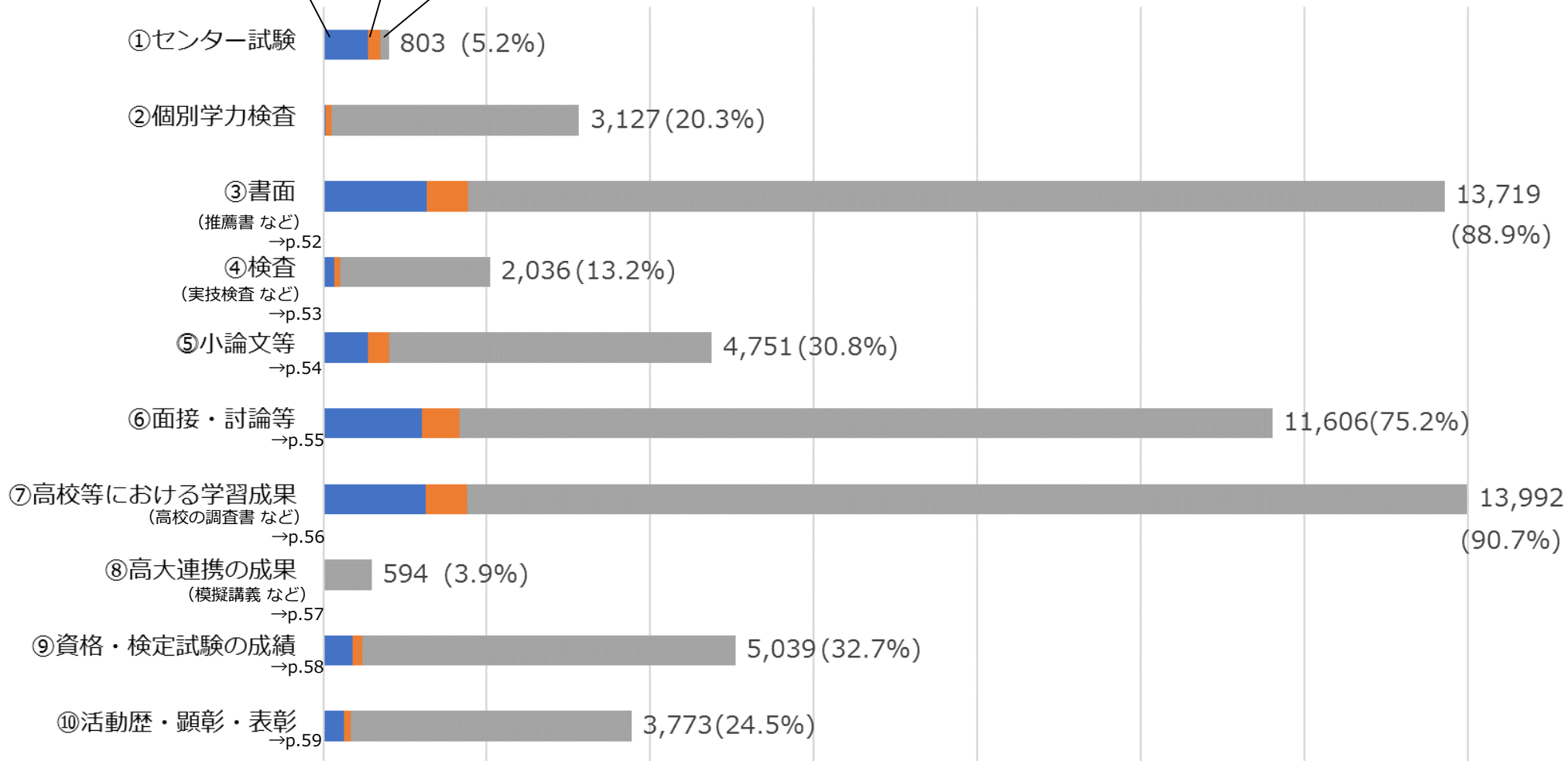
# AO入試における学力把握措置

国立大学 公立大学 私立大学



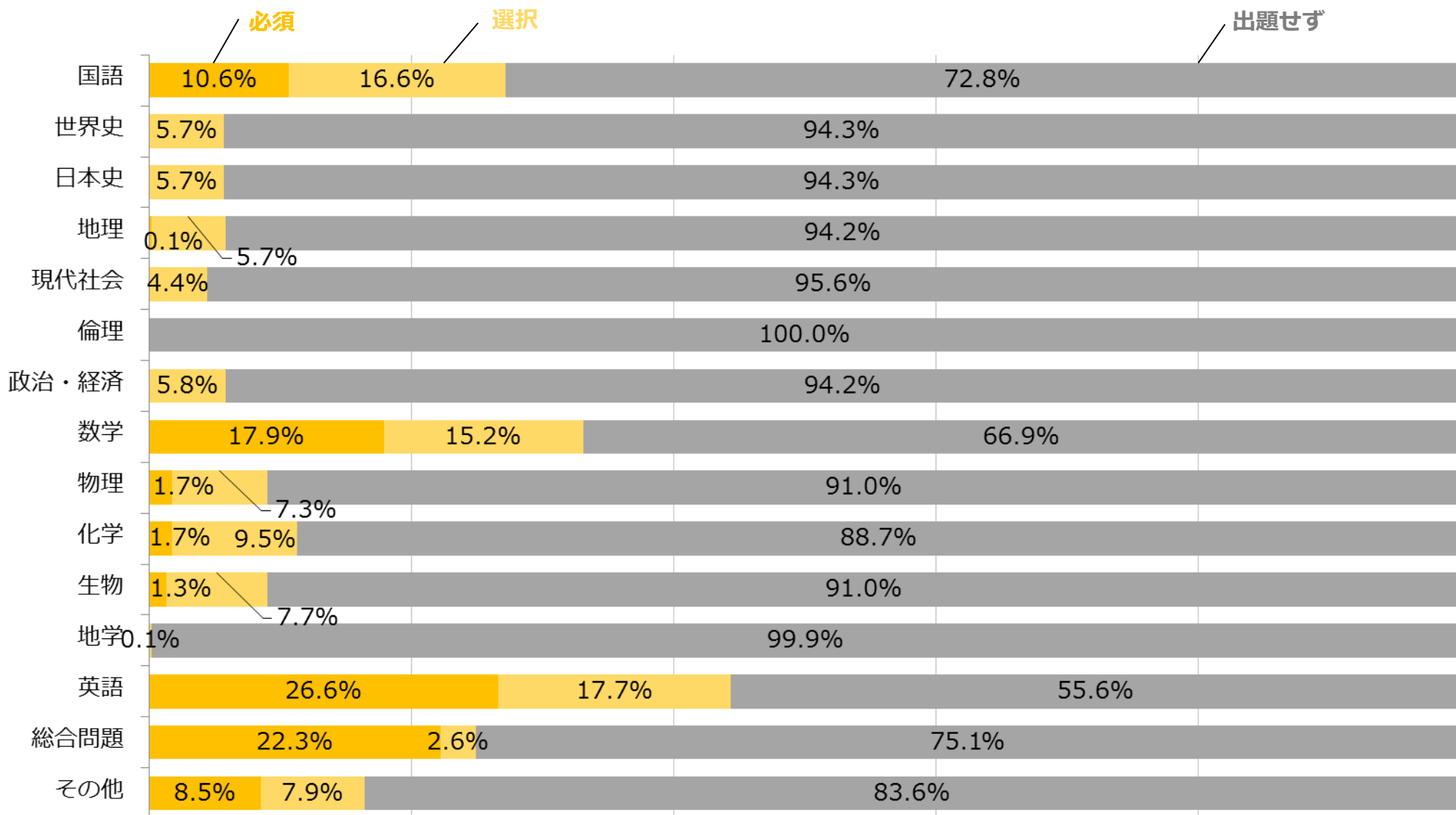
# 推薦入試における学力把握措置

国立大学 公立大学 私立大学



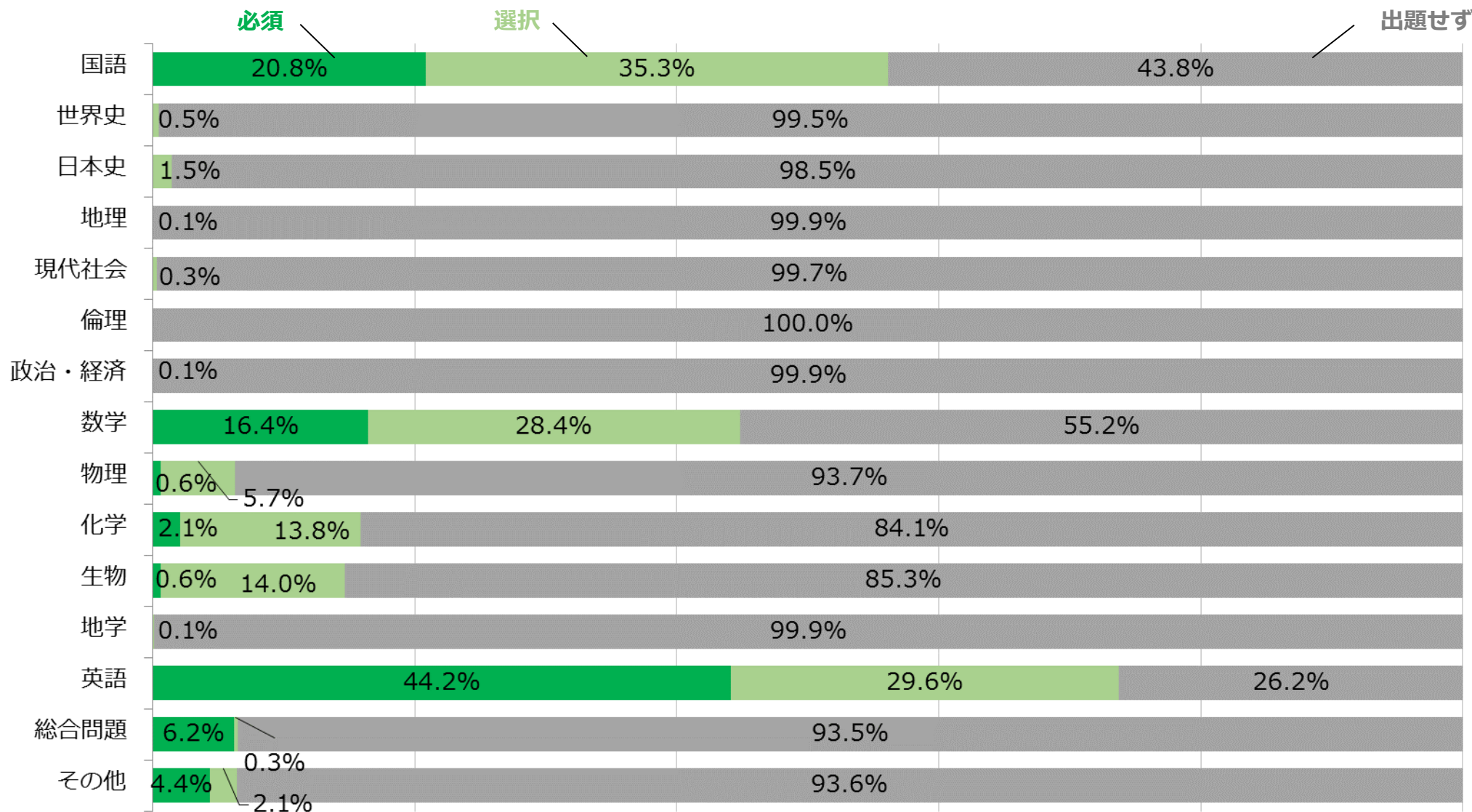
# AO入試での個別学力検査における各科目の出題状況

AO入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須+選択 44.3%）、数学（同 33.1%）、国語（同 27.2%）を出題する選抜区分が多い。



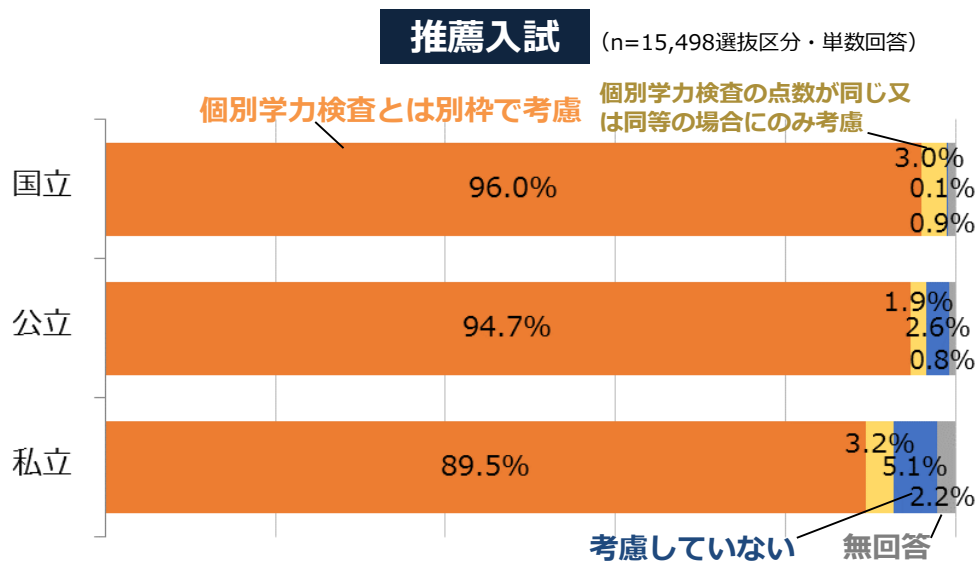
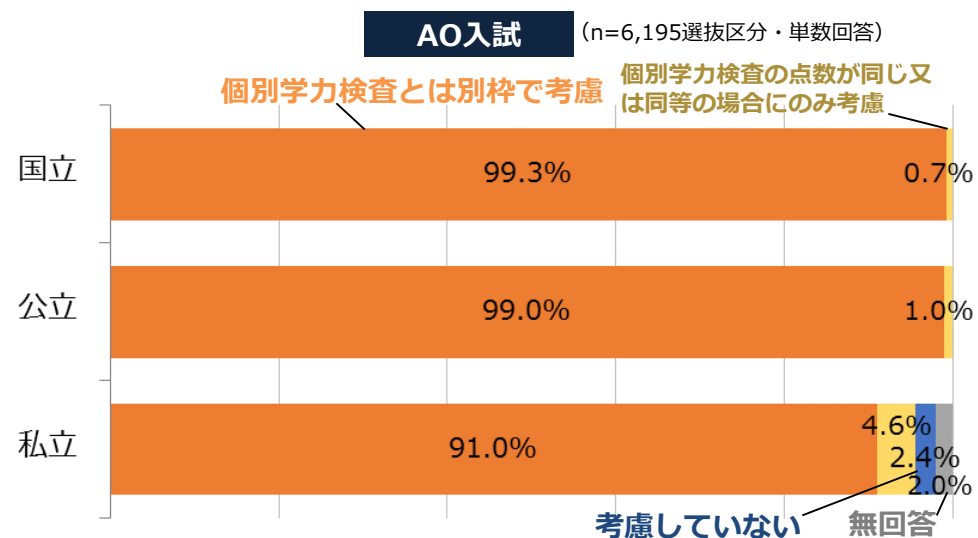
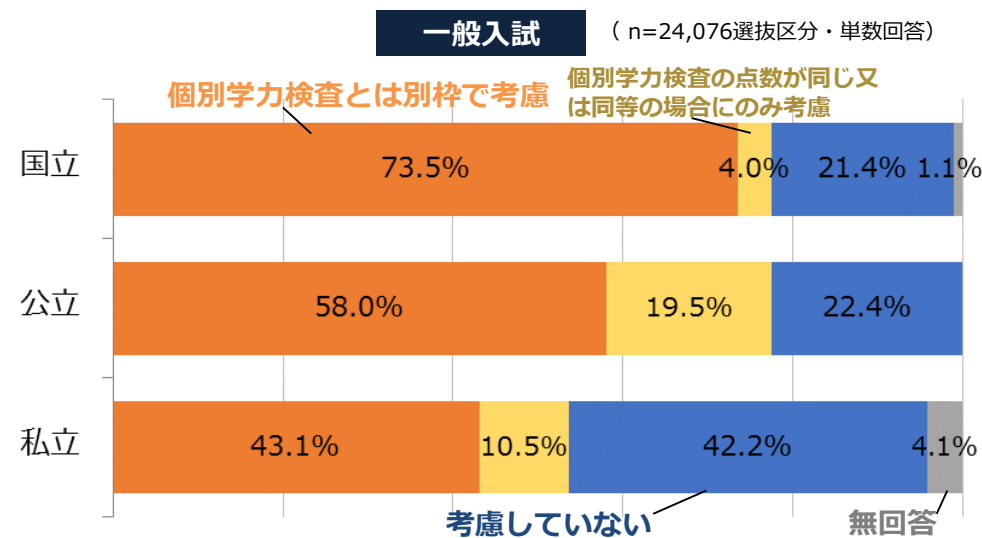
# 推薦入試での個別学力検査における各科目の出題状況

推薦入試で個別学力検査を課す選抜区分では、英語（必須＋選択 73.8%）、国語（同 56.2%）、数学（同 44.8%）を出題する選抜区分が多い。



# 学力検査以外の資料等の考慮

学力検査以外の資料等については、一般入試よりAO入試・推薦入試で活用されている。



## 【各選抜区分数】

### ○一般入試

国立：n= 2,622選抜区分  
公立：n= 691選抜区分  
私立：n=20,763選抜区分

### ○AO入試

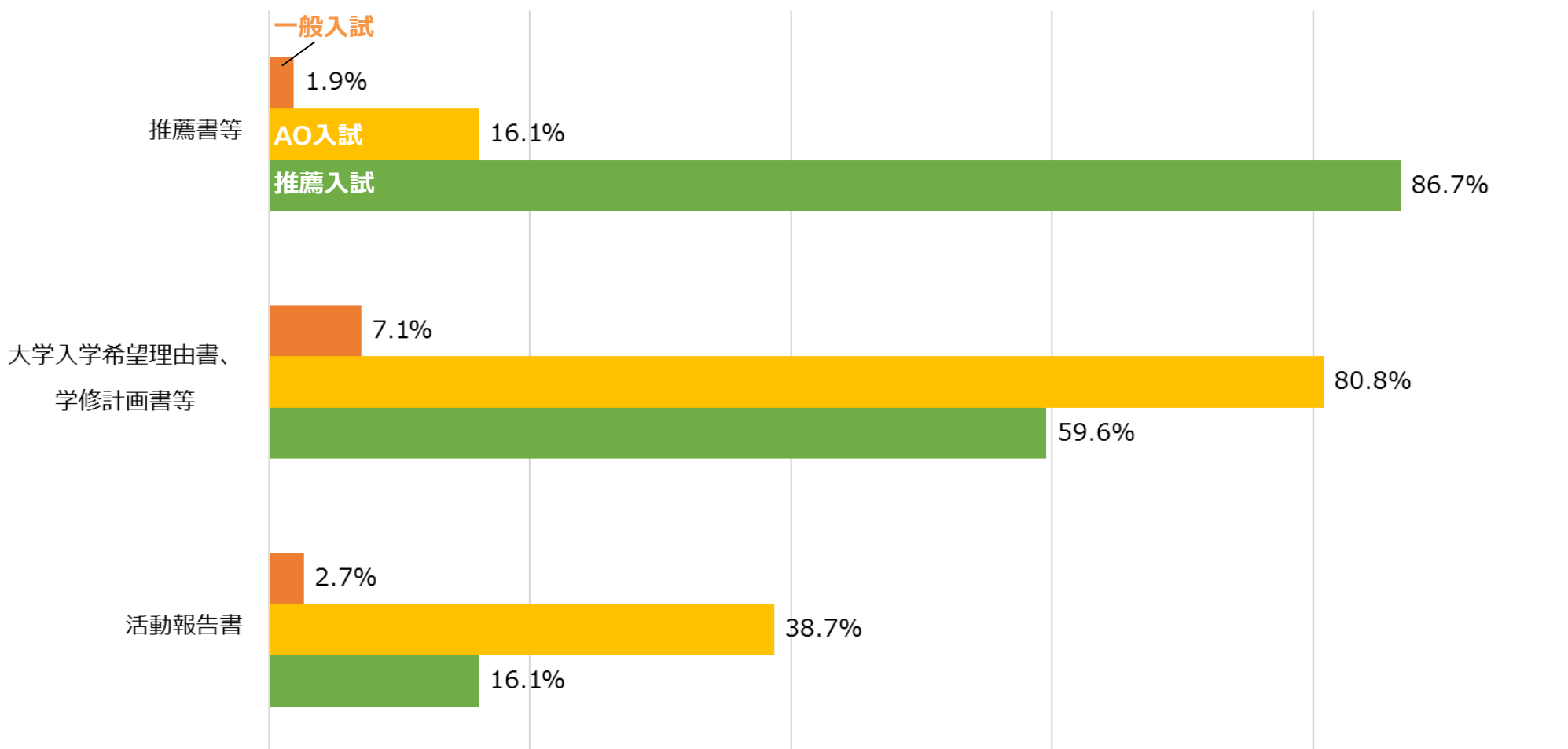
国立：n= 691選抜区分  
公立：n= 97選抜区分  
私立：n=5,407選抜区分

### ○推薦入試

国立：n= 1,288選抜区分  
公立：n= 532選抜区分  
私立：n=13,678選抜区分

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率①（書面）

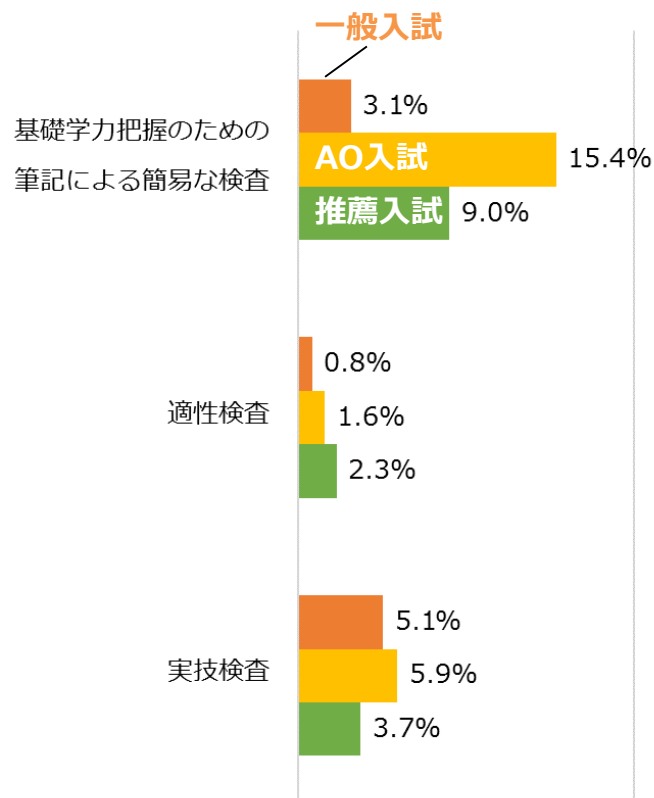
- 推薦書等を利用<sup>(※)</sup>する選抜区分は、一般入試が1.9%、AO入試が16.1%、推薦入試が86.7%である。
- 大学入学希望理由書、学習計画書等を利用する選抜区分は、一般入試が7.1%、AO入試が80.8%、推薦入試が59.6%である。
- 活動報告書を利用する選抜区分は、一般入試が2.7%、AO入試が38.7%、推薦入試が16.1%である。



※利用とは、当該資料を加点や換算を含む得点、総合評価、参考資料、出願資格として扱うことを指す（以下同じ）。

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率②（検査）

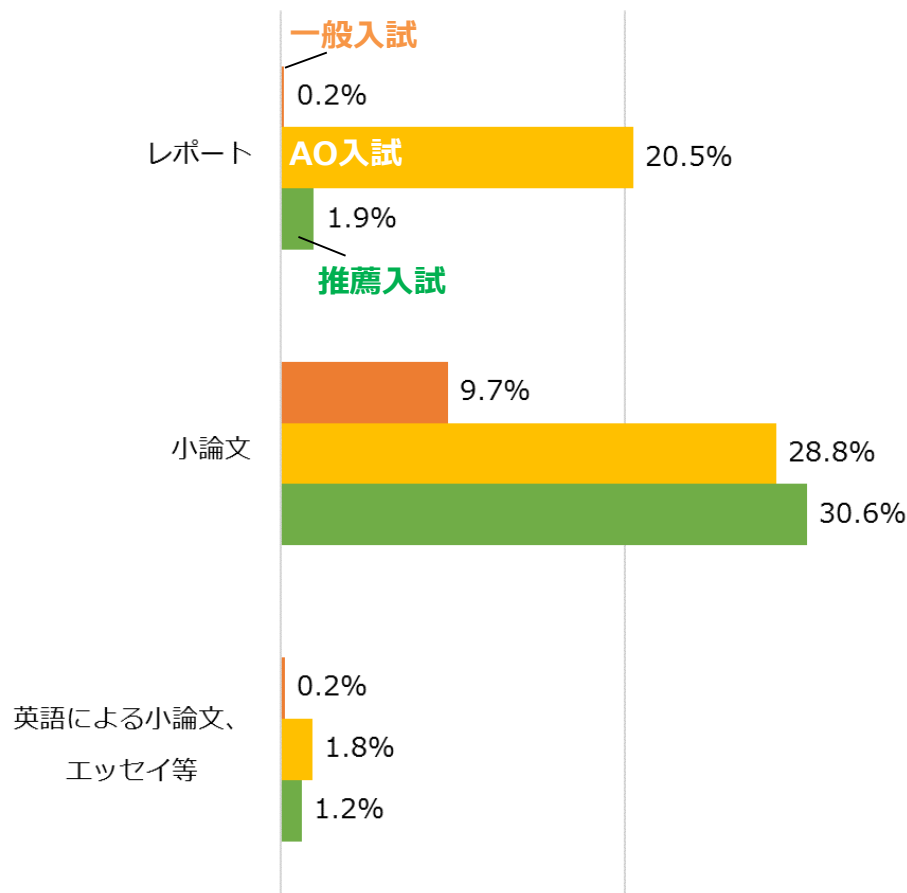
- 基礎学力把握のための筆記による簡易な検査を利用する選抜区分は、一般入試が3.1%、AO入試が15.4%、推薦入試が9.0%である。
- 適性検査を利用する選抜区分は、一般入試が0.8%、AO入試が1.6%、推薦入試が2.3%である。
- 実技検査を利用する選抜区分は、一般入試が5.1%、AO入試が5.9%、推薦入試が3.7%である。



一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答  
AO入試 n= 5,959選抜区分・複数回答  
推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率③（小論文等）

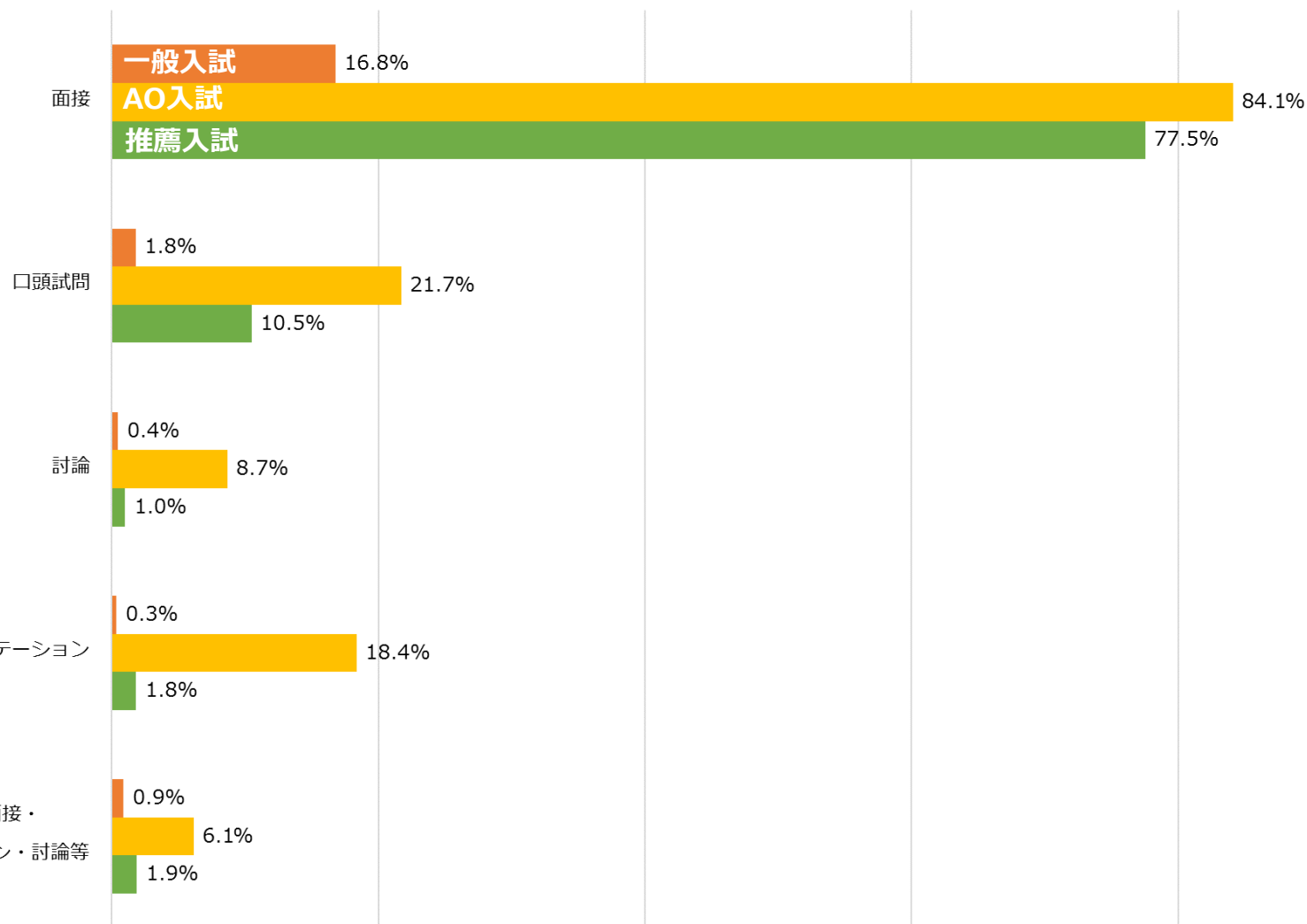
- レポートを利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が20.5%、推薦入試が1.9%である。
- 小論文を利用する選抜区分は、一般入試が9.7%、AO入試が28.8%、推薦入試が30.6%である。
- 英語による小論文、エッセイ等を利用する選抜区分は、一般入試が0.2%、AO入試が1.8%、推薦入試が1.2%である。





## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率④（面接・討論等）

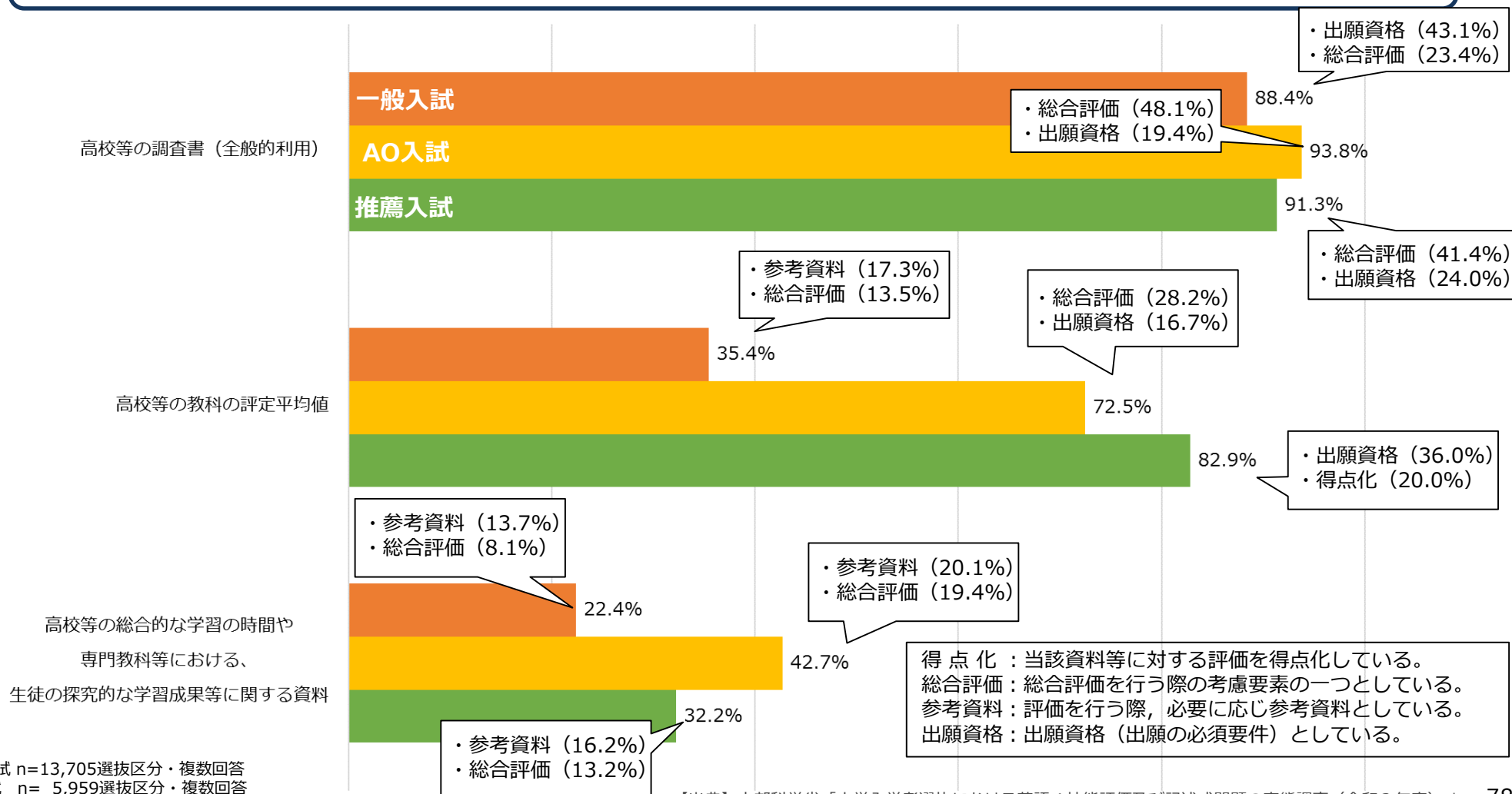
- 面接を利用する選抜区分は、一般入試が16.8%、AO入試が84.1%、推薦入試が77.5%である。
- 口頭試問を利用する選抜区分は、一般入試が1.8%、AO入試が21.7%、推薦入試が10.5%である。
- 討論、プレゼンテーションなどは、AO入試での利用が多い。



一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答  
 AO入試 n= 5,959選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

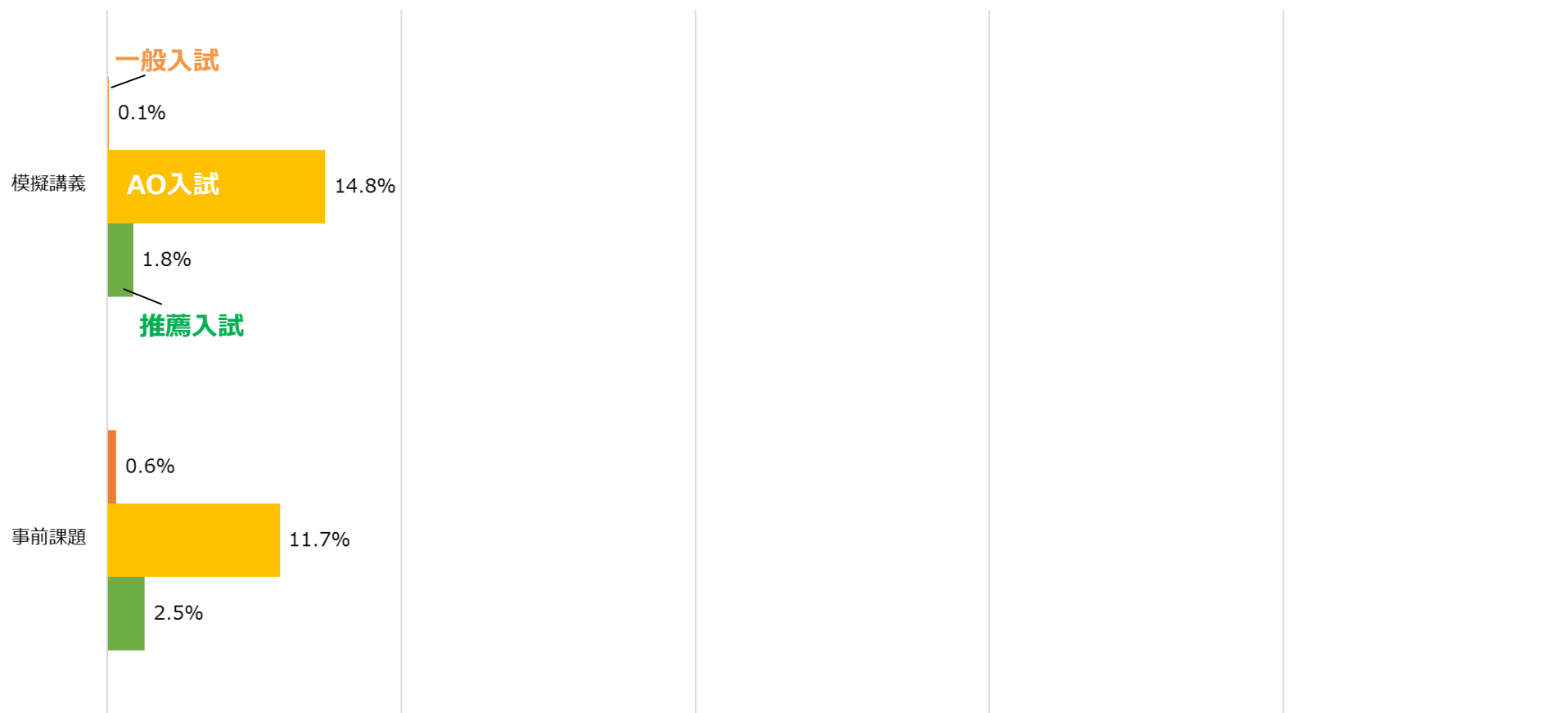
# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑤（高校等における学習成果）

- 高校の調査書を利用する選抜区分は、一般入試が88.4%、AO入試が93.8%、推薦入試が91.3%である。
- 調査書のうち教科の評定平均値を利用する選抜区分は、一般入試が35.4%、AO入試が72.5%、推薦入試が82.9%である。
- 生徒の探究的な学習成果等に関する資料を利用する選抜区分は、一般入試が22.4%、AO入試が42.7%、推薦入試が32.2%である。



## 学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑥（高大連携の成果）

- 模擬講義を利用する選抜区分は、一般入試が0.1%、AO入試が14.8%、推薦入試が1.8%である。
- 事前課題を利用する選抜区分は、一般入試が0.6%、AO入試が11.7%、推薦入試が2.5%である。



※ 模擬講義は、模擬講義等（実験等を含む）を受講することを要件とする選抜方法。また、模擬講義等の理解力等を問うレポート等も含む。

※ 事前課題は、予め受験生に課題を示した上で、後日回答（作品等を含む）を回収する選抜方法。

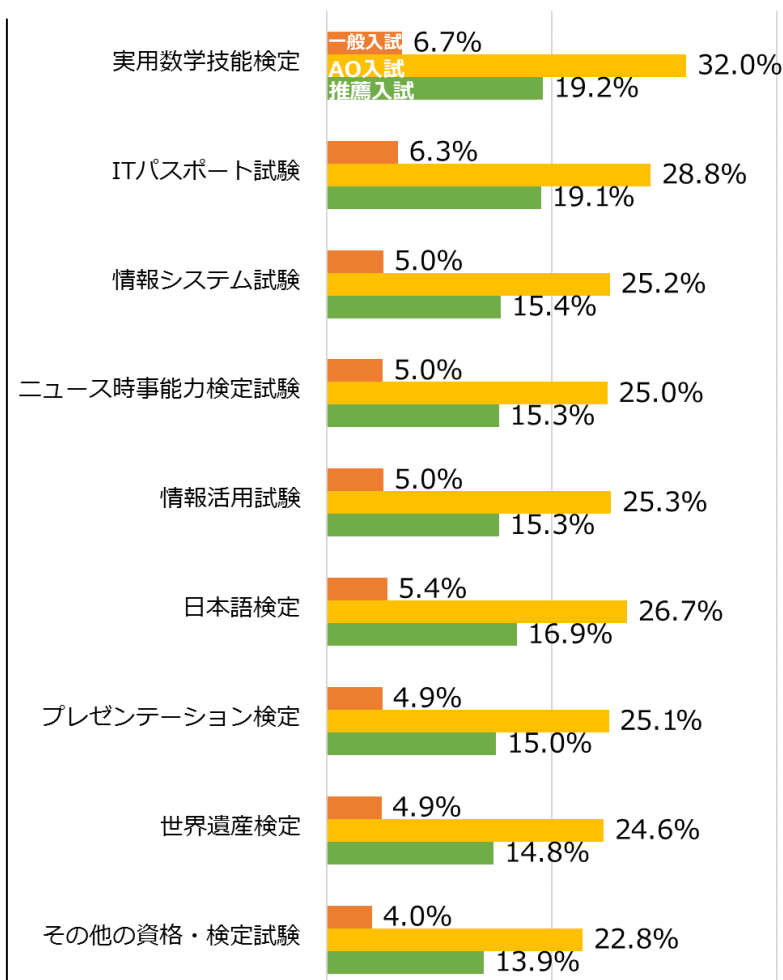
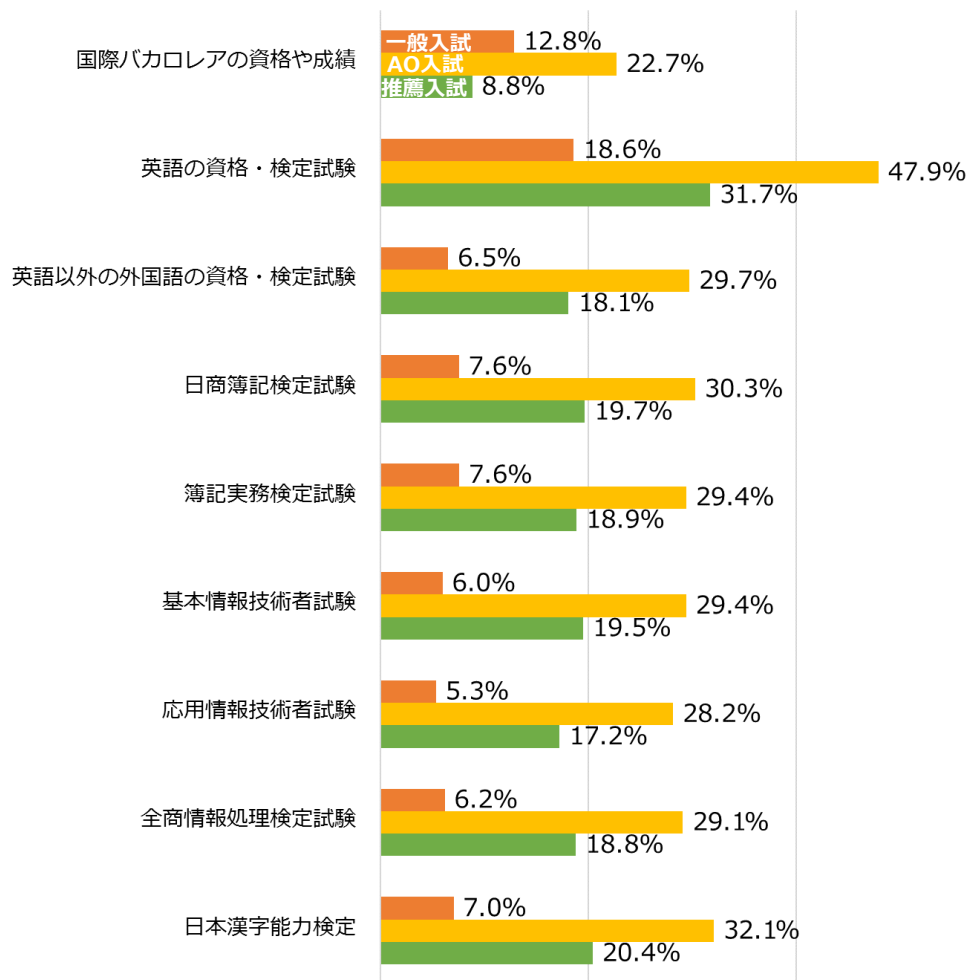
一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答

AO入試 n= 5,959選抜区分・複数回答

推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑦（資格・検定試験の成績）

英語の資格・検定試験を利用する選抜区分は、一般入試が18.6%、AO入試が47.9%、推薦入試が31.7%である。



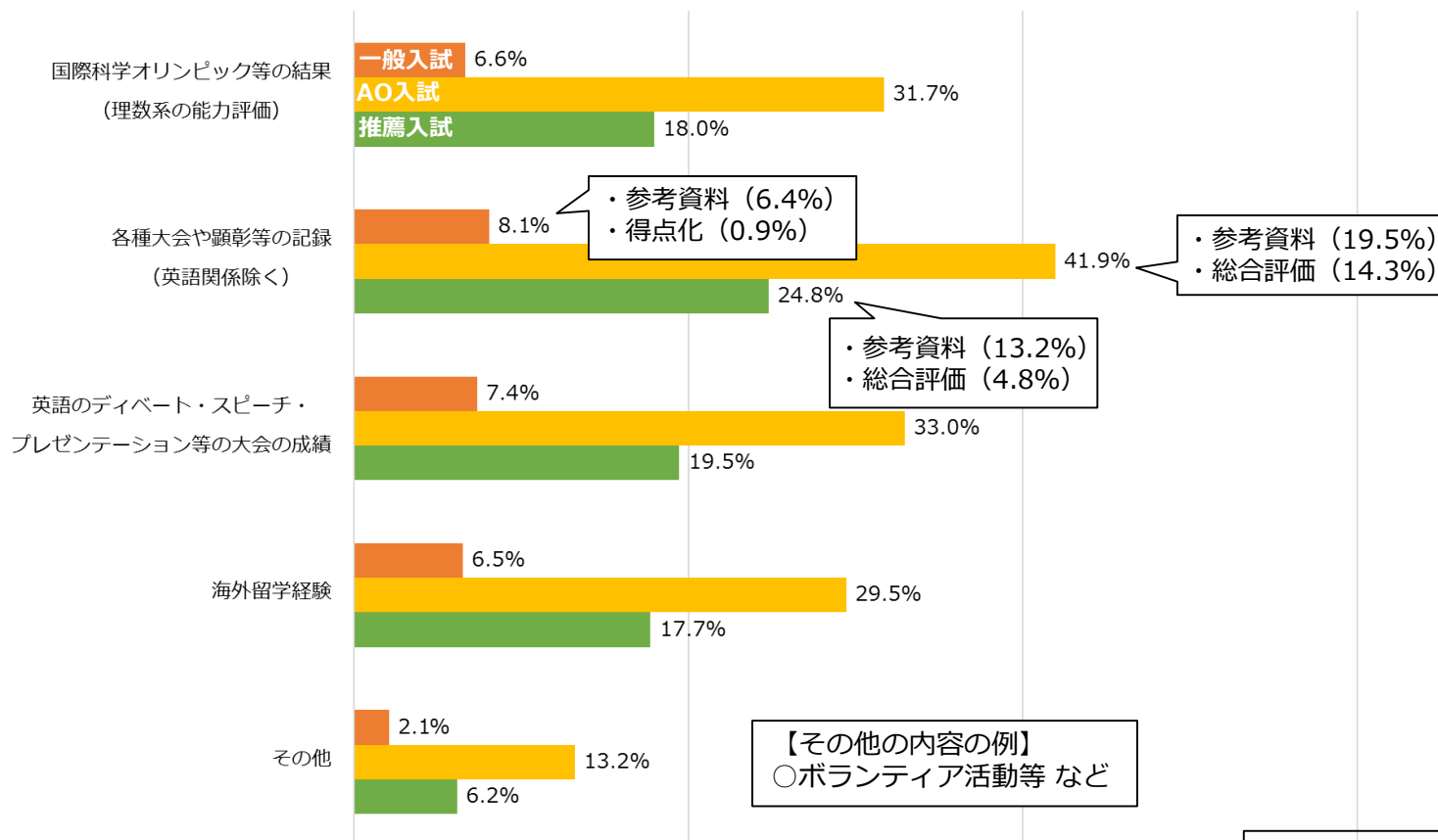
【その他の資格・検定試験の例】

○珠算 ○書道 ○全経簿記能力検定 ○全商商業経済検定 など

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答  
 AO入試 n= 5,959選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答

# 学力検査以外に考慮する資料等の利用率⑧（活動歴・顕彰・表彰）

- 各種大会や顕彰等を利用する選抜区分は、一般入試が1割未満、AO入試が3～4割程度、推薦入試が2割程度である。



得点化：当該資料等に対する評価を得点化している。  
 総合評価：総合評価を行う際の考慮要素の一つとしている。  
 参考資料：評価を行う際、必要に応じ参考資料としている。  
 出願資格：出願資格（出願の必須要件）としている。

一般入試 n=13,705選抜区分・複数回答  
 AO入試 n= 5,959選抜区分・複数回答  
 推薦入試 n=14,475選抜区分・複数回答